

活動年鑑 17

2021.5- 2022.4

青年技術士支援委員会

活動年鑑 17 2021.5 - 2022.4

目 次

- ・ 青年委員会 2021 年度活動報告
- ・ 例会グループ活動報告
- ・ 広報プロジェクト活動報告
- ・ IT 担当活動報告

【例会活動報告書】

- ・ 2021/5 部門横断企画 「日豪若手技術者による国際交流」
- ・ 2021/6 拡大委員会、懇親会
- ・ 2021/6 特別企画 「1 次・2 次合格者交流会」
- ・ 2021/7 部門横断企画 「技術士のための動画配信・YouTube 活用講座」
- ・ 2021/9 部門横断企画 「今日から君も孫子たれ！～自分らしいリーダーシップを見つけよう～」
- ・ 2021/10 内部企画 「自己紹介&例会決め」
- ・ 2021/11 全国大会関連 「2021 全国大会 青年の集い」
- ・ 2022/1 部門横断企画 「自分ふしき発見！？」～ストレンガス・ファインダーで探るワタシの謎～
- ・ 2021/2 部門横断企画 「福島原発事故から学ぶリスクコミュニケーション」
- ・ 2022/4 特別企画 「1 次・2 次合格者交流会」

【地域本部活動報告書】

- ・ 統括本部
- ・ 北海道本部
- ・ 東北本部
- ・ 北陸本部
- ・ 中部本部
- ・ 近畿本部
- ・ 中国本部
- ・ 四国本部
- ・ 九州本部

【青年委員自己紹介】

【青年委員会名簿 2021/7-2022/6】

青年技術士支援委員会 統括本部 2021 年度活動報告

青年技術士支援委員会 委員長 河野恭彦

本委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員・委員補佐により構成されている。また、委員には各地域本部より推薦された地域本部委員も含む。

今年度 7 月から青年委員会の活動体制が変わるとともに、委員会名称、活動所掌が変更する大きな節目の年となった。それに伴い、若手正会員向けを中心とした研鑽事業の企画・実施・指導といった活動等を行うことになった。

2021 年度においても、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により、対面での活動が困難であった。主な活動を以下に記す。

1. 各種例会の開催

青年技術士支援委員会の例会は、主として、参加者自身がアウトプットすることを通して研鑽できる場、参加者同士が交流できる場を提供することを目的に、グループワークや講演会を月に 1 回程度の頻度で開催した。

2021 年 3 月より対面での例会開催を見送っていたが、ワクチン接種に伴う新規コロナウイルス感染者数の減少に伴い、参加者はオンライン開催とし、青年委員会の運営側はコミュニケーションエラー防止のため、十分な感染症対策を講じた上で運営を行いつつ、例会を開催した。

各例会の準備状況、当日の状況といった各活動の内容については青年技術士支援委員会 HP に公開するとともに、プレスリリースを行い、当委員会の活動の広報活動も行った。

2. 1 次・2 次試験合格者交流会

2021 年度は、例年開催している青年技術士支援委員会主催『1 次・2 次試験合格者交流会』を昨年度に続き、オンラインで開催した。

1 次・2 次試験合格者及び JABEE 認定者（いずれも 45 歳以下に限定）を対象に交流の場を提供した。本交流会では、合格者同士の人脈形成を支援するとともに、技術士会への入会並びに青年技術士支援委員会への参画（地域本部同士の交流の活性化も含む）に向けた導線強化を図ることができた。

3. 各地域本部の青年技術士交流委員会との交流

2021 年 6 月 26 日に各地域本部の青年技術士委員会とのオンラインで拡大委員会を開催した。本会における地域本部活動報告では、各地域本部の活動の幅を広げるための気づきを相互に与える場として行われ、また懇親会では、統括本部と各地域本部の青年委員の交流を図ることができた。今後も継続して実施し互いの新たな学びの場として活かしたい。さらに、

統括本部や各地域本部が主催する例会にそれぞれの委員が参加して交流を深めた。

今後はオンラインテクノ等も追加して実施していくことも検討し、さらなる拡大委員会の質の向上に期待したい。

4. 2021 技術士全国大会 青年の集い「青年世代の技術者が次世代の主役になろう！」

技術士全国大会（創立 70 周年記念）関連イベントとして「全国青年の集い 2021」を開催した。本行事には全国からのべ 150 名の技術者が集まり、「青年世代の技術者が次世代の主役になろう！」をコンセプトに、①360° カメラと VR（仮想現実） ゴーグルを用いたオンラインテクノツアー、②参加者が目標を再認識するきっかけ作りを行うグループワーク、③バーチャル空間による立食パーティのような懇親会といった、青年世代ならではの柔軟な発想で企画された。各イベントに参加することで、未来を担う若手技術者としてこれからの自身の目標を設定するとともに、ともに成長できる仲間を得ることができた。また、研修委員会より技術士全国大会（創立 70 周年記念）の大会宣言の推薦を受けたため、当委員会委員長が大会宣言を行った。

5. 情報配信の取り組み

青年技術士支援委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2020 年度青年技術士交流委員会活動年鑑を制作した。

また、青年技術士支援委員会のホームページ、Facebook および Twitter を活用し、活動紹介、主催行事の事前広報及び事後報告を積極的に行った。ホームページは従来のものに加え、日本技術士会サーバーにも所定のフォーマットで作成した。

今年度はこれまでに引き続き、メディアを活用した活動情報の更なる配信を目指し、例会活動のプレスリリースを継続して実施した。建設通信新聞社等の複数の新聞社に取り上げられてきている。

6. IT インフラの整備

青年委員会の IT インフラで利用している機能について事務局と情報共有するとともに、現在の技術士会インフラへの代替可能性、技術士会インフラの現状について議論を行った。

7. 例会の新たな取り組み

当委員会ではこれまで例会決め大会で各月に行う例会の開催を検討してきたが、例会行事のジャンル別にチームを編成し、各チームで例会を開催するという新たな試みに挑戦した。その結果、各委員が興味のあるテーマに積極的に取り組むことができた。

以上

青年技術士支援委員会 2021 年度 例会グループ活動報告 (2021 年 5 月～2022 年 4 月)

例会グループリーダー 吉浦 勝一郎

1. 例会グループメンバー（敬称略、順不同）

臼井、佐藤、一川、村上、山本、杉山、高瀬、吉浦

2. 活動目的

コロナ禍に対応した“円滑に例会運営ができるサポート”を目的とした活動を実施した。
例会グループの役割を下記に示す。

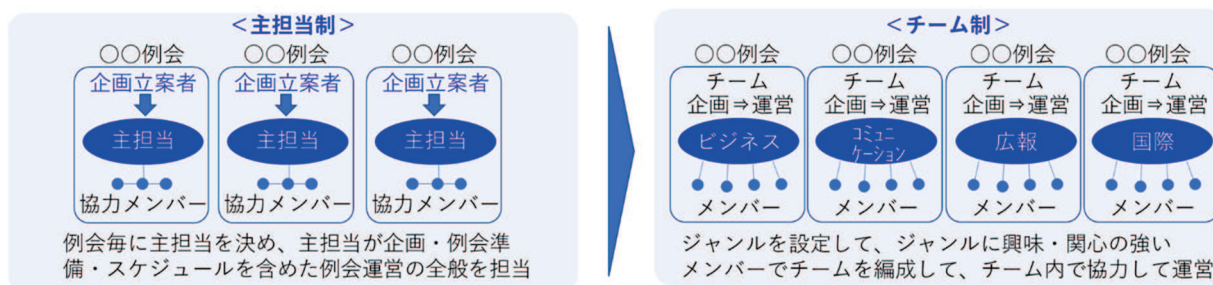
- ・ 例会準備状況の確認
- ・ 外部アンケートの実施と集計
- ・ 内部アンケートの実施とまとめ
- ・ 例会アンケートの振り返り、改善提案、周知、マニュアルへの反映

上記の役割に加え、今期は下記の活動を行った。

1) 例会決め大会・例会主担当制の変更

従来は、年間の例会活動計画を例会決め大会を実施し、例会案を全メンバーが発表し、協議し年間活動計画を策定し年間活動を行っていた。対面で長時間協議を重ねて行う例会決め大会のスタイルは、コロナ禍のオンライン開催ではそぐわない。また例会案の立案者が、主担当を務めるやり方は、主担当が例会立案から運営を行うため負担が大きくなりがちで、主担当に不測の事態が生じた場合に、他の青年メンバーが例会を引き継ぎ、例会を成立させるのが困難であった。さらに先の状況が見通せない中での年間計画の策定が難しいという問題もあった。

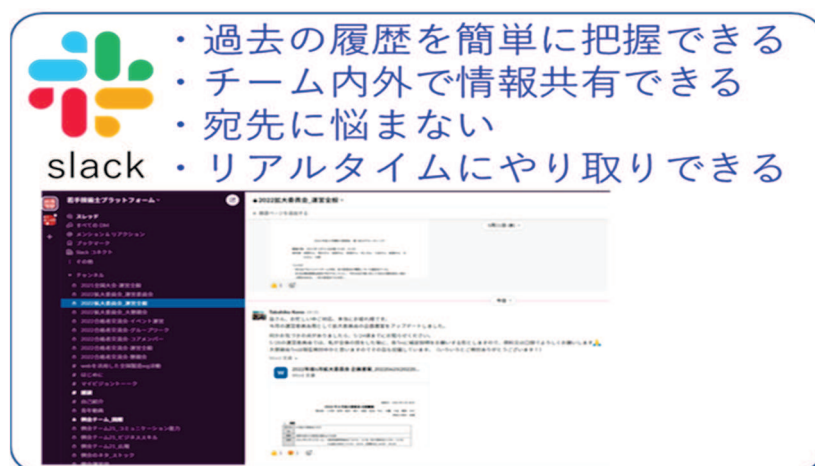
そこで今期の例会決め大会は、前・後半に分け、前半は完全オンライン例会とし、後半はその時点での状況を確認しながら例会決めを再度行うこととした。
従来の例会案を持ち寄り、協議を重ねて主担当を決定するやり方から、チーム制を導入し、青年メンバー全員が何れかのチームに所属する「チーム決め」を例会決め大会とした。具体的には、ビジネススキルチーム、コミュニケーション能力チーム、広報チーム、英語チームの4チームとした。青年メンバー全員が興味/関心のあるチームに所属する事で、チームが一丸となって例会企画の立案から運営を行い、オンラインでしか活動ができない状況下でのコミュニケーション不足の解消を目指した。



2) ビジネスチャットツール(Slack) の活用

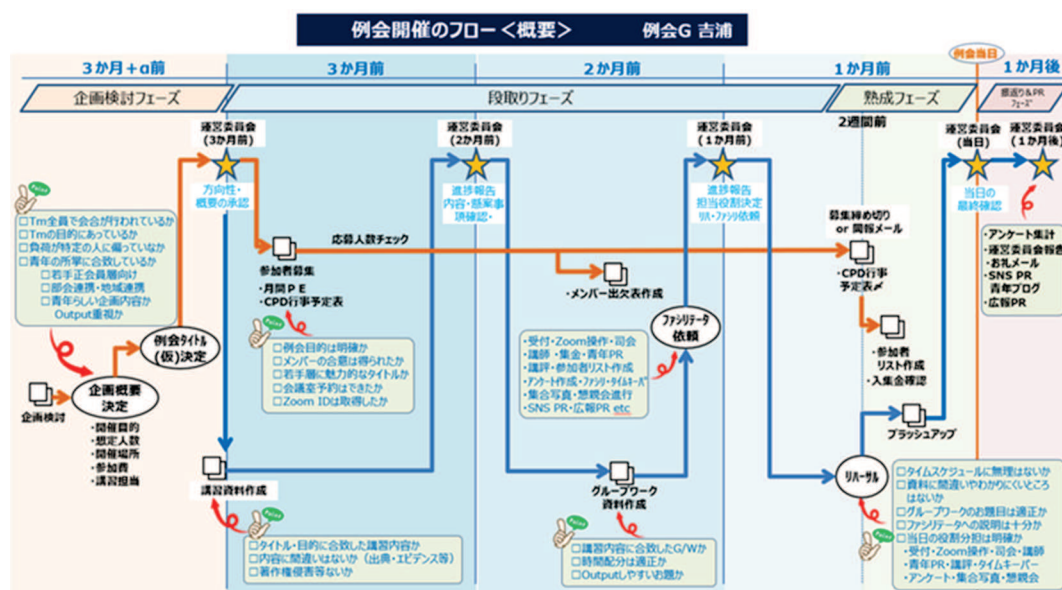
例会チーム内でのコミュニケーションツールとして、ビジネスチャットツール (Slack)を導入した。Slack 内に各例会チームのチャンネルを立ち上げ、Slack で準備資料の共有や打ち合わせ日時の決定等、些細なことでもチャットで気軽にコミュニケーションが図れるようにした。また、従来のメールでのやり取りでは難しかった過去の履歴を簡単に把握できたり、リアルタイムのやり取りが出来るため、オンライン例会を開催中の青年メンバー同士の連絡手段として活用できた。

この Slack を使用した例会運営のノウハウは、全国大会や1次・2次合格者交流会でも大いに活用することが出来ている。



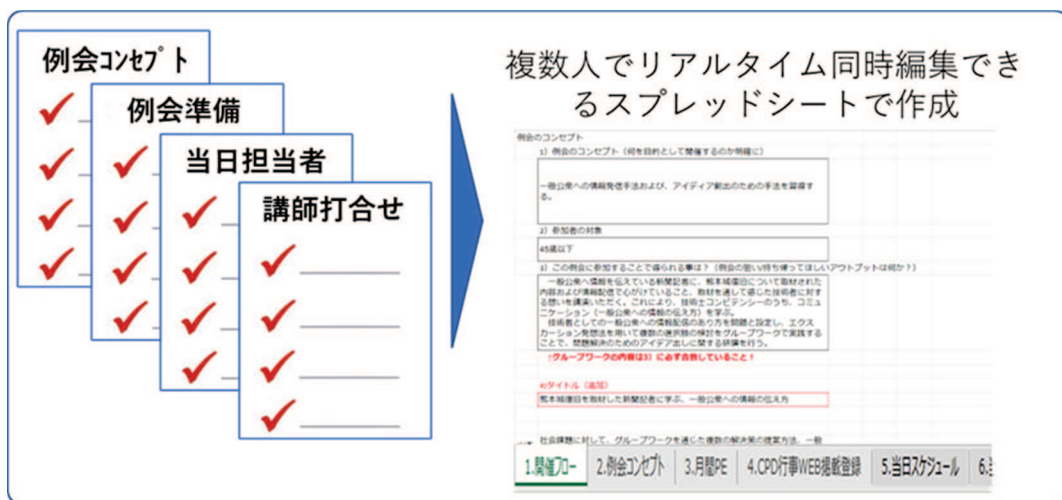
3) オンライン例会運営のフロー作成

従来は、主担当の裁量で企画や例会準備を行っていた部分が多かったが、例会チーム制としたことで、チーム内で認識を共有し計画や準備を進める必要が出てきた。そこで、例会運営のフローを作成することとした。具体的には毎月開催される運営委員会をトリガーとして、企画検討フェーズ、段取りフェーズ、熟成フェーズ、振り返りフェーズとし、時系列で進捗を確認できるフローの作成を行った。限られたリソースの中での業務遂行能力は、正に技術士コンピテンシーのひとつでもあるので、このフローが今後も活かされていくことを期待したい。



4) オンライン例会運営のチェックシートの作成

この件に関しても、例会チーム制の導入により新たに作成した。例会コンセプトや進捗の確認、担当分担による抜け漏れの確認、過去の例会における改善点等をチーム内で確認できるチェック項目を記載した内容とした。次年度に向け試験的使用中で、今後本格導入を行う予定だが、今後ブラッシュアップを含めチェックシートを活用することで計画的な運営準備の推進と質の高い例会を開催できることを期待したい。



5) ペーパーレス化(完全オンライン対応)の強化

オンライン化の例会に伴い、紙媒体の電子化の強化を実施した。紙媒体での例会内容のアンケート等、従来多くの時間を要していたアンケート集計、グラフ化作業の工数が大幅に削減することができた。会場開催が再開できた場合でもこの形式は継続していきたい。

＜ペーパーレス化対応＞

受付名簿	→ スプレッドシート
外部アンケートの記入	→ googleフォーム
講習資料の配布	→ パワーポイントのZoom画面表示
グループワーク用模造紙	→ スプレッドシート
CPD行事参加票配布	→ PDF化

3. 例会実績

2021 年度に実施した例会は以下の通りである。

実施年月	分類	例会
2021年5月	内部	日豪交流
6月	特別例会	1次・2次試験合格者交流会「ベストマッチ 技術士仲間を見つけよう」
2021年7月	部門横断	技術士のための動画発信・YouTube活用講座
9月	部門横断	今日から君も孫子たれ！～自分らしいリーダーシップを見つけよう～
10月	内部	自己紹介&例会決め
11月	全国大会	2021 全国大会 青年の集い
2022年1月	部門横断	自分ふしぎ発見！？～ストレガス・ファインダーで探るワタシの謎～
2月	部門横断	福島原発事故から学ぶリスクコミュニケーション
4月	特別例会	1次・2次試験合格者交流会

4. 次年度に向けて

今期は、オンライン対応への準備期間（内部例会）から、外部向けの例会を確実に実施できるようになった。オンライン例会では、物理的な距離の制約がないため、同報メールを使った全国への募集が有用で、各地域(一部海外)から参加した例会が可能となった。外部講師への依頼も同様で、福島など地方在住の方に講師を依頼する事も容易となった。

またアウトプットを重視する青年の例会では、グループワークをオンラインでも取り入れ、少人数でのブレイクアウトルームを設定し、共同編集できるワークシートを画面共有しながら、青年メンバーをファシリテーターとして各グループに設定する等、対面と遜色のない例会が運営できていると思われる。

ただ、心理的な距離の面では多少課題があり、例会後の親睦会では話しやすさや盛り上がるの面で対面を上回る親睦会ができておらず、新規の委員や委員補佐の獲得が低調になっている原因の一つと思われる。

今後は状況を見極めつつではあるが、今期のオンライン例会で培ったノウハウを会場開催で活かしたり、双方のメリットを取り入れた例会等、今までにないスタイルの例会が予想される為、変化に対応した運営サポートを行っていきたい。

以上

青年技術士支援委員会 2021 年度 広報プロジェクト活動報告

広報プロジェクト リーダー 岩部 然育

1. 目的

一昨年度より、広報グループの目的であった外部向け広報活動と、内部メンバー間の情報共有を分離し、前者を広報プロジェクト（以降広報PJ）、後者を IT 担当と位置付けて活動を行った。広報PJでは、青年技術士支援委員会(以降、委員会)の活動内容の技術士会内部・外部への発信、CPD 行事への集客、プレゼンスの向上を目的として活動を実施した。

2. 活動方針

広報活動をする上で、活動方針、活動の実施方法を以下に定めた。

1) 活動方針

1. 青年技術士支援委員会の活動及び成果を積極的に日本技術士会内外に PR する。
2. 技術士会員（特に若手層）や技術者に対して、魅力ある活動であることを積極的に PR する。
3. PR 対象は、日本技術士会内部（他委員会、各部会、事務局、正会員、準会員）及び関係学団体、一般の若手技術者、一般の企業及び公共団体とする。

注：ここでいう活動及び成果は、当委員会主催の活動及び委員会代表として参加した企画を指す。

2) 実施方法

1. CPD 行事予定表、月間 PE の掲載。
2. 同報メールによる情報発信
3. 公式ブログ、Facebook、Twitter 等の SNS を使った情報発信。
4. プレスリリースの投稿等による、報道機関を通じた広報活動。

3. 今期の活動と成果

1) 日本技術士会の同報メール、ホームページ、および月刊技術士誌への CPD 行事予定の情報発信

日本技術士会の広報媒体である同報メール、ホームページ (<https://www.engineer.or.jp>)、月刊技術士誌を使用し、例会開催情報等を発信した（行事内容の詳細は例会グループ報告参照）。日本技術士会リソースによる包括的な事前周知、およびウェブの行事参加申込機能の

活用により、参加者管理業務の効率化を引き続き進めた。

一昨年度から建設系 CPD 協議会 (<https://www.cpd-ccesa.org/>) へ例会内容を掲示し、例会開催情報を配信した。今年度は、行事予定表からの申し込みとは別に例会グループと協力して、Google フォームでの参加者募集・集計も行った。

2) 委員会外部に向けた、広報活動への取り組み

昨年度に引き続き、イベント参加希望者および潜在候補者に対して「漏れなく、かつ親しみやすく分かりやすい」情報提供を目指し、各種改善を行えるように環境を整えている。昨年度から継続している取り組み、本年度新たな取り組みとして以下を実施した。

① 例会内容のプレスリリース

例会の開催案内、開催結果をまとめたプレスリリースの作成と建設系新新聞社へのリリースによる広報活動を実施した。リリース作成企画と新聞掲載について下表にまとめた。

また、5月例会は、建設工業新聞社（記者）より直接問い合わせもあり、今後も CPD 行事の開催案内、開催報告について広報活動を行う。

リリース作成例会	リリース先	掲載新聞社
6月例会	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
7月例会	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞（公式ブログ、公式SNS）
9月例会	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
11月例会	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
1月例会	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
4月例会	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	—
5月例会	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	日刊建設工業新聞

② 例会内容の広報チラシの配布（継続実施）

例年実施しているが、合格者宛て郵送物に同封する合格者交流会の広報ビラを委員・委員補佐から各所属会社、学団体の合格者へも配布することで、同じコミュニティ内の合格者に向けた広報活動を実施した。

4. SNS の状況について

■ フォロワー数

Facebook のフォロワーが昨年の約 430 人から約 500 人に増えたが、昨年よりも全体的に閲覧者が減少していること、閲覧者における関係者（青年メンバー、OB・OG 含む）の割合は比較的多いため、新規フォロワー確保が今後の課題と考える。

	(2022 年)	(2021 年)	(2020 年)	(2019 年)
フォロワー数	494	428	353	—

* 2022/5/21 現在のフォロワー：494 人

5. 今後の活動・展開

既存媒体、外部メディア（新聞掲載）を活用した広報活動により、着実なベースアップ（知名度向上、新規参加者獲得等）とともに、委員会活動の円滑化に貢献できたと考える。プレスリリース、宣伝のビラなど掲示等新たな広報活動を継続して行ったことにより 2021 年度において、引き続きオンライン中心の例会ではあったが、若手世代の参加者の増加傾向がみられた。

今後は、今年度定めた活動方針のもと、委員会活動を技術士会内だけではなく、外部への情報発信と国内の学団体、各部門に関連する協会の若手の会や委員会など、同世代で構成されている団体と連携・コラボを行い、更なる飛躍に向けたサポートを行う。そのために、以下の項目についてプロジェクトメンバー、委員会内で議論・検討を深めていく。

- ・ 委員会活動をプレスリリース、YouTube を活用した PR
- ・ 地域本部と広報活動における連携強化
- ・ 各委員、委員補佐の学団体、関連協会とのコラボレーションや相互の意見交換の活性化
- ・ 新委員も含めた名刺の作成と各メンバー所属コミュニティーへの広報活動
- ・ ブログ・Facebook の閲覧数増加のための工夫（映え）・コンテンツ強化
- ・ Twitter での広報・宣伝活動の強化
- ・ オンラインサロン（現在参加者 61 名）を活用した地域連携、参加者とのネットワークのさらなる構築

以 上

青年技術士支援委員会 2021 年度 IT 担当活動報告

IT 担当 一川 雄一

1. グループメンバー

佐藤、三谷、一川

2. 活動目的

前期に引き続き、IT 基盤の維持及び内部メンバー間の情報共有を目的として活動を行った。2021 年度の予算編成で青年委員会の IT 予算の承認が下りておらず、青年委員会の活動に重大な影響を及ぼす可能性が高かったため、日本技術士会事務局との協議を緊急対応した。

3. 今期活動と成果

① サーバ保守

青年ブログやマニュアルの Redmine、ファイルサーバの OwnCloud に利用しているサーバの維持・管理、及び以下の契約更新・サーバ設定対応等を実施した。

用途	契約先
ドメイン名 (peyec.jp)	VALUE DOMAIN
SSL 証明書	さくらインターネット
サーバー (東京)	さくらインターネット
サーバー (大阪) バックアップ	さくらインターネット

② ML (メーリングリスト) の整理・管理

期替わりの体制変更に伴い、ML の全体的な更新や用途に応じた新しい ML の作成及び管理を行うとともに、ML の適切な運用に努めた。

③ アカウント管理

期替わりの体制変更に伴い、管理者アカウントや IT 基盤の利用者アカウントの棚卸、例会担当用 ML や参加者用 ML への登録アドレスのメンテナンスを適宜行った。

④ IT インフラに関する日本技術士会事務局との協議

2021 年度の予算編成において、青年委員会の IT 予算の承認が下りていなかった。青年委員会の活動に重大な影響が出るため、日本技術士会事務局との協議を進め、2021 年度のサーバ契約は無事に契約更新し、2022 年度の予算も確保された。今後の方針概要は以下の通り。

機能	方針概要
ホームページ/ブログ	技術士会公式 HP を活用し、青年独自 HP はブログに特化
ファイル共有	現行サービスを利用継続
メーリングリスト	現行サービスを利用継続
Web ミーティング手段	技術士会予算を利用する場合、Teams を利用

4. 今後の活動・展開

次年度も引き続き IT 基盤の維持・運用を行う予定である。日本技術士会事務局との協議結果に従い、まずは広報 G と協働して、ホームページ/ブログの対応を進めたい。

以上

例会活動報告書

行事名	5 月例会：日豪若手技術者による国際交流
日時	2021 年 5 月 23 日（日） 14:00～16:00
場所	オンライン
担当者：	河野副委員長、原田委員、高木委員、明山委員補佐、国際グループ
参加者数	15 名（青年委員会各地域本部及び青年委員会 OB/OG、オブザーバ参加者含む）

1 背景・目的

2019 年 11 月に WEC2019 への参加を通して、オーストラリアの若手技術者とのつながりを構築することができた。そのつながりを通して、翌年の 2020 年度から若手有志の活動の一環として交流を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、対面上での交流は難しい状況となった。そこで、本状況を考慮し、今後のオーストラリアとの継続的な交流を図るため、web を通して日豪間の若手技術者による国際交流が行われることとなった。

若手有志による日豪交流を通して、日本の若手技術者が国際的な視野を身に付けるとともに、英語学習に対するモチベーション向上を目的として、本例会を開催する。

※詳細は後述するが、先方とのミスコミュニケーションにより、オーストラリアの若手技術者との交流が出来なかった。

2 例会内容

(1) 本例会の開催方法の変更に関する説明

本例会の主担当の河野より、オーストラリアの若手技術者との交流が出来なくなった経緯、理由の説明を行った。詳細は後の「本例会を通した振り返り」の項で記載する。

(2) 参加者の自己紹介

参加者から 1 人ずつ簡単に自己紹介をして頂いた。（名前、出身、部門、今回参加した動機等）

(3) 青年委員会の活動紹介

高木委員、明山委員補佐、徳原オブザーバより、当初オーストラリア側に紹介する予定であった「青年委員会の活動紹介」について、スライドを用いて英語で説明を行った。

(4) 国際委員会の田角委員（青年 OG）からの日本技術士会の国際活動の紹介

青年 OG の田角氏（現国際委員会委員）より、本例会前日に行われた、日本技術士会の国際活動報告会の概要紹介、そして今後の日本技術士会の国際活動の展開について、青年委員会の組織名称、活動所掌が変更になる可能性があることも触れられた上でご説明頂いた。

(4) 各参加者が考える今後の日本技術士会での国際活動について

上記（3）で田角氏が提供して頂いた内容をもとに、各参加者が考える今後の国際活動について、自由にご意見を頂いた。今後、青年委員会の活動所掌から国際活動が削除される見込みであることを考慮した上で、各参加者より国際活動は青年層にとって重要なものであるとの、従来通り活動を展開したいこと、そして日豪交流についても、現在は公式的な活動とは認められていないものの、日本技術士会として正式な受け皿を設置して頂き、継続的な交流を続けていきたいなどの意見が出された。

3 本例会を通した振り返り

今後の青年委員会の予想される国際活動を考慮した上で、主担当者として、反省点を含めて、以下の通り、今回の例会を振り返りたい。

- ① 本例会ではオンラインにより、オーストラリアの若手技術者との交流を実施するという難しい企画にチャレンジした。企画を進める上で、オーストラリア側がこちらより若手（主に学生や 20 代の社会人）であることを考慮し、こちらがリードして、当日の交流のアジェンダや進め方を提示し、先方から了解を得た上で進めてきた。しかし、開催前日になり、こちらが指定したオンライン形式の Zoom ではなく、Webex を使って行いたいとの申し出があった。既に

会議参加者へは、Zoom で行うとお伝えしたため、開催前日の変更は難しく、本交流は延期せざるを得ない状況となった。このように、今回の例会が当初の思惑通りに進められなかったのは、先方とこちらのコミュニケーションが十分でなかったことが原因であると考えられる。今回のように、メールのみの調整ではそのような事態が起こり得るため、今後はメールだけでなく、事前にオンライン打合せをするなどして、相互のミスコミュニケーションがないように努めたい。

- ② 急遽、オーストラリア側の若手技術者が参加できない状況にはなったが、当初予定されていた日本側の参加者が全員ご出席して頂いたのは有難かった。本例会に参加した方にとって、有益な機会となるように、アドリブの部分も多かったが、青年委員会の担当者の協力のもと、本例会を実施することができた。急遽、このようなトラブルが発生しても、本例会を進めることが出来たのは、本例会担当者の多大なご協力やサポート、また参加者が本状況をご理解して頂いたおかげであると考え。ここで、改めて関係者の皆さんに心から感謝を申し上げたい。

- ③ 青年 OG の田角氏が現国際委員会委員の立場で、日本技術士会が抱える国際活動の問題点や現状をご提供いただいたのも、本例会が有益な機会となった大きな要因の 1 つである。急な申し出にも関わらず、当日に上記内容をご説明して頂いた田角氏には感謝申し上げたい。

今後、青年委員会の活動所掌から国際交流が削除される見込みであることを受け、青年委員会としての国際交流が縮小していくことが懸念される。しかし、このような状況の中でも、国際活動に関心のある同志で、今後の日本技術士会の国際活動について、意見交換出来たことは非常に良い機会であった。

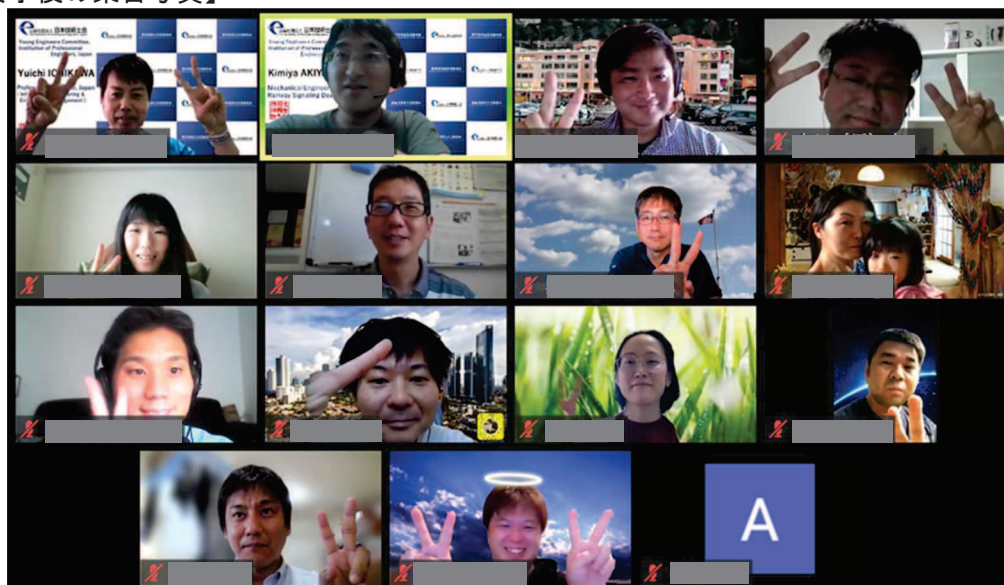
オーストラリア若手技術者との交流については、今後日本技術士会の正式な受け皿が決定するまでは、若手有志の会として展開していくことで、国際活動が参加者にとって望む形となる可能性を共有することができた。そのような今後の日本技術士会の国際活動の話が出来たことは、本例会の主担当者として大変有難い話であった。

4 今後の展開

前項で抽出した今回の成果・反省点及び改善策案を、例会担当者が次の若手有志によるオンライン例会を担当する時に大いに活用する。仮に国際委員会が日豪交流の正式な受け皿となった場合は、国際委員会、研修委員会等と連携しながら進めていく必要があることも申し添えておきたい。

5 実施状況

【本例会終了後の集合写真】



以上

行事名	6 月：1 次・2 次試験合格者交流会「ベストマッチ技術士仲間を見つけよう」
日時	【ワークショップ】6 月 12 日（土）[午前の部]9:30～12:30 / [午後の部]14:00～17:00 【懇親会】6 月 19 日（土）18:00～21:00
場所	オンライン(Zoom)、機械振興会館（運営スタッフ）
担当者： （○:主担当）	○田中(雅)委員、田中(仁)副委員長、河野副委員長、鈴木委員、小塚委員、一川委員
参加者数	【ワークショップ】[午前の部]32 名 / [午後の部]33 名 【懇親会】39 名（+ 青年 14 名）

1. 背景・目的

毎年恒例、技術士第一次・第二次試験の合格者を対象とした交流会をオンラインで開催する。ワークショップ、懇親会を通じた研鑽の機会および交流の機会を提供する。できるだけ多く参加者が今後も付き合える仲間を見つけられるような企画とする。

2. 内容およびタイムスケジュール

(1) ワークショップ

[午前の部の場合（午後の部も同内容（開始は 14:00～）]

09:30-09:50 最初の挨拶、委員長挨拶、注意事項、グループワーク説明

09:50-10:00 プロフィールカード作成(部門、趣味、技術士になったらやりたいこと、動物イメージ等)

10:00-12:20 4 人程度/グループ（※青年メンバーは入らない）に分かれて、グループワーク 4 回

1 プロフィールカードに沿った自己紹介

2 他己紹介(1) (動物イメージ、趣味)

3 他己紹介(2) (動物イメージ、技術士になったらやりたいこと)

4 好印象同士のグループ(Google アンケートを元にグループ分け)にて、
グループでのコロナ中/後の活動を企画

12:20-12:30 最後の挨拶、次回懇親会案内、アンケート

(2) オンラインサロン(Slack)への追加、運用

参加者全員および例会担当をオンラインサロン(Slack)へ追加し、継続的なコミュニケーションを図った

(3) 懇親会

18:00-18:30 最初の挨拶、注意事項、青年技術士交流委員会の紹介

18:30-20:30 グループトーク（4 人程度/グループ、8 人程度/グループ ※青年メンバーも入る）

20:30-21:00 全体で歓談、突撃インタビュー、最後の挨拶、アンケート

21:00- 青年委員会の活動に興味がある関東在住者を対象に 2 次会開催

3. 成果と所感

(1) ワークショップ

ワークショップでは、他己紹介された相手のうち、好印象の参加者を 1 名選択して、好印象同士のグループを作るという仕掛けを取り入れた。この仕掛けにより、

- ①他己紹介する側・される側両方の人となりが分かる
- ②実際に会ったことのない相手を選ぶことでより興味が出る
- ③好印象の相手として選ばれなかったとしても「他己紹介だから」と解釈できる

等の効果が出るを考える。また、「参加者同士の継続的な交流」を目的としていることから、話すテーマも極力シンプルなものにした。司会も 2 名体制で明るく楽しい雰囲気になるように冗談を取り入れながら行った。また、青年メンバーが機械振興会館に集まることで司会の後から笑い声が聞こえて楽しさを伝達することもでき、例会を盛り上げた。以上の取り組みにより、参加者アンケートから、概ね好意的な評価を得た。

今回、当日のキャンセル者が 1 名のみであった。事前に参加者にグループ分けの参考とする動物イメージを確認したこと、ワークショップのリマインドメールを送ったことが功を奏したと思われる。音声が届切れる、回線が落ちる等の問題が生じた際の問い合わせ者をあらかじめ決めて参加者へ通知しておくことで、トラブル回避につながった。

改善点としては、以下が挙げられる。

- ①ワークショップのリマインドメールや個別やり取りが特定の担当者に負荷がかからないように分担する
- ②入室時の参加者名の確認やグループ分け等を特定の担当者に負荷がかからないように分担する
- ③音声が届切れる等の PC・ネットトラブル対応、グループワーク時のより効果的なアナウンス方法

等が挙げられる。

今回はオンラインでの開催としたが、主要な担当者は機械振興会館に集まり、ワークショップを運営したことで、スムーズかつ柔軟に当日の運営を行うことができた。

(2) オンラインサロン(Slack)

参加者は密に連絡を取り合っており、適宜青年メンバーでサポートを行った。個別にオンライン交流を実施したグループもあり、継続的な交流を行うには最適な取り組みだったと考える。

等の意見が寄せられた。

一方で Slack にログインできない等の問題も生じた。また「自身のアドレスは公開されるのか」「有料なのか」といった問い合わせがあった。今後 Slack を活用していく場合は、Q&A を含めたマニュアルの準備が必要と考える。また、オンラインサロンの管理・運用等、特定の青年メンバーの負荷が大きかったため、あらかじめ分担を決めておくことも必要である。

参加者アンケートに寄せられた意見の主なものは、次の通りである。

- ①Slack を用意したのは良いアイデア
- ②グループによっては活用されていない
- ③慣れないうちに 1 週間が経過した

(3) 懇親会

1 週間後の懇親会ではワークショップの午前午後メンバーが一堂に会することで、また新たな出会いをすることができた。ランダムな 4 人グループで歓談後、2 つのグループを合体させて 8 人グループで歓談する、女性のためのブレイクアウトルームを作る、ブレイクアウトルームに青年メンバーが入るなど、交流しやすい場づくりを推進した。また当日は、グループトークの時間が足りないことが分かり、臨機応変にグループトークの時間を延長する等の対応を実施した。これらの取り組みにより、参加者アンケートには、

- ①楽しい時間を過ごすことができた
- ②技術士会の中でも最も活力のある活動ではないかと感じた
- ③青年委員会の活動に興味がある

等の好意的な声が多く寄せられた。

改善点としては、以下が挙げられる。

①もっと二次会に参加してもらえる仕組み（前週のアンケートに青年の活動に興味があるかを問う項目を入れておき、事前に二次会に誘うなど）

②懇親会を出入り自由にしたことによる、入室管理やグループ分けの作業分担

4. 今後の展開

合格者交流会は毎年実施しているイベントであり、コロナ状況によっては来年度の合格者交流会もオンライン開催となる可能性がある。本会は、他己紹介、Slack 等の仕掛けを入れることで継続的な交流を行う上で非常に有効な例会であったと考える。Slack については、書き込み等で人となりが分かること、ダイレクトメッセージが送りやすいことから新規青年メンバー獲得という点でも有効であると考え。来年度もオンライン開催で行う場合は、本会の取組みは参考にしうる。またオンラインでなくリアル開催の場合でも、Slack 等の仕掛けを入れることは有効と考えられる。

ただし、複数メンバーで綿密な担当割り振りを行う、ネット接続や音声配信に配慮する等の対策を講じる必要がある。

今回のオンライン開催では参加者の制限を設けなかったため、すぐに参加者が集まり、新合格者（青年層）のキャンセル待ちが発生した。以下に対応するため、今後は対象を新合格者や青年層に絞るなどの対策が有効と考えられる。

①過去に問題のあった方の参加回避

②更なる交流の促進（世代が近いなど、共通点の多い参加者の交流）

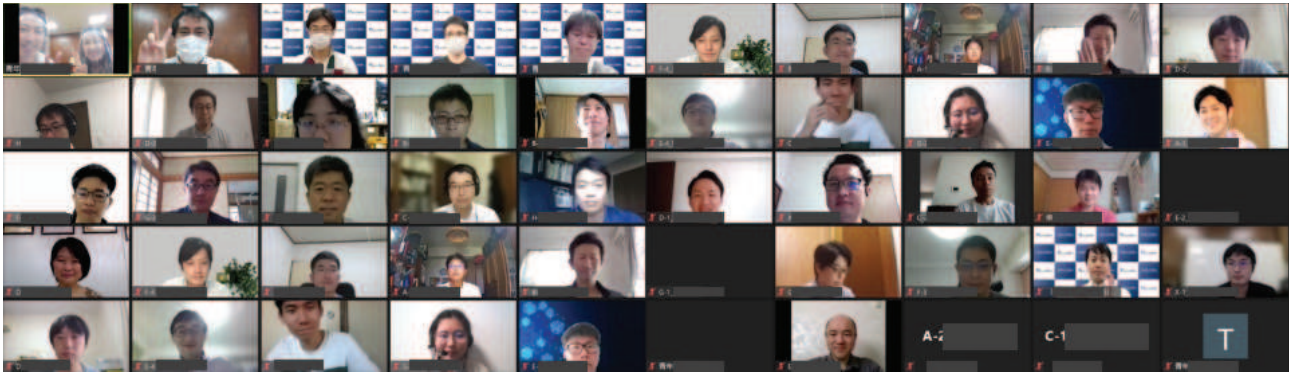
5. 実施状況

ワークショップ

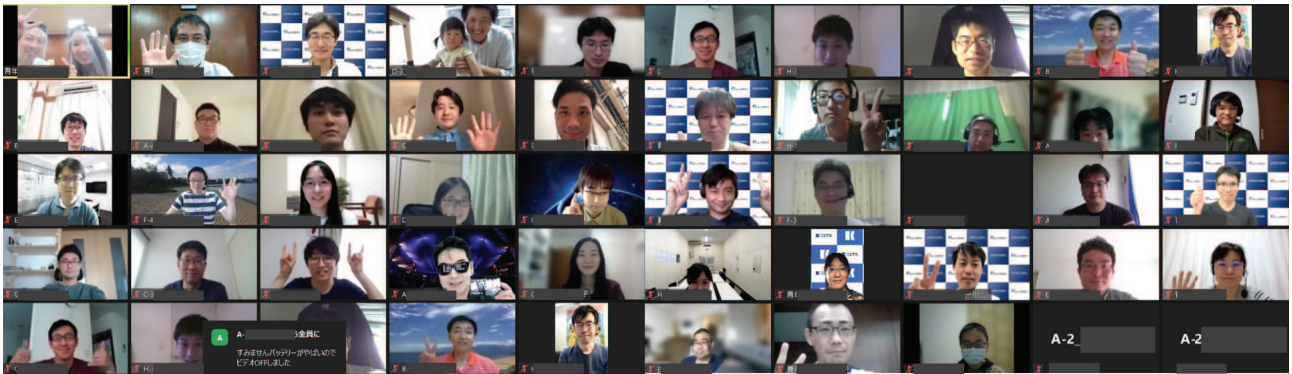
（機械振興会館での運営の様子）



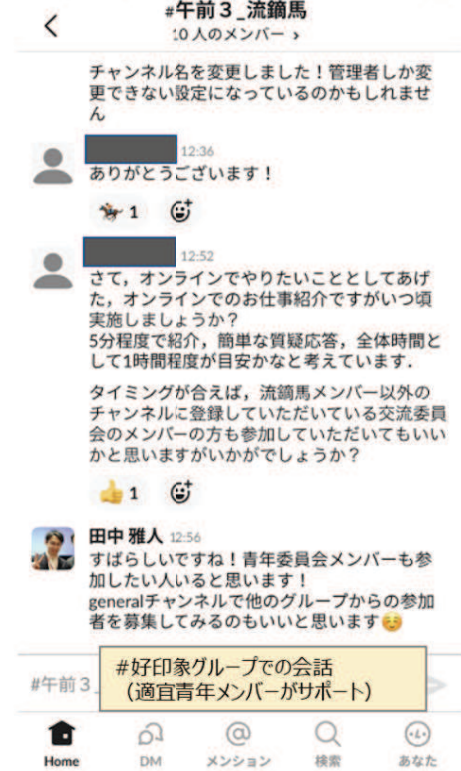
(午前の部)



(午後の部)



Slack 画面



懇親会



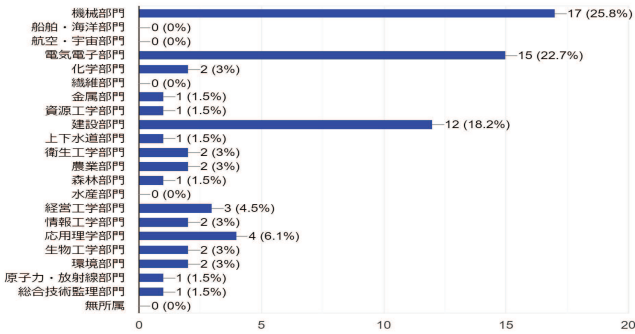
以上

2019年6月例会・懇親会 外部アンケート集計

Q1.あなたご自身についてご記入ください。

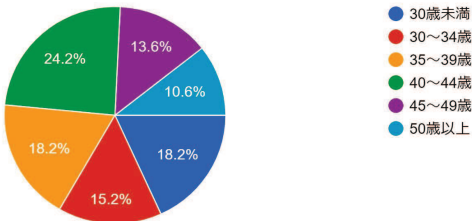
技術部門

2.技術部門
66 件の回答



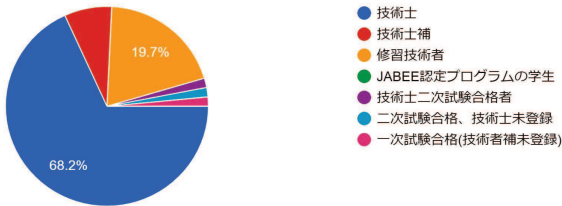
年齢層

年齢層
66 件の回答



会員層

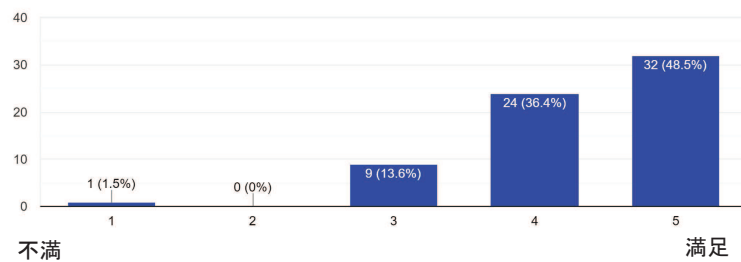
会員層
66 件の回答



Q2-1.今回のイベントについて

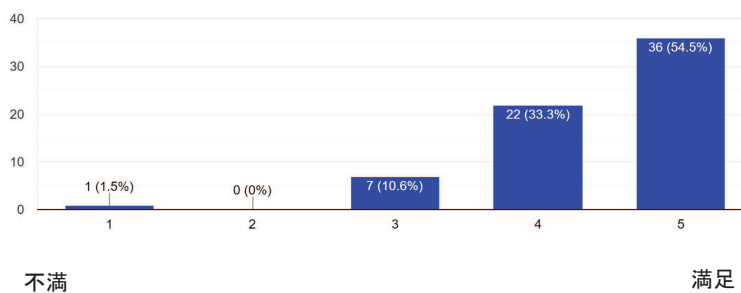
1. 交流会の内容

66 件の回答



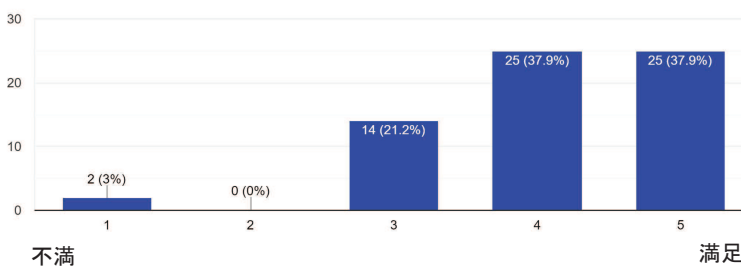
2. スタッフの対応

66 件の回答



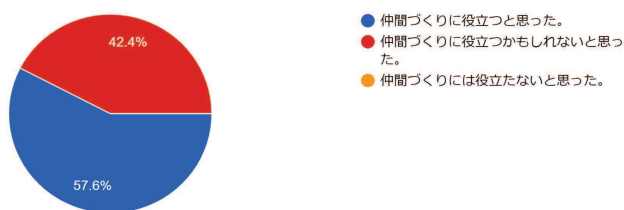
3. 資料の内容

66 件の回答



4. 今回のイベントで仲間づくりに役に立つと思いますか？

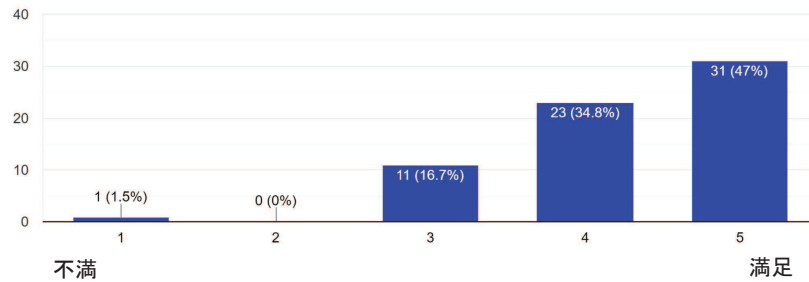
66 件の回答



Q2-2.グループワークについて

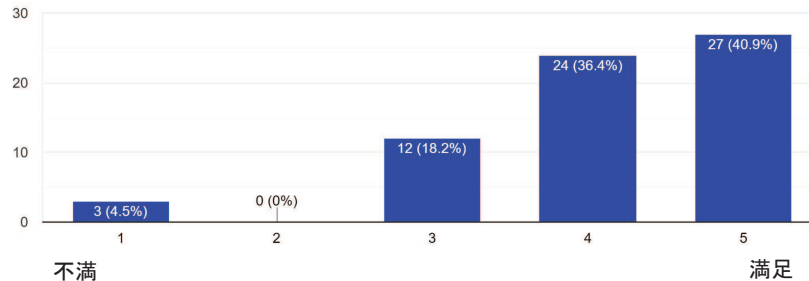
1. グループワークの内容

66 件の回答



2. グループワークの進行について

66 件の回答



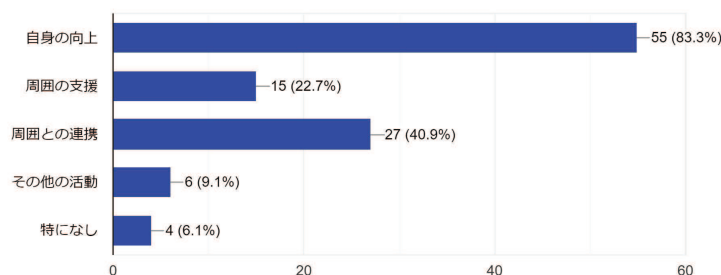
3. グループワークに対するご意見・ご感想等ありましたらお書きください

- ・よく考えられている。とても、良いとおもいます。
- ・ゲームなど楽しみながら、進行したら沈黙することが少なくなるのではないかと思います。
- ・テーマがはっきりしていたのでわかりやすかったし楽しかった。
- ・仕事の内容抜きで紹介してグループを作るという流れはとても興味深かったです。
- ・グループワークごとに話す内容のスライドをブレイクルームにも表示して欲しかった。
- ・テーマをPPTで配布して欲しかった
- ・よい進行だと思います。
- ・他己紹介は他の方のフィルターがかかるのが面白く、紹介者の人となりも少し見えてよかったです。
- ・各セッションに置いてアイスブレイクの時間があると、よりコミュニケーションを進めて安くなると考えます。
- ・題材を決めて頂いてありがとうございました。一方で皆初対面のためなかなか話すことが難しかったです。無言の時間も多くあったように思います。参考までに技術士二次試験の対策をどのようにしたらよいかという話題はおおいに盛り上がりました。
- ・とても面白い企画を考えられたと思います。動物イメージ、他己紹介は交流を活性化させるために良いアイデアだと感じました。
- ・もっと色々な方のお話を聞きたかった。
- ・最初は不安でしたが同じ年度に合格できた仲間と出会えて良かったです。明日への励みになります。ありがとうございました。
- ・最後のグループワーク時の実施項目が画面に映るようになるとありがたかったです。
- ・他己紹介は難易度が高いと思った。その場で気楽にやれるテーマとしてはいいが、構える人もいそうだと思う。
- ・他己紹介と言うアプローチと、マッチングの仕組みがとてもおもしろかった。
- ・進行良かったです。
- ・四人グループで話すシーンにおいて、web上でいきなり初対面の人達だけに投げるのは、あまりに雑過ぎる。よく分かった人、ファシリテーターが一人入らないと気まずい。ただ、最初に氷解してしまえば、リラックスして話せるので、最初のケアだけ、それだけを今後の企画運営において再考頂けると、より良い会になると思います。このご時世、慣れないweb形式での運営は大変かと思いますが、どうぞよろしくお願いします。
- ・話しやすかったです。
- ・お疲れ様です。このような活動があると知ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・企画・運営ありがとうございました。
- ・別分野の方と交流できて良かったです。
- ・良かったと思います。
- ・初対面の方とのアイスブレイクの仕方、情報共有の仕方ができた。有意義にできました。
- ・各ブレイクアウトルームに進行役の方が配置されていたらなお良いと感じました。

Q3.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

ご自身の具体的な活動について

66 件の回答



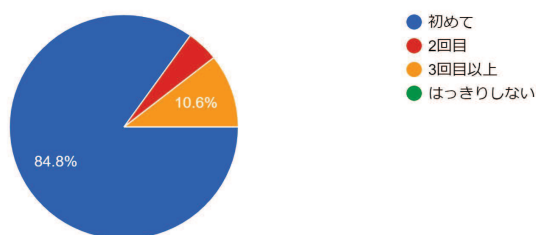
その他の活動を選んだ方は具体的に列挙してください。

- ・技術研鑽に心がけて自信の技術力向上に努めています。
- ・地球温暖化対策に向けた活動(CO2削減、CO2吸収・資源化、再エネ促進など)。
- ・各種学会、団体イベントへの出席(例えば、地層処分をやってる核のゴミ屋さんであるnumoのシンポジウム、説明会など)それらへの出席を通して、人的連携の強化を図っています。
- ・四国技術士会、技術士青年交流会のイベントに積極的に参加したい。
- ・発展途上国向けに技術の提供を行い、現地の技術力向上、インフラ整備、現地法人の立ち上げなど。
- ・ごきそ技術士会の勉強会に参加(名工大OB)。
- ・業務に関する知識、ノウハウの向上。

Q4.青年委員会の活動について

1. 青年委員会のイベント参加回数

66 件の回答

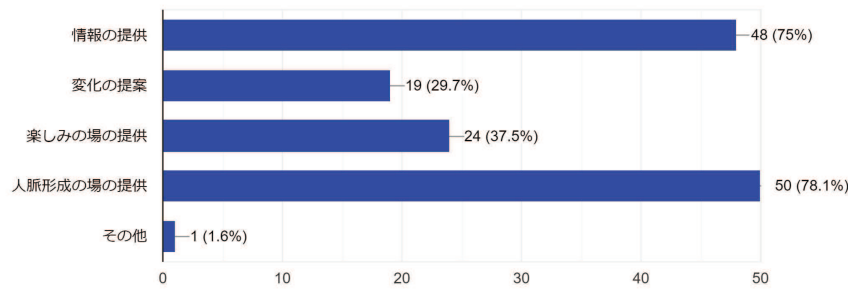


2.過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ(2回目以上の方のみ)

- ・見学会(インフラツアー)
- ・すごいチームの作り方

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント

64 件の回答



上記で選択したものの具体例を書いてください

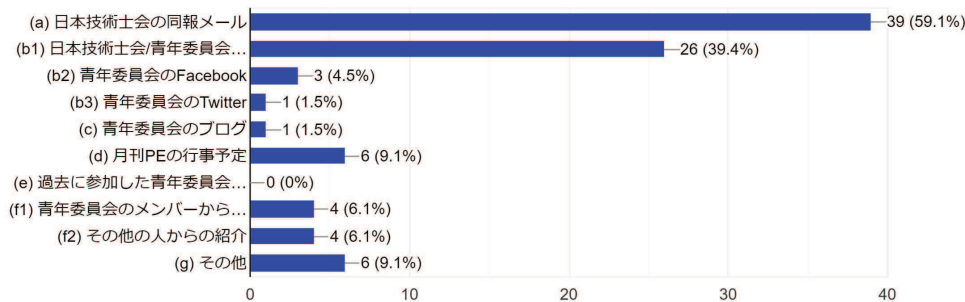
- ・分野横断で話す場、凄くいい経験になります。
- ・業界が抱える課題と方針。
- ・子供もできたら参加しても良いイベント。
- ・インフラツアーの再開を望みます。
- ・懇親会。
- ・飲み会やりたいです。
- ・技術士と仕事のからめかたの紹介。
- ・技術士会の構造改革等(あれば)。
- ・見学会やワーキンググループによる発表会など。
- ・懇親の場。総合技術監理部門の先輩から試験対策について話を聞く場。
- ・同じ分野、他分野で交流できるチャットルームのようなものと良いと思います。
- ・今回の様なイベントは楽しかったので、趣味をベースにチーム分けるのもありかな？と考えました。
- ・社会情勢が日々変化している中で、早い情報提供、発信ができると良いと思います。
- ・交流会！とにかく楽しい交流会。
- ・活動紹介。
- ・WEB上での交流イベント、もしくは交流できるツールを積極的に実施してほしい。
- ・自身の仕事と技術士との絡め方の紹介。
- ・支援対策情報、体験談の共有 ・各部門の業界技術者の紹介、懇談会。
- ・他の技術士と交流できたため。
- ・さまざまな環境の課題などの生の情報を知りたいと考えております。
- ・技術士の資格の活用事例。
- ・本をレビューするイベント。
- ・工場見学(家族も参加可能)。
- ・趣味の共有、道楽の共有がしたい。
- ・今回のような、交流会の定期開催。年齢を20代限定とかにさせていただけるとより深く関わられて良いと思います。
- ・コロナが明けたら飲み会したいですね。
- ・支援対策情報、体験談の共有 ・各部門の業界技術者の紹介、懇談会。
- ・仕事の幅や考え方が変化した。
- ・様々な情報を提供しその解説をいただきたい。
- ・今回のような交流会イベントは素直に有難い。
- ・コロナ明けたら会える場。
- ・異部門連係による日本技術力の向上。
- ・オンラインイベント。
- ・同部門での会合。

4.内容以外について、ご希望などがございましたらお書きください。

- ・オンライン開催であると嬉しいです。
- ・オンラインだと気軽に参加できるので、コロナ明けでもオンラインを検討してほしいです。
- ・よい企画だと思います。
- ・Zoomを用いて多くのかたが顔出しするとネットが遅くなるようです。グループワーク以外は顔を出さないようにしてみてもよいのではないかなと思いました。
- ・コロナ終息してもある程度オンラインで開催してほしいです。
- ・共有された26枚のペーパーを事前に配布しておいてほしかった。他の方も同様のことをおっしゃっていました。また、他己紹介で自分の前の番号の人を紹介している人もいて、正しく主旨が伝わっていませんでした。
- ・分野、年齢、場所等、いろんな方との交流ができてありがとうございました。
- ・技術士会関連団体・支部が多く、青年会含めどのような位置づけなのか理解できていない。

Q5.今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか。

66 件の回答



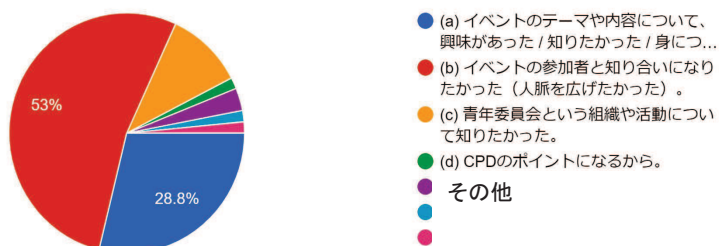
その他と答えた方は具体例を教えてください。

- ・会社の先輩。
- ・チラシ。
- ・技術士会の案内ダイレクトメール。
- ・CPD行事予定表。
- ・合格者向け資料の郵送。
- ・一般CPD行事予定、二次試験合格者向けDM。

Q6.参加の目的と達成度について

1.目的は何ですか。

66 件の回答

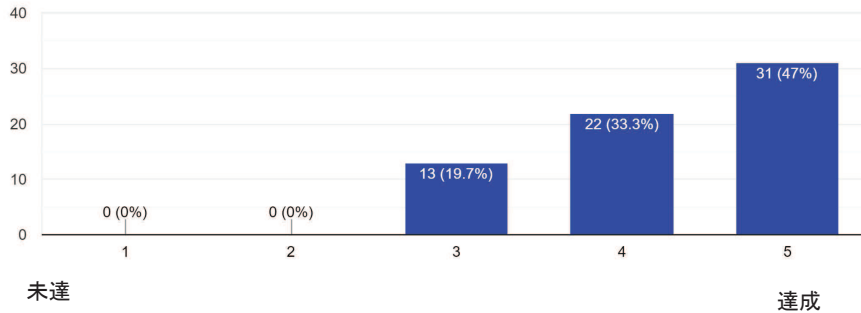


その他

- ・初めてのイベントなので、このイベントが自分に合うか合わないかは、やってみないと分からないが、試みに覗いてみようと思い、参加。
- ・自身の向上だけでなく、人と話したかった。
- ・合格者向けイベントということで、まずは参加して様子を見たかった

2.上記の目的の達成度

66 件の回答



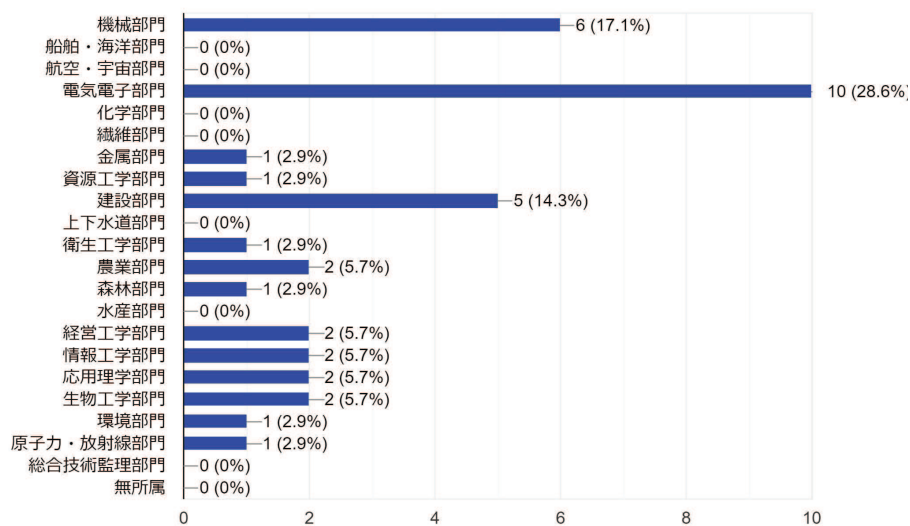
3.スタッフに伝えたいこと

- ・凄く楽しかったです。ありがとうございました。
- ・お疲れ様です。
- ・オンライン交流会の進め方参考になりました。
- ・オンラインでの交流会は初めてで、慣れないところもありましたが、楽しかったです。
- ・お疲れ様でした。ご準備諸々ありがとうございました。
- ・青年委員会のスタッフとしての活動も興味を持ちました。機会がありましたらよろしくお願い致します。
- ・ご準備お疲れさまでした。青年委員会に入りたいと思いました！また来週お話を伺えればと思っています。
- ・コロナ禍で例年とは状況が異なる中、このようなイベントを開催下さり、とても感謝しております。今後とも宜しくお願い致します。
- ・明るい進行有り難うございました。お陰様で楽しく参加させて頂きました。
- ・たぶん参加に不安な方も多いと思いますが、交流会の内容や様子がもっと広がると参加しやすくなるのではと思いました。
- ・ありがとうございました。
- ・良い企画だったと思います。WEBでつながれるようになると、参加者のすそ野が広がって良いと思います。スタッフが話に参加できるような時間もあっていいのではと思いました。
- ・締め切り後の申し込みにもかかわらず、参加受付の個別対応をいただき、田中雅人さまをはじめ、運営の方々にこの場を借りて改めてお礼申し上げます。お陰様でとても楽しく参加させていただきました。
- ・語りかけや、進め方とても良かったです。
- ・会の運営お疲れ様でした。
- ・グループワークの内容、時間割を予め公表する様にして欲しいです。当日あたふたしてしまいます。
- ・グループ分けマッチングがうまくいかず、ちょっと気まずい。しかし、機械的な組み合わせで、統一協会の合同結婚式みたいなもんだから、仕方ない面もある。うまく噛み合わないリスクはあるものの、そのリスクを避けていては新しい出会いも得られないので、必要経費、コストと思って、めげずに今後もイベントに参加したい。
- ・おつかれさまでした。
- ・ご対応いただきまして、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・社会に出た多くの人の交流の機会を持ててよかった。
- ・企画・運営ありがとうございました。
- ・面白かったです。ありがとうございました。
- ・楽しい会をありがとうございました。
- ・今後とも企画運営宜しくお願いします。事前準備等大変な労力だと思います。重ね重ね参加いたします。
- ・ホスト対応ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。
- ・すごく楽しい企画でした。技術士を取得したは良いものの、なかなか人脈形成の機会が無かったのですが、本日は大変有意義な時間となりました。ありがとうございました。
- ・様々な方と出会える機会をいただきありがとうございます。
- ・機会をいただきありがとうございました。
- ・貴重な機会をいただきありがとうございました。
- ・ありがとうございました。去年技術士になって祝賀会も説明会もなく交流が難しかったなかで、この会に参加出来て良かったです。
- ・特例があればスタッフとして参加させていただきたいですが、開催準備から開催まで本当に有難うございました。
- ・運営、本当にお疲れさまでした。多数の参加者の中でのグループワーク進行は、大変であったのでは無いかと思います。本日は、本当にありがとうございました。
- ・技術士の資質向上について努力されていると感じました。これからもガンバってください！

2019年6月懇親会アンケート集計
Q1.あなたご自身についてご記入ください。
技術部門

2.技術部門

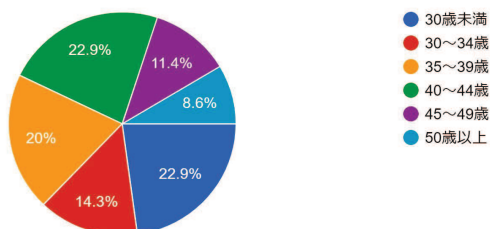
35 件の回答



年齢層

年齢層

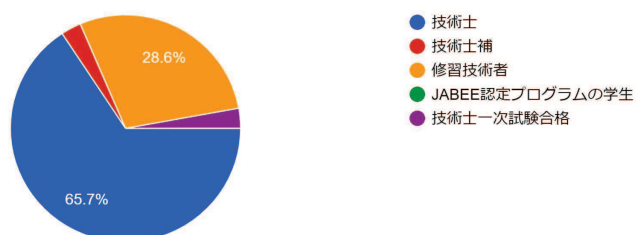
35 件の回答



会員層

会員層

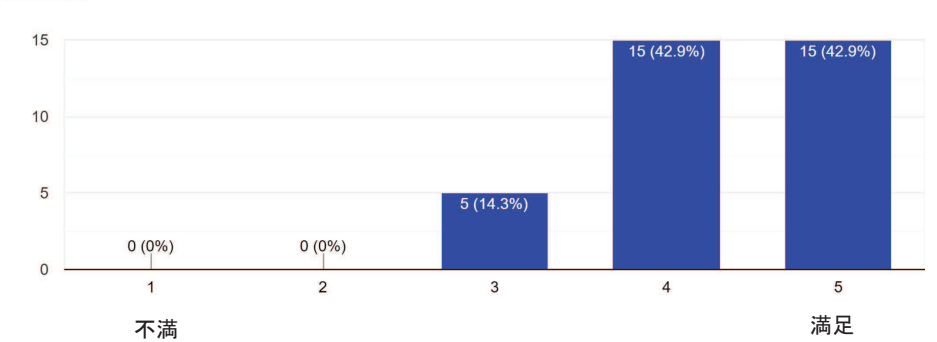
35 件の回答



Q2-1.今回のイベントについて

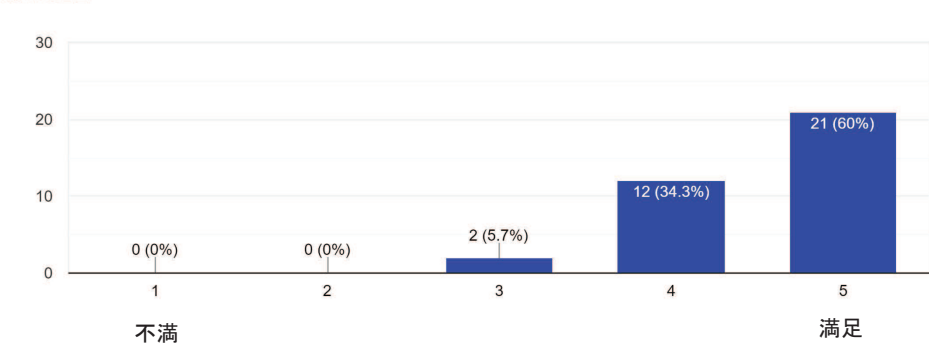
1. 懇親会の内容

35 件の回答



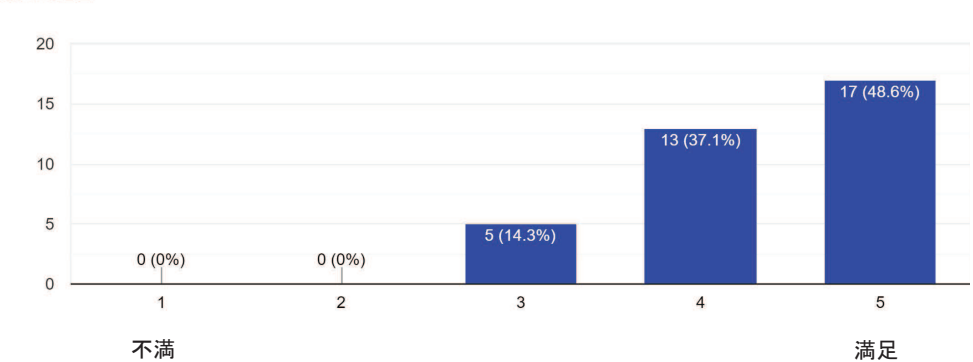
2. 懇親会でのスタッフの対応

35 件の回答



3. 懇親会資料の内容

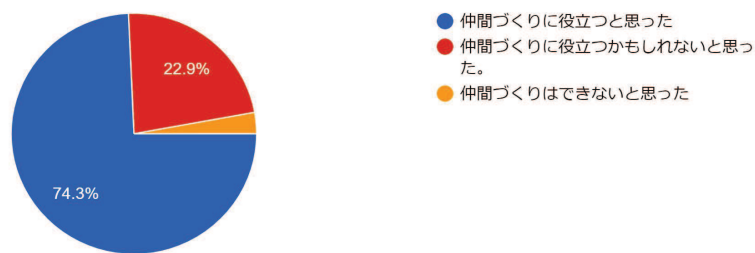
35 件の回答



4.

今回のイベント（グループワーク、Slack（コミ...懇親会）を通じて仲間づくりに立つと思いますか？

35 件の回答



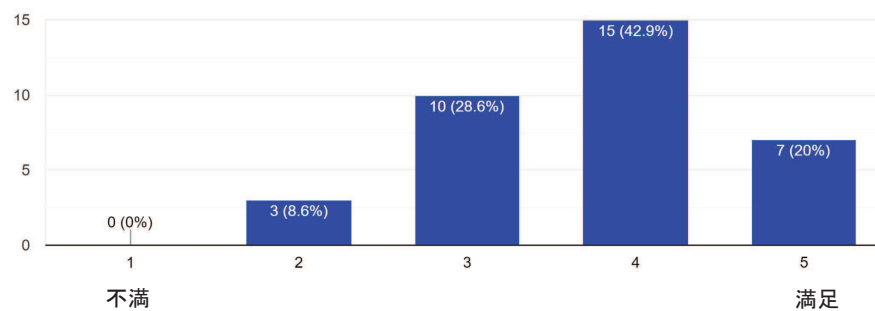
仲間づくりはできないと思ったを選んだ方はその理由をお答えください。

- ・少し唐突感もあり、あまり交流はできなかったため。

Q2-2. Slack(コミュニティ)について

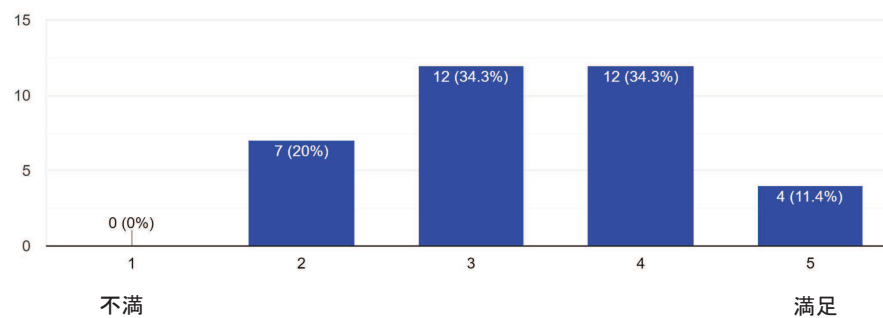
1. Slack（コミュニティ）の使いやすさ

35 件の回答



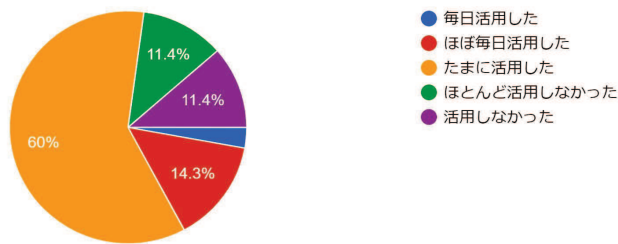
2. Slack（コミュニティ）内での議論

35 件の回答



3. Slack（コミュニティ）の活用頻度

35 件の回答



活用しなかったとほとんど活用しなかったを選んだ方はその理由をお答えください

- ・ログインできない為。
- ・SNS？の一種なのでしょうか、あまり慣れない為。
- ・業務の繁忙期と重なったため...
- ・平日は時間が取れなかった。
- ・平日は仕事が忙しかった為。
- ・使い慣れてない。
- ・同じグループの方で、参加されていない方がいて、話し合いがほとんどできませんでした。
- ・Slackをペースアプリとして使用していないため。会社でもイベント等の時のみ使用。これから参加致します。

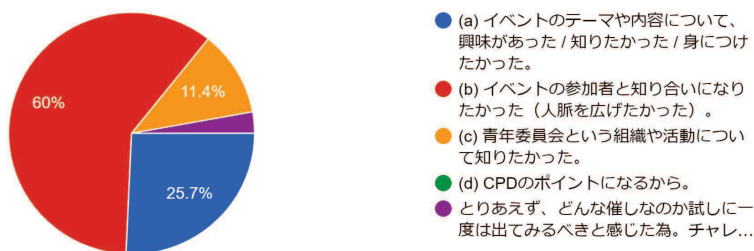
4. Slack（コミュニティ）の活用について、ご意見・ご要望がありましたらお書きください。

- ・うまく使っているコミュニティへの誘導があるとよいように思う。
- ・グループ及びダイレクトでのメッセージツールとして、良いツールとして認識しております。
- ・出来たら頻繁に活用したいと思います。
- ・私の割当てられた班ではやりとりもなく、議論はされていないので、活用されていません。
- ・slackのシステムに慣れないうちに1週間たってしまいました。
- ・Slackを用意してくださったのは良いアイデアだと思いましたが、思いのほか上手いかず、難しいものだと思います。
- ・意外と使用している方が多く、活動を機にslack利用が広がるとより円滑にコミュニケーションが図れると感じました。

Q3. 参加の目的と達成度について

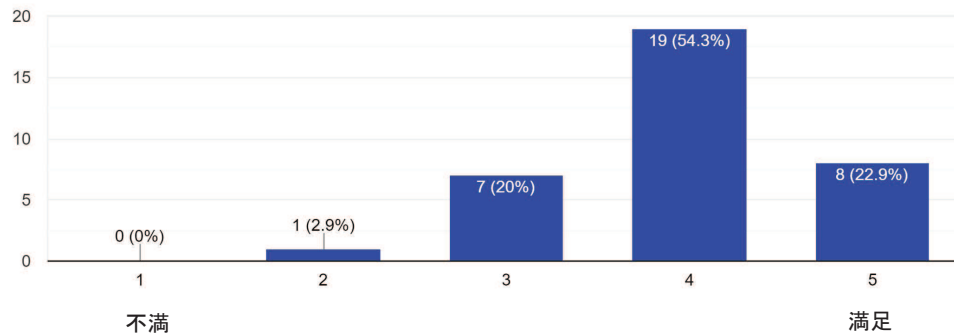
1.目的は何ですか。

35 件の回答



2.上記の目的の達成度

35 件の回答



スタッフに伝えたいこと

- ・土曜日夜の懇親会、疲労にて参加できず申し訳ありませんでした。また別の機会に、交流会に参加したいと思います。よろしくお願いします。
- ・進行(盛り上げ役)ありがとうございました。青年技術士交流委員に興味ありますが、独立行政法人に勤務していることもあり、日当が出る場合などは理事長の許可が必要なため、なかなか難しいだろうなと思っています。まずは行事等に参加し、交流を重ねていこうと思っています。
- ・青年委員会で活動してみたいです。
- ・修習技術者ですが、入会できるのであれば参加したいです
- ・ありがとうございました。
- ・オンラインの活用を継続してほしい。
- ・技術士青年委員会の実施している理科教育において自然環境教育などは行っていますか。
- ・青年委員会の活動に参加させていただきます。
- ・準備運営お疲れ様でした。
- ・楽しかったです。ありがとうございました。
- ・素敵なイベントをありがとうございました。
- ・楽しい会をありがとうございました。
- ・楽しめました。ありがとうございます。
- ・交流できるように色々な仕組みを考えて頂いて、とても感謝しております。
- ・ご準備・運営いただきありがとうございました。途中参加となりましたが、楽しい時間を過ごさせていただきました。
- ・ホームページでの参加申し込みを失念してしまい申し訳ありませんでした。参加申し込みを済ませていないにもかかわらず、参加させていただきありがとうございます。とても楽しかったです。
- ・6月19日当日は、急遽発生した事案により、懇親会に参加できず、申し訳ございませんでした。SLACKを通じて知り合えた方々とさらに親睦を深め、互いに切磋琢磨し、早く一人前の技術士となり、後輩の支援ができるよう、努力いたしたく存じます。
- ・有意義な時間をありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。
- ・開催にご尽力いただきまして、ありがとうございました。技術士会の中でも最も活力のある活動ではないかと感じました。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・ありがとうございました！
- ・短い時間の参加でしたが、楽しく過ごすことができました(先週・今週に渡り感想を求められたのもいい機会でした。)。ありがとうございました。また都合をつけて参加させていただきたいと思います。

行事名	6 月拡大委員会 & 本支部交流会、懇親会
日時	2021 年 6 月 26 日（土） 【拡大委員会】13:00～13:45 【支部交流会】14:00～17:00 【懇親会】18:00～20:00
場所	拡大委員会、支部交流会、懇親会：Zoom による Web 会議
担当者：	○竹内委員長、後藤副委員長、守田副委員長、田中（仁）副委員長、河野副委員長田中 （○:主担当）雅人委員、小塚委員、鈴木委員、高木委員、吉岡委員、臼井（記）
司会、報告者等	青年総会：司会 後藤副委員長、議長 竹内委員長 地域本部活動報告：平岡委員長、齋藤委員長、高野委員長、石川委員長、 藤内委員長、田中委員長、白鳥委員長、松永委員長
参加者数	青年総会：28 名（+ 委任状 5 名）、本支部交流会：59 名、懇親会：46 名 ※懇親会には OB/OG 3 名を含む

1. 背景・目的

地域本部間の意見交換および交流を目的とし、拡大委員会での青年総会、地域本部活動報告および懇親会を実施した。

2. 内容およびタイムスケジュール

13:00～13:45 拡大委員会

14:00～17:10 本支部交流会 全地域本部活動報告、
全国大会の告知、第 5 分科会宣伝、初参加者の自己紹介、集合写真

17:10～17:45 各自お酒、おつまみ買い出し（休憩）

18:00～20:00 懇親会

3. 成果と所感

3-1. 開催環境

今回、担当者は機械振興会館に集まり、それ以外の参加者についてはオンラインでの参加を基本とした。通信環境の状況により、会の進行に影響が及ぶ恐れがあったが、当日は機械振興会館に主な担当者が集まることでリスクは回避できたと考えられる。今後も無線 Wi-Fi の性質上、天候等によって通信に影響されかねないため、今後は各自でルーターを準備する等の対策が必要である。

ZOOM ミーティングの入室管理については、一川委員、吉浦委員が参加者管理を担当した。全体として大きな問題はなかったものの、予定外の参加者の入室や各参加者の所属地域本部や名前等の確認等、参加者管理担当者に負担がかかっていた。当日の混乱を防ぐには、事前に参加者名簿を配布し、Zoom 入室時の名前を指定して

おくことで負担軽減が図れることが推察される。

3-2 拡大委員会（総会）

拡大委員会（総会）は、滞りなく議事に沿って進行することができた。昨年度の統括本部における活動内容と収支実績、および今年度の活動予定と予算に関して全委員から承認を得た。質疑応答においては、主に予算内容について各委員からコメントを頂いた。

3-3. 本支部交流会

統括本部及び各地域本部から昨年度の活動報告を行った。活動報告を通して、各地域本部において魅力的なイベントの紹介や統括本部から今年度の活動を共有することができた。また、各活動報告が終わった後は高木委員より全国大会の告知、竹内委員長より第5分科会の告知を行った。また、最後には初参加者による自己紹介を取り入れた。全体として大きな問題もなく、無事に会を終えることができたが、「時間管理」と「質問環境」において課題が出た。

まず、「時間管理」について、当初自己紹介では、話題を「専門分野、業務内容、マイブーム」の3つに絞り、大きく遅れる場合は休憩時間の短縮で対処する予定であった。1人1分以内を目安に自己紹介をお願いしていたが、予想以上に自己紹介が長引いたこと、また初参加者が多かったことも時間超過の要因となった。自己紹介で大変盛り上がったことは、地域間の交流を深める上で大きい収穫だったと感じているが時間内に会を終わらせるためには、**事前の初参加者の把握と制限時間の指定が重要と考えられる。**

質問環境については気軽に参加できる反面、面と向かって話すことが出来ないため、質問がしづらく、特定の人に質疑応答が固まっていたのではないかといった意見も地域本部の参加者からあった。今後はチャット機能の利用による質疑応答を把握することも重要と考えられる。

3-4. 大懇親会

懇親会は、午前中の本支部交流会に引き続き Zoom による Web 開催とした。

懇親会のコンセプト「同じ想いを持った人と深く交流し、その後の活動に繋げる」のもと、アイスブレイク、プレゼン大会、交流会の大きく3つの構成で開催した。

冒頭のアイスブレイクでは、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使用し、設定した10部屋に参加者が好きな番号の部屋に入室して、自己紹介、グループワーク(交流会でのブレイクアウトルーム名を考える)と各グループの発表を行った。少人数のグループで楽しい雰囲気での交流を行うことができた。

プレゼン大会では、事前応募のあった7名のプレゼンターによる「日本全国・やりたいことで繋がろう」企画のプレゼンテーションを行った。各プレゼンターから魅力的な発表が行われ、質疑応答も活発に行われた。

交流会では、プレゼン大会での企画名のブレイクアウトルームを設定し、参加者がプレゼンに共感した部屋に入室して、同じ想いをもった人と大いに交流を楽しむことができた。

一部で携帯端末からの Zoom 接続ではブレイクアウトルームを選択して入室できないなどのトラブルがあったものの、Web 開催による距離・地域の壁がなくなった事により、今後の青年技術士支援委員会の所掌変更（地域組織における若手正会員層との連携）にも繋がる懇親会であったと考える。

4. 今後の展開

昨年に引き続き、統括本部の各担当の多大な協力もあり、会はスムーズに進行することができ、また良い交流の場

になったものと全体のアンケート結果からも読み取ることができた。特に、地域本部活動報告は各地域の活動の幅を広げるための気づきを相互に与える場として行われており、今後も継続して実施し、互いの新たな学びの場として活かしたい。

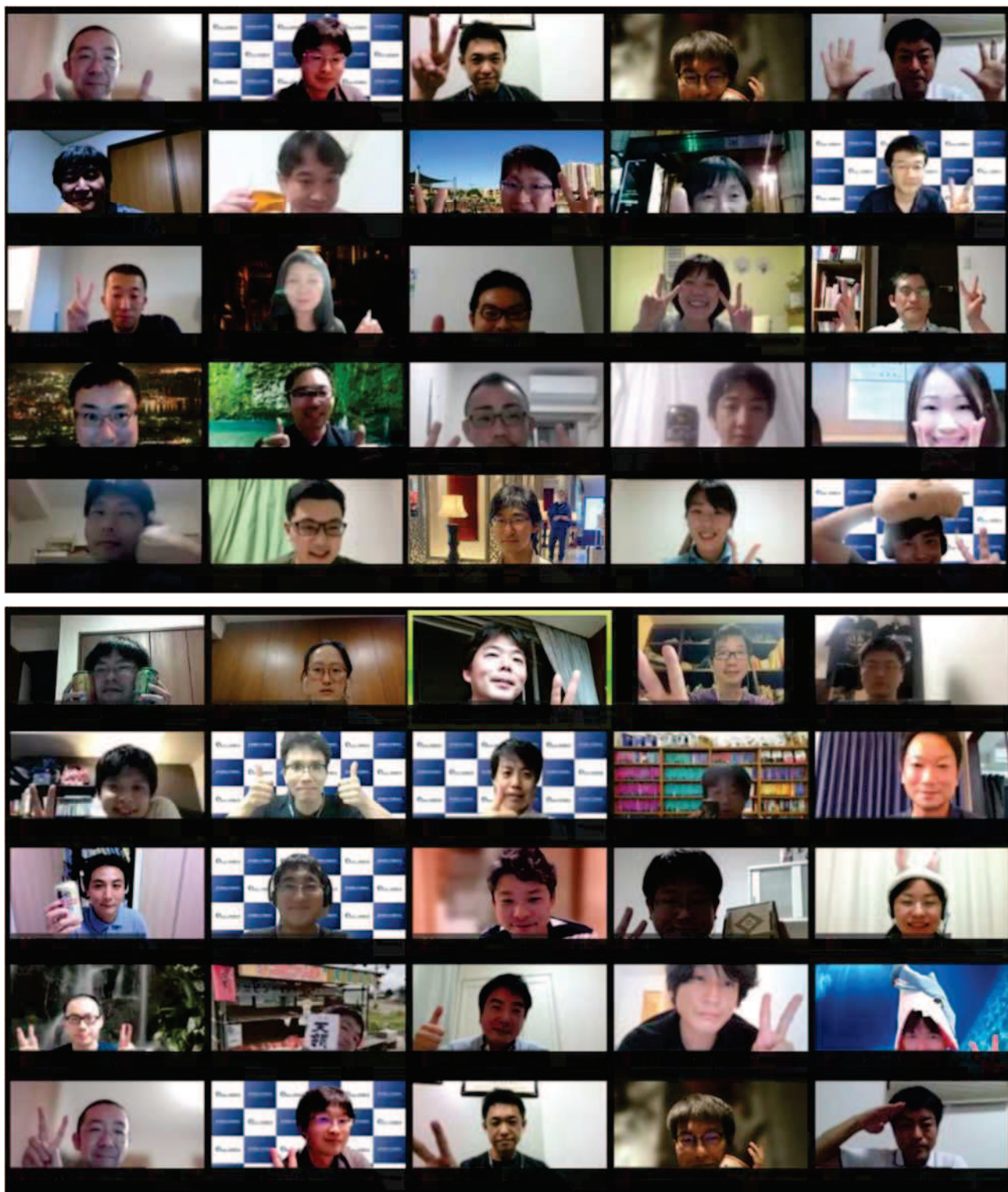
今後はオンラインテクノ等も追加して実施していくことも検討し、さらなる拡大委員会の質の向上に期待したい。

5. 実施状況

本支部交流会



大懇親会



以上

行事名	7 月： 技術士のための「動画発信・YouTube 活用講座
日時	【講 演 会】 7 月 17 日（土） 13:30～15:30 【グループ討議】 同日 15:30～16:45 【交 流 会】 同日 17:00～18:30
場所	オンライン(Zoom)
担当者：（○:主担当）	○大園委員、吉浦委員、山本委員補佐、守田委員、吉岡委員、原田委員
参加者数	【講 演 会】 63 名 （一般 51 名、委員 9 名、講師 3 名） 【交 流 会】 21 名

1. 背景・目的

技術士が価値ある情報を発信するための手段として、動画の活用は今後注目されている。本例会は、動画発信の学習を通じて、効果的な情報伝達（コミュニケーション）、動画作成プロセス管理（マネジメント）、動画発信の効果確認と改善（評価）に関する資質能力の修得を目的とする。

2. 内容および時間（実績）

（1）講演、グループ討議

13:30-13:50 技術士の情報発信の注意点、アイスブレイク（大園委員）

13:50-14:20 技術士の情報発信事例（松下講師）

14:20-14:30 青年技術士支援委員会の動画紹介（高木委員）

14:30-15:20 SNS・YouTube 情報発信の講義（石井講師）

15:35-16:40 グループ討議「動画をみてもらうには？」

① 15:40～16:15 グループ討議

② 16:15～16:35 発表

16:40-17:00 講評、青年技術士支援委員会の紹介、今後のイベント紹介、アンケート

（2）交流会

17:15-18:40 参加者からの質疑応答

3. 成果と所感

（1）成果

- ・オンライン・有料（参加費 1000 円）で、55 名の申し込みがあり、盛会となった。これは、注目されるテーマを扱い、講師に情報発信で活躍する技術士と SNS・動画発信の専門家を招聘したことが要因と考える。
- ・参加者層の想定ニーズになるべく合わせた形で、企画の全体の内容に整合をとることができた。企画打合せ、リハーサル、直前会議で、企画・講師・ファシリテーターとの対話を多くしたことは良かったと考えている。
- ・グループ討議は、開催目的に合った内容とし、青年メンバー及び外部講師からの建設的な意見によって、当初の企画よりも改善することができた。

- ・zoom 操作に不慣れな方も多いと想定された中、入室管理がスムーズにできた。これは事前案内（10 分前までの入室を促す）と操作マニュアル配布、受付の体制（3 人体制）で適切な対応が良かったと考える。
- ・zoomの入室音 OFF、zoom 録画の対象項目と参加者へのアナウンス、グループ討議成果物の事後共有の事前アナウンスなど、注意すべき点を適正に対応できた。青年メンバーからの意見や過去知見が活用できた。
- ・オンラインの参加費徴収として WorksPay という決済サービスを活用した。手数料 6.6%と安く、申込者に手数料負担感がなく、手続きも簡単で、リスト化できるなど便利であった。一方、①決済手段がクレジットカードに限定される、②初回アカウント登録が必要などのデメリットもあったため、金融機関振込の方法と並列させた。特に振込手続きにおいてトラブルはなかった。

(2) 課題

- ・参加者層が青年よりも高年齢層に偏った。青年に響く告知（タイトル・概要）の工夫が必要であった。
- ・音声は、司会と講師のスピーカーが干渉するタイミングがあった。音声管理の事前つぶし込みが不十分であった。
- ・リハーサルの段階で、内容検討に長い時間を使ってしまった。企画案に不備が多く、結果として講師による企画への介入を誘引してしまい混乱を生じた。企画はもっと早期に作り込み、コンセプトをしっかりとっておく必要があった。
- ・松下講師の講演で動画を一部流せなかった。zoom 開催における講師への事前サポートが不十分であった。
- ・当日、本会の終盤において約 15 分遅れとなった。質疑時間等を考慮して余裕を持たせるべきであった。
- ・外部講師への謝礼が年間予算に対して圧迫がある金額となった。予算枠を考慮して設定するべきであった。

4. 今後の展開

オンライン、外部講師活用、有料イベントの運用における今回の反省点を今後に生かしたい。

5. 実施状況

【デモ動画収録の様子】



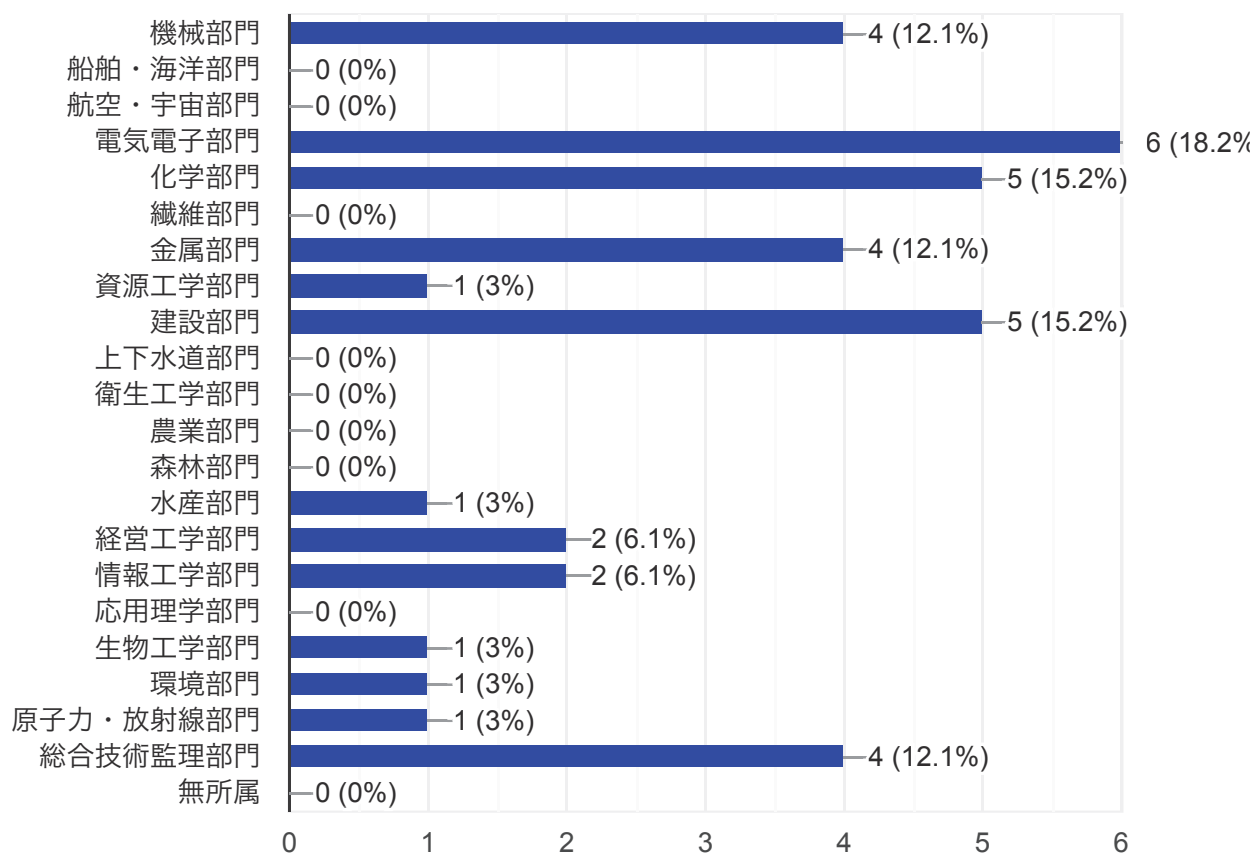
【参加者の集合写真】



以上

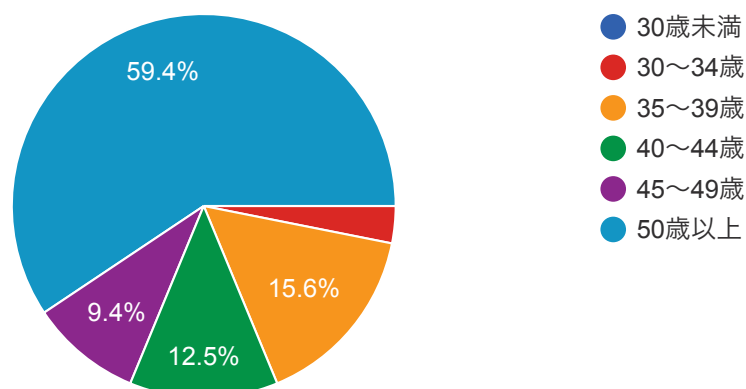
2.技術部門

33 件の回答



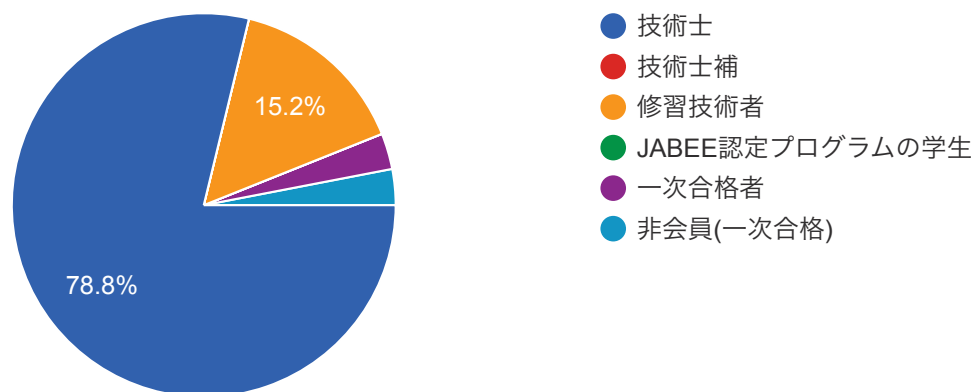
年齢層

32 件の回答



会員層

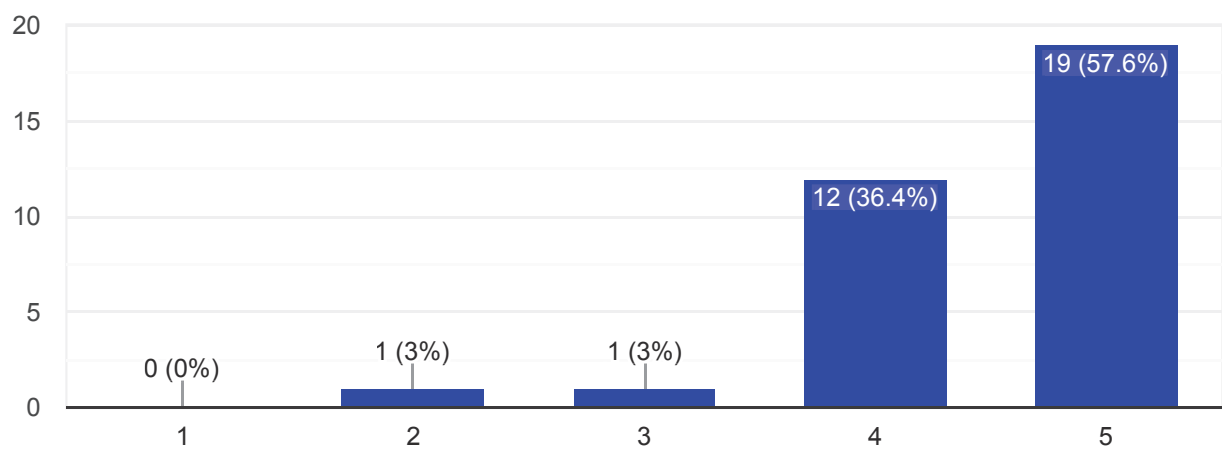
33 件の回答



Q2-1. 今回のイベントについて

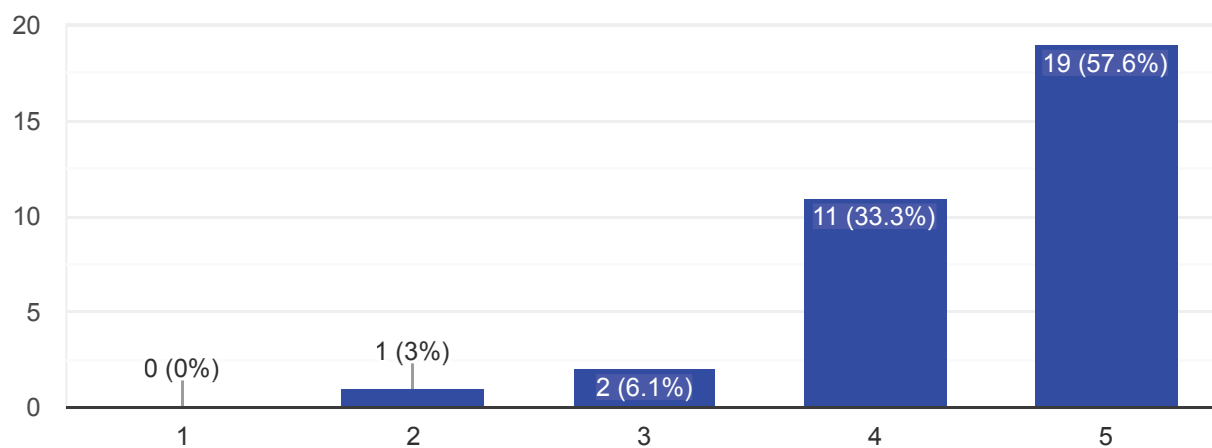
1. 講演会の内容

33 件の回答



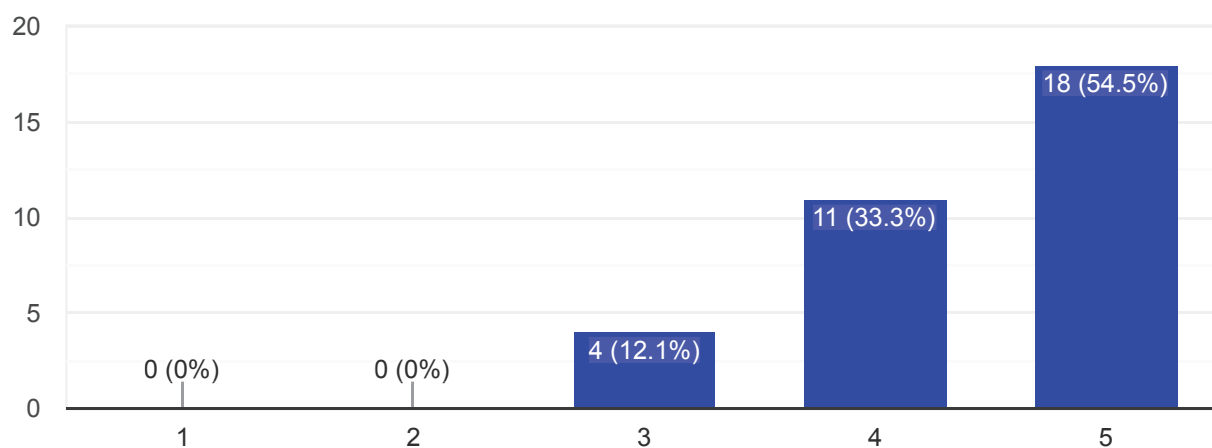
2. 講演会でのスタッフの対応

33 件の回答



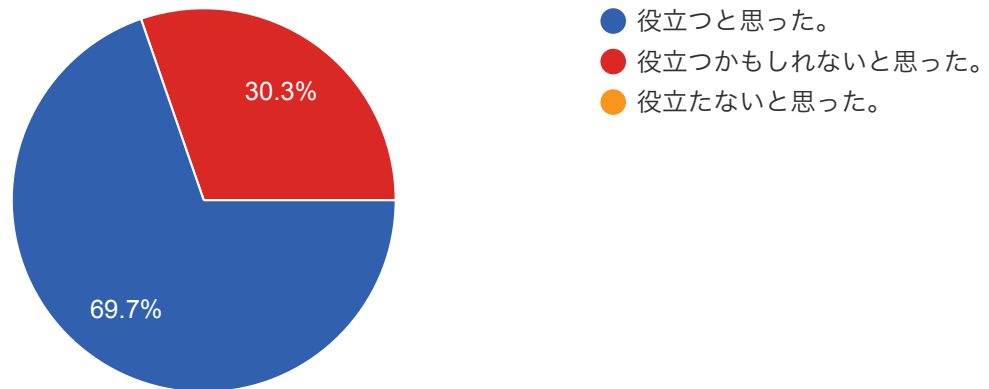
3. 講演資料の内容

33 件の回答



4. 今回のイベントでの学びが立つと思いますか？

33 件の回答



役に立たないを選んだ方はその理由をお答えください。

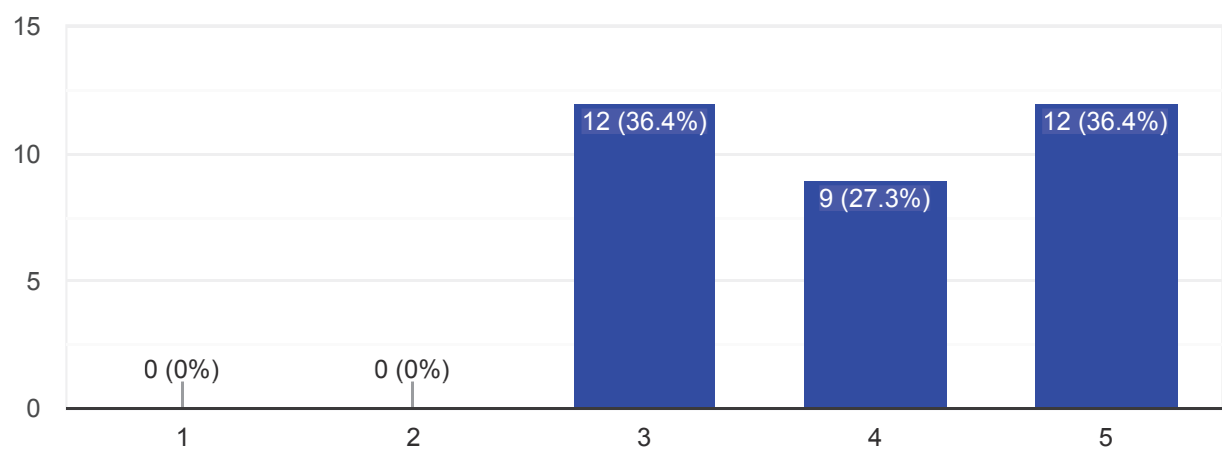
0 件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

Q2-2. グループ討議について

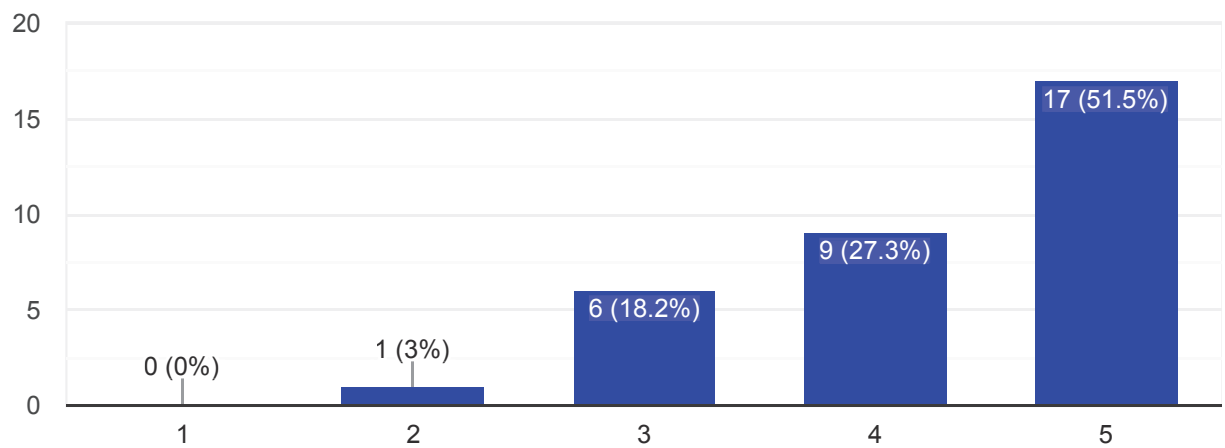
1. ワークの内容

33 件の回答



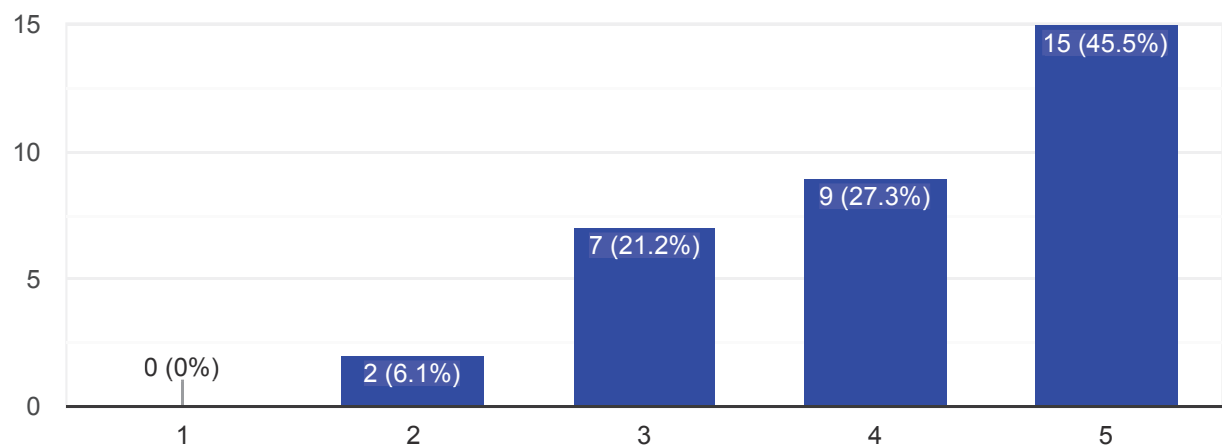
2. ワークの進行、進行役の話し方について

33 件の回答



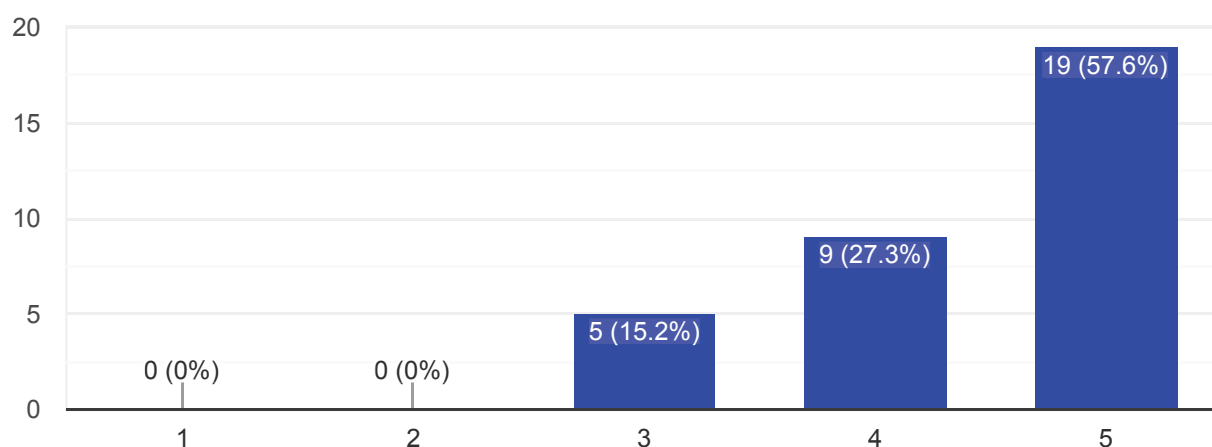
3. ワーク資料の内容

33 件の回答



4. ワークでのスタッフの対応

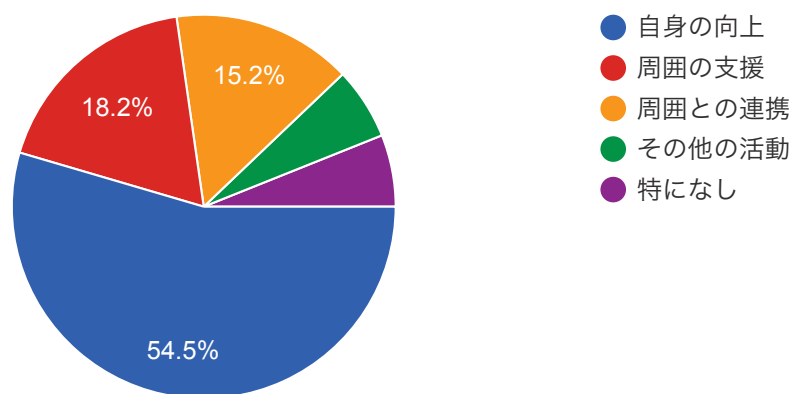
33 件の回答



Q3本業以外に活動していることはありますか？

ご自身の具体的な活動について

33 件の回答



その他の活動を選んだ方は具体的に列挙してください。

5 件の回答

役割、貢献

日本技術士会 修習技術者支援委員会 委員、技術士試験受験アドバイス

企業顧問、プロジェクト提案

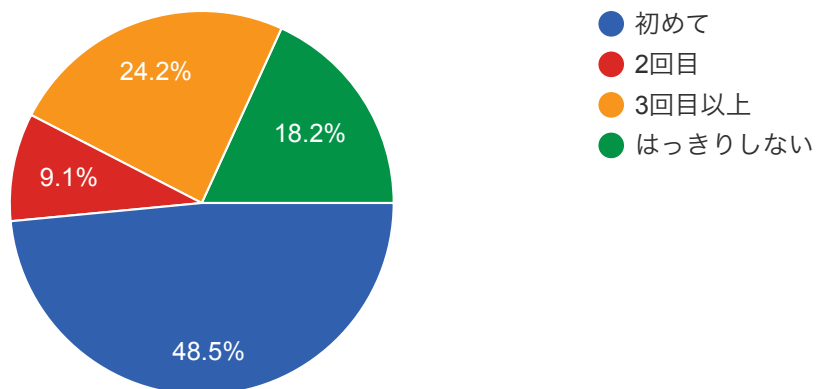
広報委員会として技術士会全体の広報の在り方について、青年委員会と協力したい

フィナンシャルプランナー

Q4. 青年委員会の活動について

1. 青年委員会のイベント参加回数

33 件の回答



2.過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ（2回目以上の方のみ）

7 件の回答

ディベート

ラポールの講義

合格者の歓迎会

凄いチームの作り方

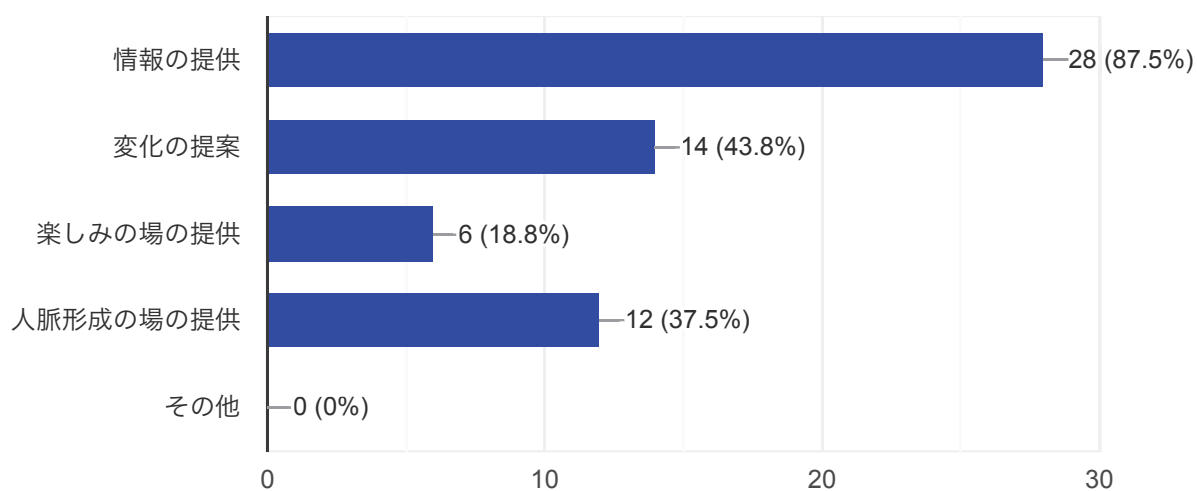
技術士第二次試験合格祝賀会

合格者歓迎会

診断士コラボ

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント

32 件の回答



「その他」を選んだ方は具体例を回答してください

0 件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

上記で選択したものの具体例を書いてください

13 件の回答

SDG's

それぞれの技術士の活動目標に分けてイベントを開催すると人脈づくりがしやすいかもしれません。

若い方のアイデア、変化が大切

外国人の企業経営者、事業家との交流会

dx

S D G's 関連

動画のより具体的な作成方法

技術士としての「幸せ度」の向上、発表

Tactics（孫氏の兵法、など）

4. 内容以外について、ご希望などがございましたら、お書きください。

5 件の回答

活発な活動を継続、アピールを

いまのままでもいい

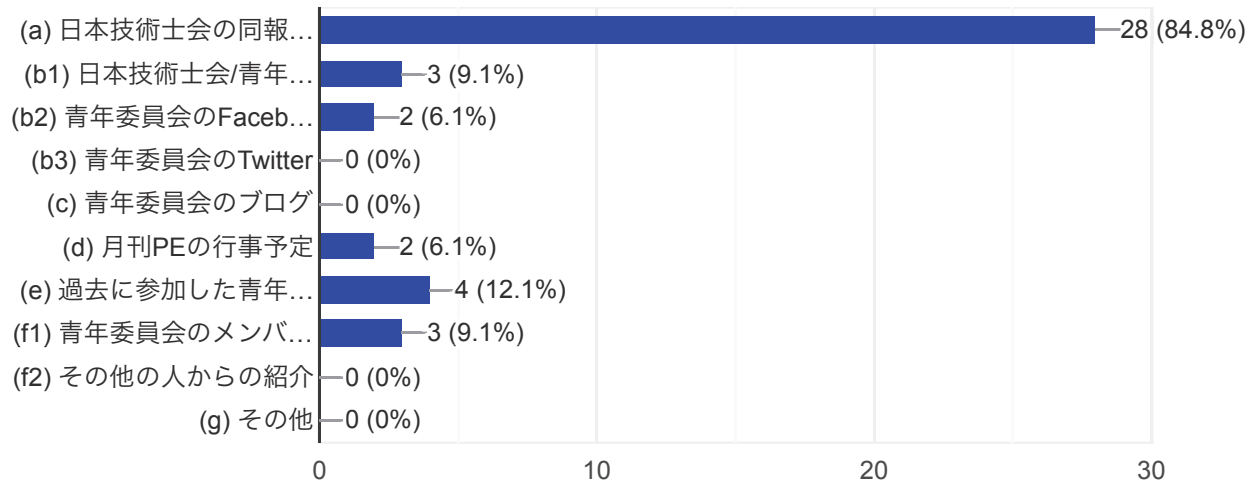
リモート開催（併用でも）、年齢制限の解除の継続を希望します。

リモート会議

内容が盛りだくさんでしたので、それぞれもう少しコンパクトでもよいかと思います。または、ワークの時間をしっかりとるのも充実感がたかまると思いました。

Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか。

33 件の回答



その他と答えた方は具体例を教えてください。

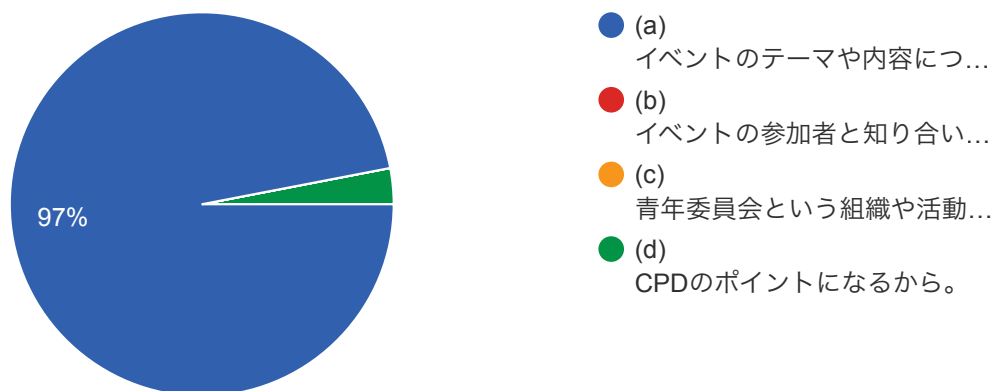
0 件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

Q6. 参加の目的と達成度について

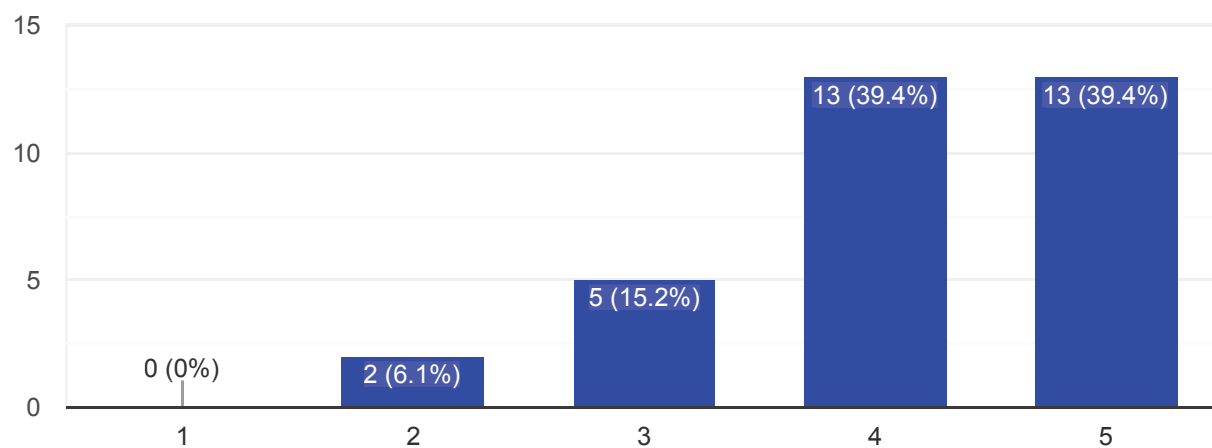
1.目的は何ですか。

33 件の回答



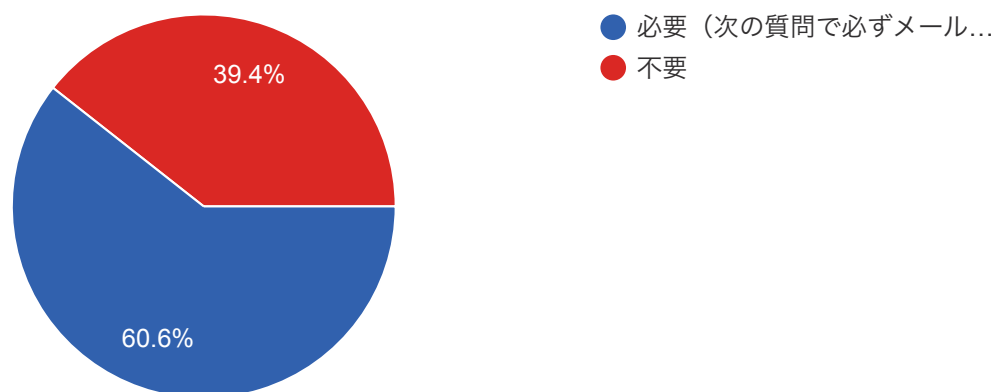
2.上記の目的の達成度

33 件の回答



3.CPD行事参加票

33 件の回答



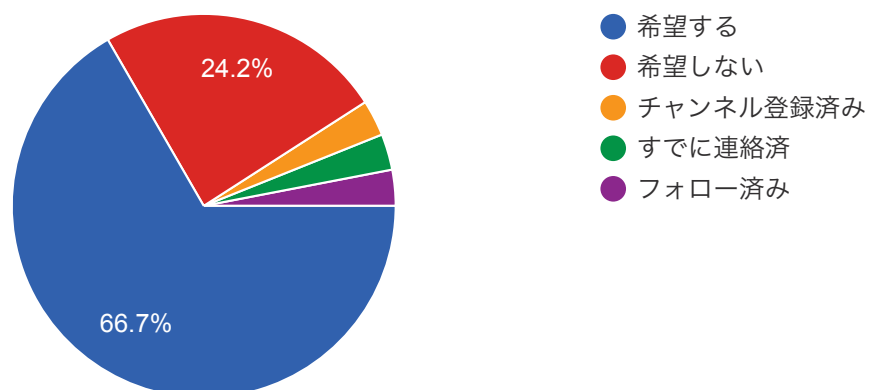
4.CPD行事参加票が必要な方はメールアドレスをご記入ください

19 件の回答



5.本日紹介された、ラジオ「技術のミカタ」やYouTube「技術士ちゃんねる」の活動について、講師からの今後のご案内を希望されますか

33 件の回答



行事名	今日から君も孫子たれ！～自分らしいリーダーシップを見つけよう～
日時	【例 会】2021 年 9 月 18 日(土) 13:30～16:30 【懇親会】 同 日 16:30～17:30
場所	オンライン(Zoom)
講師、発表者	吉岡副委員長
担当者:(○:主担当)	○吉岡副委員長、原田副委員長、大藁委員、臼井委員、三谷委員、徳原委員
参加者数	【例 会】37 名(一般 27 名、委員 10 名)【懇親会】12 名

1 背景・目的

中国古典の兵法書の1つである「孫子」は、戦略だけでなく、戦いを有利に進めるための考え方や組織作りの心構えも含まれており、現代ビジネスの現場にそのノウハウが活用できるとされている。本例会では、若手青年層を対象に現場でリーダーとして立ち振る舞う際の考え方について、「孫子」を題材としたグループワークを通じて「組織やチームをまとめるためのリーダーの心構えを学ぶ」ことを目的とし、技術士コンピテンシーの内「コミュニケーション」及び「リーダーシップ」の継続研鑽の場を提供するために開催した。

2 例会内容

(1) 講義・グループワーク・発表

講義では、孫子の言葉を技術士コンピテンシーに関連付けながら説明した。その後、7 グループ(春秋戦国時代の戦国七雄にちなんで 7 国)に分かれてグループワークを実施し、グループで話し合った内容をそれぞれ発表し、共有した。

a. 孫子に学ぶリーダーシップ その 1

講義:戦わずして勝つために(リーダーの心構え)

I-1. 道・天・地・将・法

I-2. 思いやりの心で部下に接する

I-3. チームを1つにまとめる

グループワーク・発表:リーダーとしての考え・立ち振る舞いを考える

これまでに上司から言われてうれしかった言葉や対応とそれによる成功体験、自分がリーダーだったらこんな言葉や対応を部下にしたいと思うことを話し合い、共有した。

b. 孫子に学ぶリーダーシップ その 2

講義:リーダーとして最高の作戦を考える

II-1. 勝てる見込みを計るための思考段階

II-2. 常に通用する勝利の法則はない

II-3. 敵が思いもしないところはどこか

II-4. 劣勢の時こそ考える

グループワーク・発表:作戦を立てる

参加者を「若手ミカン農家」と仮定して、ミカンを使った山間部地域の地域活性化対策について作戦会議を行なった。考えた作戦の内容を発表した後、最も効果的な作戦と思える国を投票してゲーム性を取り入れた。優勝は齊の国だった。

(2) 懇親会

参加者と青年メンバーを含めて 10 名程度で、約 1 時間の懇親会を実施した。参加者 1 人 1 人の意見や感想をじっくりと伺うことができた。参加者からは、青年メンバーが楽しそうに活動していると言っていた。また、青年の活動にも興味関心を持っていたようだった。

3 成果と所感

今回の例会の KPT と所感を以下に示す。

(1) K:keep 良かったこと(今後も続けること、成果)

・開催 3 か月前から取り掛かれたため、準備段階から計画的かつ入念に進めることができた。

- ・グループワークの題材を 2 案考え、リハーサルで実際に行なったうえで決定したことで、グループワークの質を高めることができた。
- ・ファシリテーターがグループワークをスムーズに進行させるために、講義内容をグループワークの冒頭で説明して参加者の理解を深める工夫をしていた。
- ・グループワークでは、各班で活発なアウトプットができていた。
- ・当日は時間通りに進行でき、時間管理ができていた。
- ・当日の運営側の連絡手段として Slack を活用し、スムーズな連携が図れた。

(2) P:problem 悪かったこと（今後はやめること、反省点、改善したいこと）

- ・当日無連絡でキャンセルの方が多く、最終的に約 10 名のキャンセルがあった。開催前夜までグループワークのメンバーの入れ替え作業を行ったが、結果的に当日の班の人数にばらつきが出てしまった。参加費を有料にすることで、ドタキャン対策になると考えている。
- ・講師が出張で当日不在になる可能性があった。その場合は、講義を事前に収録して動画を流すという案が出ていた。

(3) T:try 次に挑戦すること

- ・講師人員は2人確保する。
- ・例会主導役と講師役は別にする。
- ・対面式の例会を想定して、ファシリテーター無しでのグループワークの進行を検討する。

(4) 所感

各例会担当者が、web 打ち合わせでは事前配布資料をしっかりと目を通してから参加し、建設的な意見を述べて合って、例会の質を高めようという雰囲気を作っていた。特に、「孫子だから作戦会議をやりたい」という意見を取り入れたグループワークを開催できたことは良かった。

また、Zoom の投票機能を使って作戦内容のコンテストを実施することで、参加者をさらに巻き込んだ例会になったのではないと思う。参加者からは「想像力を働かせてグループワークに挑んだ」「孫子に興味を持ったので本を読んでみたい」というコメントがあり、参加者の今後の自己研鑽にもつながる例会になったと思う。

本例会では、参加者の年齢を 45 歳以下に設定して参加者募集を行なったが、46 歳以上の方からの申し込みが 10 名程度あった。大変申し訳なかったが、個別に参加できない旨の連絡を行った。活動所掌では「若手青年層向け」の CPD 行事を提供することになっているが、青年層に限らず様々な年代から青年イベントの需要があることがよく分かった。

4 今後の展開

前項で抽出した今回の成果・反省点等を、例会担当者が次回の例会担当時に関係者に周知して活用する。

5 実施状況

【グループワーク 2 回目の優勝国の発表資料】

テーマ②	A さん	B さん
・山間部地域の地域活性化	C さん	D さん
・ファシリテーター		
・状況を整理しよう	《講義内容》 Ⅱ-1. 産・製・販・流・勝 Ⅱ-2. 変化する状況の把握	《講義内容》 Ⅱ-3. 誰が望んでいるのか Ⅱ-4. 変換の時に考える
・山梨県のみかん農家(都心から100km) 右手有る10名の農家	・地域の特色を生かしたアイディアを考えよう	・都会からのアクセスを活かした アトラクション(ジグザグラインのみかん農園を眺める)
・ブランディングができていない(味は美味しい) 地元では評判(味は保障されている)	・みかんの食べ比べ(静岡農家とあえてコラボ)	・みかんの食べ比べ(静岡農家とあえてコラボ)
・生産量が少ない 安価な土地がある	・加工製品(シヤム、アイス、ジュース等)	・加工製品(シヤム、アイス、ジュース等)
・競合→静岡(距離的な競合)	・子地主を募集→資金確保・地元の応援リポーター	・子地主を募集→資金確保・地元の応援リポーター
作戦内容のまとめ	・希少価値(少量生産・時期限定) →インパクトのあるネーミングでブランディング	・希少価値(少量生産・時期限定) →インパクトのあるネーミングでブランディング
・みかんの食べ比べ(競合の静岡農家とあえてコラボ) : 戦わずして勝つ		
・Youtubeでストーリー性のある「みかん」を売り出す : 希少価値のブランディング		
→子地主募集で「地元の応援リポーター」を増やす		

【参加者の集合写真】



以上

9月例会青年委員会例会アンケート

27 件の回答

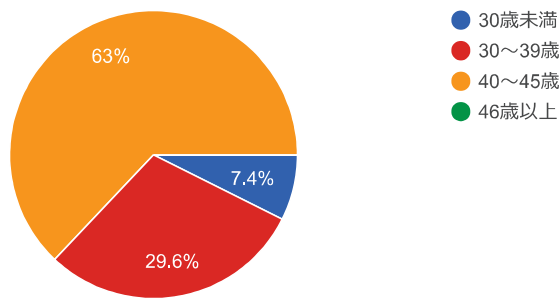
[分析を公開](#)

Q1.あなたご自身について教えてください



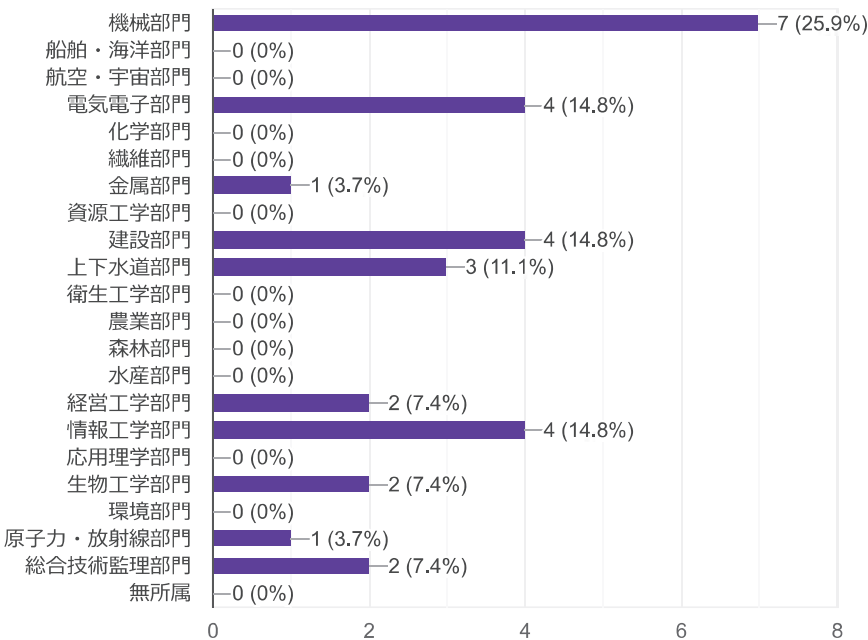
年齢

27 件の回答



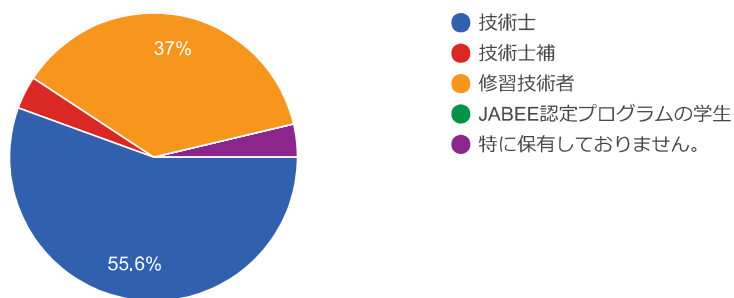
技術部門

27 件の回答



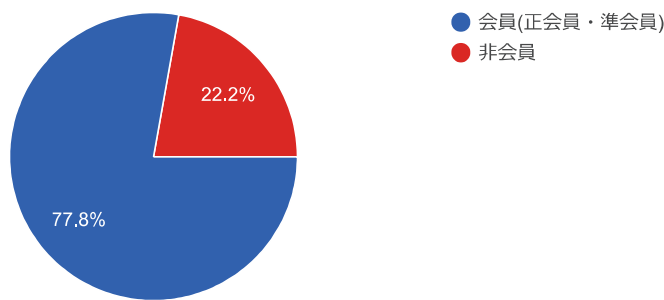
技術士の区分

27 件の回答



技術士会の入会状況

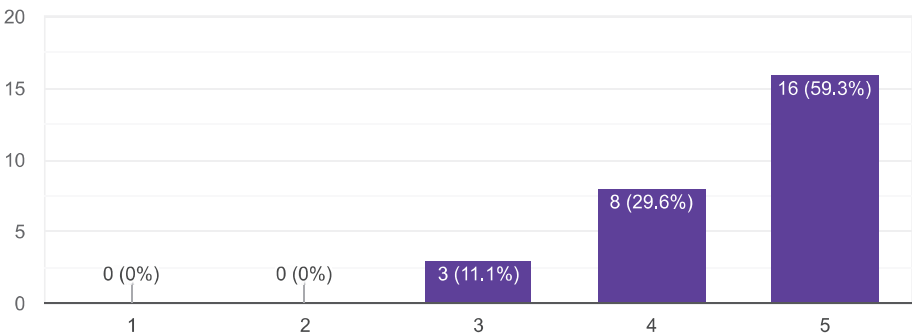
27 件の回答



Q2. 今回のイベントについて

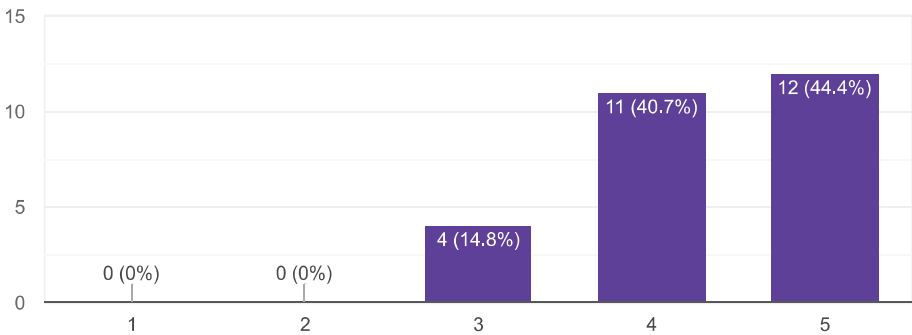
1. 本日の講義内容はいかがでしたか

27 件の回答



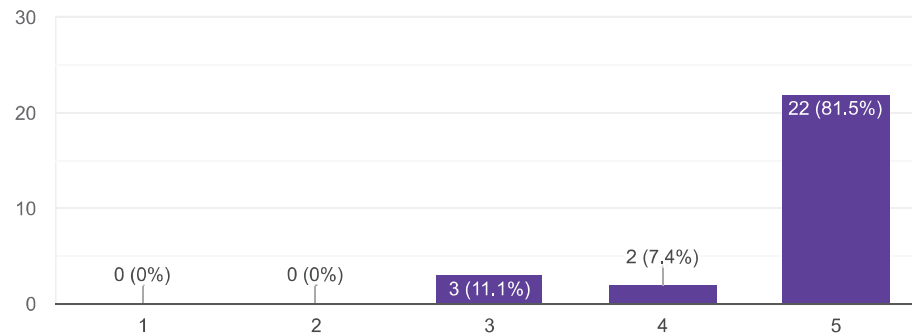
2. 講義の資料はいかがでしたか？

27 件の回答



3.講義での青年スタッフの対応はいかがでしたか？

27 件の回答



4.講義について、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。（任意）

13 件の回答

技術士に必要な能力との関係性もテーマに取り入れており素晴らしかった

グループワークをやると、参加者の価値観を知れて、大変勉強になりました

幅広い意見や物の見方を知る有意義な時間でした。

大変、有意義な内容でした。もう少しゆっくり詳しく聞きたいと思いました。

もう少し孫子の中身を説明しても面白かったと思います

後で復習したいので、講義の資料の配布は可能でしょうか。

孫子の兵法を読んでみようと思いました。きっかけをくださってありがとうございます。

分かりやすい資料と説明で、今まで全く知らなかった孫子に興味を持ちました。参考文献を読んでみようと思います。

興味のあったテーマなのでとても良かったです

簡潔に纏められていて分かりやすかったです。

事前にいただいていた資料にあった、講義の要点についても触れていただけたと思ってたのですが、時間の関係でしょうか。私はとても重要なことが書いていると思ったので参考にさせていただきます。

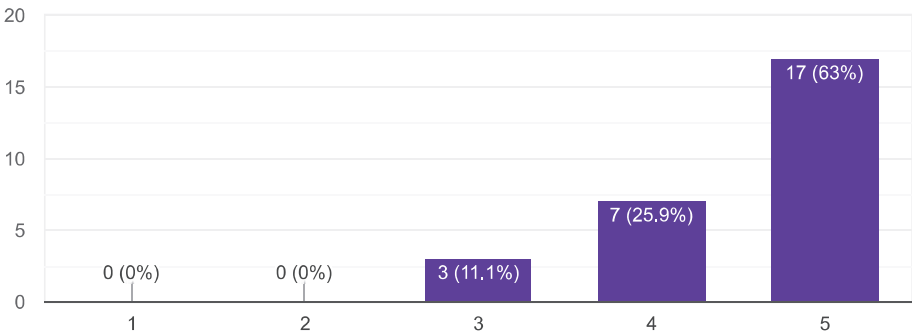
国名と地名が一致しませんでした。地図があっても良いかと思いました。

ちょうどよい分量で分かりやすいと思いました。ありがとうございました。



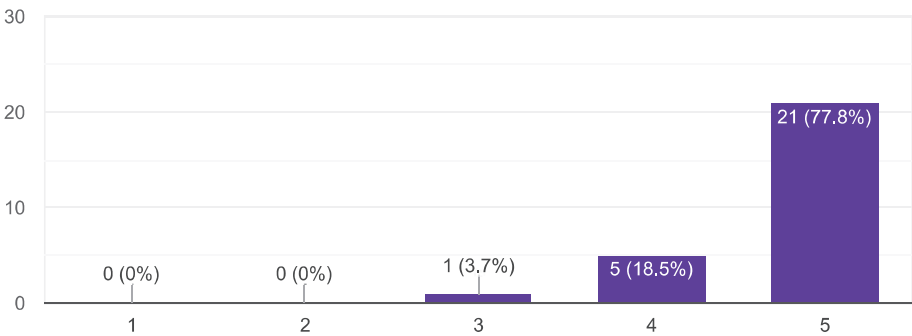
5.グループワークの内容はいかがでしたか？

27 件の回答



6.グループワークでの青年スタッフの対応はいかがでしたか？

27 件の回答



7.グループワークについて、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。（任意）

11 件の回答

大変参考になりました

ファシリテーターの方が適宜話題を振って下さり、ありがとうございます。

楽しく意見交換させていただきありがとうございました！

ファシリテーターの方の進め方が勉強になりました

様々な意見が聞けて面白かったです。

オンラインにもかかわらず、スムーズに進行いただきました。ありがとうございました。

分野が違くと視点が違い、面白い意見をたくさんきくことが出来ました。自分の技術分野だけでなく広い視野を持ちたいと思います。

ファシリテータの方の進行がとても良く、楽しくグループワークできました

ファシリテートしていただきました原田さんには感謝申し上げます。

限られた時間でまとめていくのはなかなかハードルが高いと思いました。

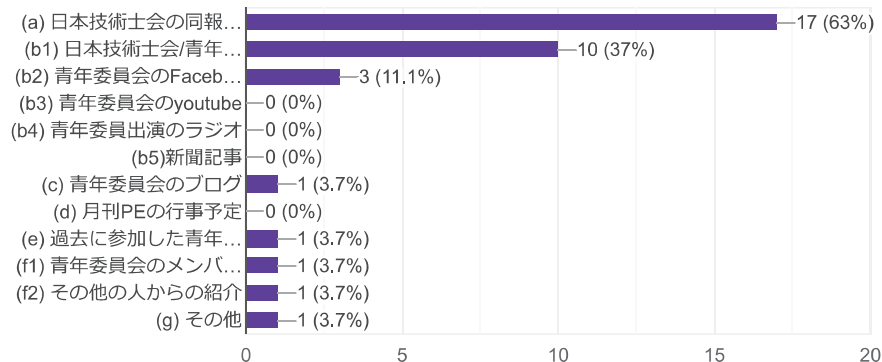
ほぼ初対面の人と意見を出し合うことになりますので、ゴールを確認するところから論理的に議論を深めていくのか、各々の意見を出して最終的に1つにまとめていくのか、難しいですね。投票の感じを見ると、ゴール（目指すところ）を最初に共有して、では何をするかというところを議論できたグループのところの票数が多かったかなという印象です。

当日のドガキャンもあると思いますが、グループ間の人数差が気になりました。当日調整しても良いかと思います。

開講いただき、ありがとうございました。ほかの方と議論でき有意義な時間を過ごせました。

Q3. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったもの。

27 件の回答



その他と答えた方は具体例を教えてください。（任意）

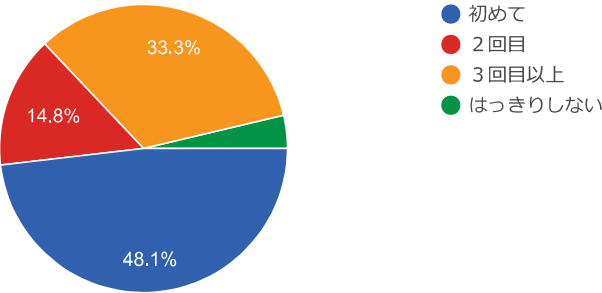
1 件の回答

技術士会HPの予定表

Q4. 青年委員会のイベントについて

統括本部の青年委員会のイベント参加は初めてですか？

27 件の回答



2回目以上と回答いただいた方に、過去に参加した統括本部の青年委員会のイベントで印象に残っているものがありましたら、教えてください。（任意）

7 件の回答

技術伝承のテーマ

すごいリーダーの作り方

ラポール、最高のチームの作り方

Youtubeの回

・ゲーム理論の会 ・「すごいチームのつくり方」

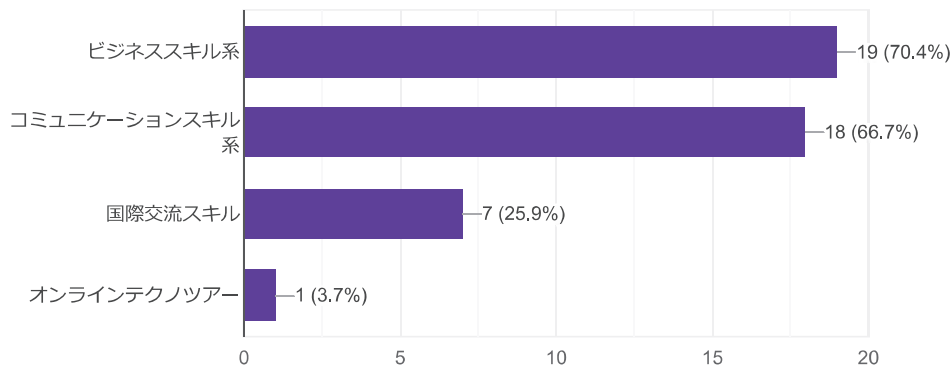
「すごいチームのつくりかた」

テクノツアー



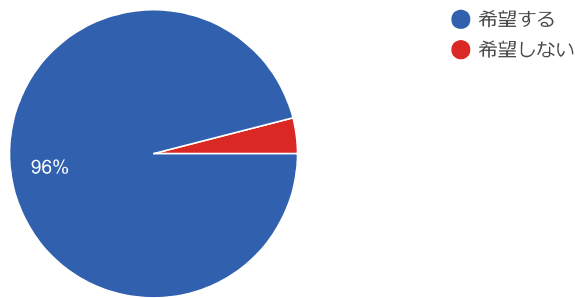
今後の統括本部の青年委員会のイベントで、開催してほしい内容がありましたら、教えてください。

27 件の回答



講義やグループワーク結果の資料の配布を希望される方は、お知らせください（任意）

25 件の回答



青年委員会に質問したいこと、伝えたいことがありましたら、ご記入ください。

7 件の回答

凄く楽しく有意義な時間でした。また参加させていただければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

青年委員会の活動内容について興味があります。どこから活動内容の詳細を確認できますでしょうか。

ご苦労さまでした。

今回のようなイベントはとてもうれしいです。企画は大変だと思いますが、今後もぜひよろしくお願いいたします。

たびたびイベントに参加し、いろんな刺激を受けております。企画の立案や準備にリハーサルに念入りに準備してくださっているのを毎回感じております。青年委員会の活動に興味はあるのですがどういう感じで活動するのかイメージがつかないところもあり、もう少しだけ情報が欲しいと思っています。（どれくらいの頻度で集まるとか？ そもそも自分は何ができるのだろうか？）

Zoomの事前登録機能を利用しては如何でしょうか？ そうすることで許可時に表示名が正しくなりますので、参加受付する際に便利です。（一部の部会、委員会で使用しています）

青年技術士支援委員会に入会を検討してます。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム



行事名	【内部例会】自己紹介&例会チーム決めイベント
日時	【例会】2021 年 10 月 16 日(土) 13:30~17:00 【懇親会】—
場所	オンライン(Zoom)、機械振興会館 211
司会進行	吉浦委員
担当者:(○:主担当)	○吉浦委員
参加者数	【例会】14 名(オブザーバ 2 名含む)

1 背景・目的

＜第一部＞

様々な環境変化(コロナ禍によるリモート対応、組織の所掌変更や名称変更、委員の新規加入等)があり、改めて青年メンバー全員の人となりを知ることができる内部例会を行うことで、今後の青年の活動を円滑に行えるようにする。

＜第二部＞

今後の例会を運営する上で、例会チームを編成する。

チーム毎に例会を担当することで、メンバー間のチームワークの強化と今後の例会の円滑な運営を行う。

2 例会内容

＜第一部＞自己紹介発表・フィードバック

メンバー全員が一人ずつ事前提出した自己紹介シートに基づき 4 分間の発表を行った。その後、発表を聞いたメンバー全員が、Zoom のチャット機能を使って発表の感想や質疑のフィードバックを発表者に対し 1 分間で実施した。

＜第二部＞例会チーム決め

今回新たな試みとして、下記の①～③の例会チーム制とし、チーム毎に例会を担当する方式を導入した。

① ビジネススキルチーム、②コミュニケーション能力チーム③広報チーム④国際チーム

事前にメンバー全員が希望するチームを意思表示する事で、スムーズなチーム編成とチーム毎の例会内容についてのミーティングを実施した。

3 成果と所感

今回の例会の KPT と所感を以下に示す。

(1) K:keep 良かったこと(今後も続けること、成果)

＜自己紹介＞

- ・メンバー全員の自己紹介の場を設けたことで、オンラインでの打ち合わせや定例会では疎になりがちなコミュニケーションの話題を提供することができた。
- ・自己紹介を発表するだけでなく、フィードバックを受けることで双方のコミュニケーションを図ることができた。
- ・青年メンバー以外にオブザーバーとして 2 名の参加があった。

＜例会チーム決め＞

- ・従来の主担当決めの例会決めでは、年間の主担当決めに多くの時間を費やしたが、チーム編成をして、具体的な例会内容はチーム内で協議するという事で

(2) P:problem 悪かったこと(今後はやめること、反省点、改善したいこと)

＜自己紹介＞

- ・欠席者が 3 割弱あり、事前提出した自己紹介シートの代読が多々あった。

＜例会チーム＞

- ・当日のタイムスケジュールがタイトで、チーム別の話し合いの時間が少なかった。
- ・例会開催月の決定までは至らなかった。
- ・会場とオンラインのハイブリッド開催で、ハウリング対策やグループミーティングの騒音対策。

(3) T:try 次に挑戦すること

<自己紹介>

- ・欠席者の自己紹介シートを他者が代読するのではなく、本人のビデオメッセージにする。

<例会チーム決め>

- ・例会当日までにチームを決めておき、ある程度打ち合わせをしておく。
- ・次回例会決めは、従来の主担当制かチーム制か
- ・例会案をストックする Slack チャンネルを活用した例会を検討する。

(4) 所感

- ・自由フォーマットの自己紹介シートの作成としたことで、各々個性が出る自己紹介イベントになった。
- ・自己紹介の持ち時間を発表とフィードバックで 5 分とし、途中休憩を挟みながら実施したことで適正な開催時間だったと思われる。
- ・普段から接しているメンバーが、改めて自己紹介をすることで、新たな気づきや人となりを再認識できた。
- ・例会チーム編成は、青年メンバーの協力により人数的にバランスが良く編成が出来た。
- ・今後各チームで、メンバー全員が主体性をもって計画的に進めてもらいたい。
- ・内部例会であったとしても、1 人で例会を担当することは負荷やリスクが大きい為、今後は複数名で実施することを検討する。

4 今後の展開

例会決めの方法は、従来の主担当制かチーム制か、別の方法を取り入れるのか今後の例会運営での成果・反省点等を踏まえ検討する。

5 実施状況

【参加者の集合写真】



【会場開催状況】



以上

行事名	全国青年の集い 2021	
日時	2021 年 11 月 27 日 (土) 10:00 ～ 11:40 VR オンラインテクノツアー 13:30 ～ 16:30 グループワーク 18:00 ～ 20:00 大懇親会	
場所	オンライン (Zoom、YouTube、oVice)	
講師、発表者	VR オンラインテクノツアー 後藤委員、三谷委員 グループワーク 長内様、谷野宮様、渡辺様、諸田様、大藺委員	
担当者 (○：主担当)	運営・統括 ○高木副委員長 IT・受付 ○一川委員 記念品 ○村上委員 VR オンラインテクノツアー ○佐藤副委員長 グループワーク ○原田副委員長 大懇親会 ○吉浦委員	
参加者数	VR オンラインテクノツアー 68 名 グループワーク 40 名 大懇親会 30 名	

1 背景・目的

2021 年 5 月 11 日の理事会にて承認された青年技術士支援委員会の所掌変更を受け、部会や地域組織の枠を越えた全国の若手層会員を対象にした活動（若手正会員の活動事例の広報、若手の意見交換・討議の場の設定など）の一つとして、2021 年技術士全国大会の関連行事として「全国青年の集い 2021」を開催した。

本企画は「青年世代の技術者が次世代の主役になろう！」をコンセプトに据え、これまでの自身の活動を振り返ると共に、現代社会の課題を踏まえ、今後、参加者各自が成し遂げたい目標を再認識するきっかけ作りの場（参加者各自が成し遂げたい目標の再認識と、これらの目標を参加者同士で披露し合うことで、具体的に行動する意欲を引き立てる仲間作りの場）を提供し、部会や地域組織を超えた若手層の連携強化の促進を狙いとした。

2 内容

2.1 運営全般

(○高木副委員長、吉岡副委員長、河野委員長、岩部副委員長、一川委員、大藺委員、徳原委員)

2.1.1 企画

- ・ 本企画は通常の CPD 行事とは異なる予算であるため、企画書作成の上、企画委員会にて審議・承認された CPD 行事であった。(企画書、別紙 1 参照)
- ・ 本企画は「記念品」、「テクノ」、「グループワーク」、「懇親会」の 4 つのグループを作成し、青年委員・委員補佐はいずれかのグループに所属して準備を進めた。

2.1.2 デザイン

- ・ 吉岡副委員長が本企画のシンボルマークデザインを作成した。(図1)
- ・ 上記デザインを元にポロシャツ(図2)を作成し(担当:岩部副委員長)青年委員・委員補佐が着用した。



図1 シンボルマークデザイン



図2 ポロシャツ

2.1.3 当日の進行

- ・ 運営担当者は機械振興会館 211 会議室にて全体の進行を管理した。
- ・ 各担当者は担当の企画開催時のみ 211 会議室にて企画の進行を行った。
- ・ 企画に携わらない青年委員・委員補佐は 6-61 会議室、6-62 会議室を使用することで感染症予防に努めた。
- ・ 感染症予防のため各会議室は定員の半分以下の人員で使用した。

2.2 記念品の製作

(○村上委員、明山委員補佐、山本委員補佐、高瀬委員補佐、吉岡副委員長、高木副委員長)

2.2.1 概要

- ・ スマートフォンと組み合わせる事で VR 映像が鑑賞できる VR グラスを製作した。
- ・ 低価格な市販品もあることからできるだけコストを抑えることを目標とした。

2.2.2 設計

- ・ VR オンラインテクノツアーと組み合わせて使用することから、スマートフォンの脱着ができるだけ簡易であり、かつ装着時に画面操作が可能な形状とした。
- ・ 様々なスマートフォンに対応できるよう紐で押さえつけて固定する構造とした。
- ・ 複数回打ち合わせを実施して、コスト、組み立てやすさ、オリジナリティ等について各担当者の意見を集約し Fusion360 にて設計した。
- ・ シンボルマークデザインと担当者名を側面に彫刻した。

2.2.3 製作・配布

- ・ 筐体は A3 (厚み 4mm) の FDM 材をレーザー加工機 (Universal VLS 2.3) にて加工した。(関内 Fablab を利用、村上委員、明山委員補佐が加工を担当した。)
- ・ 切り出した筐体は焦げやヤニが残っているため、ヤスリがけによる仕上げを行った。
- ・ レンズ、筐体、紐、紐止め、記念キーホルダー(根付紐付き)、組み立て方法を記した取扱説明書を梱包し、匿名配送サービス「アズカリ」を用いて希望者に配布した。
- ・ 品質の良いものを参加者、品質に多少問題のあるものを青年委員に配布した。
- ・ 完成品を図3、梱包状態を図4、図5に示す。

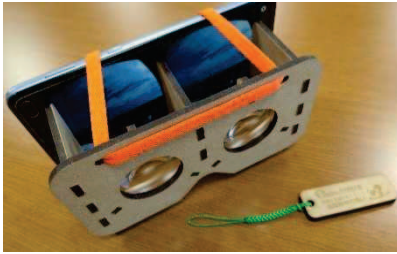


図3 完成品



図4 筐体梱包状態



図5 付属品梱包状態

2.3 VR オンラインテクノツアー

(○佐藤副委員長、後藤委員、臼井委員、三谷委員、山本委員補佐)

2.3.1 概要

- ・ 「関東近郊の参加者もあまり見たことがない映像」をコンセプトに、東京湾沿岸をめぐるクルーズツアーにて 360 度カメラで撮影を行い、解説と映像を交互に鑑賞することで臨場感のあるツアーを実施した。
- ・ 解説は港湾を専門とする後藤委員（技術士 建設・水産部門）が監修した。

2.3.2 内容・撮影

- ・ 株式会社ジールの「羽田空港・東京ゲートブリッジ・コンテナ埠頭見学クルーズ」を利用した。
- ・ 撮影は2回実施した。（1回目：9月12日、2回目：10月3日）
- ・ 撮影は最大録画時間に優れた「Insta360 one X2」をレンタルして使用した。
- ・ 解説箇所は「目黒川水門」「羽田空港」「ガントリークレーン」「海の森」「東京ゲートブリッジ」「東京レインボーブリッジ」「台場」「大井火力発電所」とした。
- ・ 撮影した映像は絵コンテを作成した上で、Adobe Premier Pro を用いて編集した。
- ・ 参加者の理解を深めるため、映像には「Softalk」で作成した解説音声を入れた。

2.3.3 当日の進行

① イントロダクション

- 概要説明（ツアーコース、ツアー会社名、料金等）
- 諸注意（動画視聴方法、リアクションツールの、VR グラスの使い方）

② テクノツアーの実施

- PowerPoint 資料を Zoom で画面共有して解説した。
- 解説に該当する VR 動画の YouTube URL を QR コードで共有し、参加者各自が鑑賞した。（図6）
- 上記を5回繰り返した。

2.3.4 実施状況・動画

動画①：<https://youtu.be/GMgMKO7GHnQ>

動画②：<https://youtu.be/2XlyRPBbqQ4>

動画③：<https://youtu.be/piWhP3MzIIY>

動画④：https://youtu.be/ze3_dgHN6O0

動画⑤：<https://youtu.be/ugz9wlucQt0>



図6 VR 動画鑑賞中の様子

2.4 グループワーク

(○原田副委員長、大藺委員、河野委員長、岩部副委員長)

2.4.1 概要

- ・ 現代社会の課題を踏まえ、今後参加者各自が成し遂げたい目標を再認識するきっかけづくりを行うとともに、これらの目標を参加者同士で披露し合うことで、具体的に行動する意欲を引き立てることを目的とした
- ・ また同じ志を持つ仲間作りの場を提供し、地域組織を超えた若手の連携強化を促進することを目的とした。

2.4.2 講演

- ・ 様々な立場の技術士 5 名がこれまでの経験と今後の目標について講演をした。(図 7)
 - 長内技術士（北海道本部、農業部門）
 - 谷野宮技術士（四国本部、応用理学部門）
 - 渡辺技術士（九州本部、機械部門）
 - 大藺技術士（統括本部、機械部門、金属部門）
 - 諸田技術士（統括本部、情報工学部門、情報工学会会長）

2.4.3 グループワーク

- ・ 4～5 名を 1 つのグループとして、約分のグループワークを実施した。
- ・ 各グループには青年委員・委員補佐が 1 名以上参加しファシリテータを務めた。
- ・ 自身が目指す技術者像を定め、それに近づくための行動計画を各自策定した。(図 8)

2.4.4 実施状況



図 7 講演

氏名	目標	行動計画	メンバーのアドバイス
Aさん	若手に憧れられる技術者	ちゃんとしな（母そうに見られず、フレンドリーに）	家族・友人と同じように部下に接する。飲みコミュニケーション等の交流の場を設ける。オン・オフのメリハリを設けて接する。
Bさん	機械部門の技術士合格	毎日朝か夜に勉強をする！！	家族の理解を得るために家族サービスし、自分の時間を得られるようにする。人を集めて勉強会を開催する。誰かに説明し、知識が理解できているか判断する。
Cさん	2 部門目の技術士合格	あと一歩何かが足りず、基礎的な勉強を進めていく	勉強しているという感覚を持たない。2 部門目は専門から少し外れたジャンルだと思うので、専門書等を用いて勉強する。知識のアウトプットの場を作る。
Dさん	子供に尊敬される父親	その場その場の気持ちで子供に接するのではなく、筋が通った判断基準を持って接する	子供を年輩に迫った扱いにする、子供扱いしない。怒るときは怒り、遊ぶときはしっかりと遊ぶ。家族・妻の協力を得る。

図 8 グループワーク成果例

2.5 大懇親会

(〇吉浦委員、水柿委員、岩部副委員長、徳原委員、杉山委員補佐)

2.5.1 概要

- ・ 対面の立食パーティのように自由に移動ができ、好きな人と会話を楽しむことができるバーチャル空間を使った交流会を企画した。
- ・ ツールとして oVice（継続プラン”Standard”、1ヶ月）を使用した。

2.5.2 内容

- ・ 全員の顔が見えるような接続方法を用いて乾杯を行った。(図9)
- ・ アバターを使用して、「技」「術」「士」のアバター文字を作った。(図10)
- ・ 参加者に VR オンラインテクノツアー、グループワークの感想を述べてもらった。

2.5.3 実施状況



図9 円陣を組んで乾杯



図10 アバター文字（余興）

3 成果と所感

3.1 統括・運営

- ・ Covid-19 によりオンライン開催となったが、青年委員・委員補佐が一致団結することで、無事に企画を完遂することができた。
- ・ 連絡手段に Slack を活用した。メールでは過去の情報が埋もれてしまうことがあるが、Slack は掲示板のように使用できるため企画を推進する上で大変有用であった。
- ・ 参加管理にイベントペイ、記念品発送に匿名配送（アズカリ）を使用することで、参加者の個人情報を取り扱うことがなくなり担当者の負担が軽減した。

3.2 記念品

- ・ 初の全国大会オンライン開催、初の VR テクノツアーという、コロナ禍での制限のある開催だったが、その中で記念品を VR テクノツアー連携企画とした事で制限のある中での新たな挑戦とする事ができた。
- ・ Slack での情報交換や複数回の打ち合わせを経て、担当各員の知恵や技術が結集したものになった。

3.3 VR オンラインテクノツアー

- ・ 本来のテクノツアーであればリアル開催によって参加者同士の交流を目的とするところを、オンラインでのツアーを前提とすることから、主目的を交流から VR 技術の活用に切り替えたことで、何をどう見せれば楽しんでもらえるかということに集中することができた。担当者の技術レベルが高く、想定以上に充実した動画を参加者に楽しんでもらうことができた。
- ・ 一方、やはり VR 動画閲覧は個人での閲覧となることから、この時間をどう盛り上げていくかが今後のオンラインテクノツアーの課題である。

3.4 グループワーク

- ・ 5 名の講師による講演により、参加者が新たな気づきを得ることができ、有意義なイベントとすることができた。
- ・ 後半のグループワークにおいても、様々な意見交換がなされ、参加者各人の意欲向上に繋がった。一方、外部の参加者が円滑に議論に参加できるような工夫や、事前の準備が必要であった。

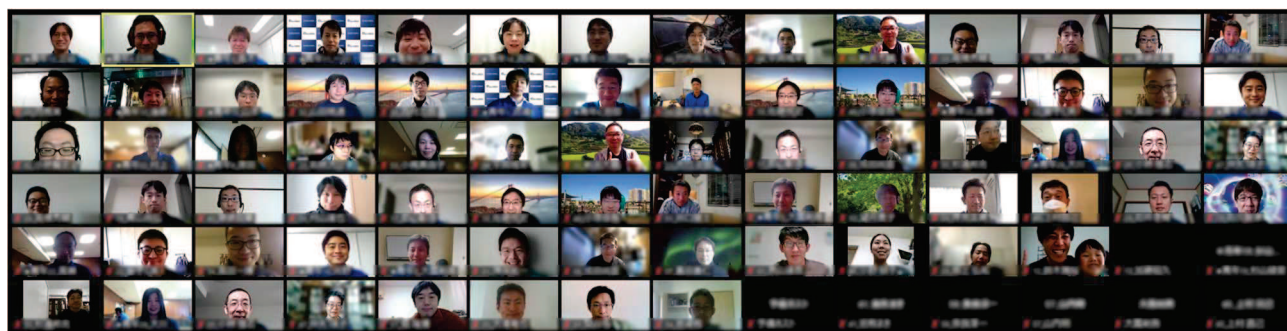
3.5 大懇親会

- ・ バーチャル空間 (oVice) を使用した初めての試みでオンライン懇親会を開催した。開会後に oVice の操作方法を説明し、参加者全員で操作方法を試しながら乾杯やアイスブレイクを進めることで初めて使うツールでも大きな混乱なく進行できた。
- ・ 対面の立食パーティの様に、自然に会話の輪がいくつも出来たのはバーチャル空間ならではと感じた。

4 今後の展開

今後、大規模なオンライン行事を開催する際、本報告書を活用する。

5 実施状況（参加者の集合写真）



6 会計報告

■収入の部	単 価	数 量	金 額
参加費	40,535 円	1 式	40,535 円
			40,535 円

■支出の部	単 価	数 量	金 額
講師謝金	24,500 円	1 式	24,500 円
講師交通費	3,568 円	1 式	3,568 円
撮影交通費	21,000 円	1 式	21,000 円
カメラレンタル費	20,570 円	1 式	20,570 円
映像編集ソフト費	7,656 円	1 式	7,656 円
バーチャルスペース利用費	22,000 円	1 式	22,000 円
			99,294 円

■収支実績

収入	40,535 円
支出	▲99,294 円
合計	▲58,759 円

(期中特別予算からの支出依頼)

7 添付資料

- 別紙1 企画委員会に提出した企画書
- 別紙2 開催報告プレスリリース
- 別紙3 外部アンケート

以 上

2021 年技術士全国大会（創立 70 周年記念）関連行事

「2021 全国大会 青年の集い」企画書

1. 背景

2021 年 5 月 11 日の理事会にて承認された青年技術士支援委員会の所掌変更を受け、部会や地域組織の枠を越えた全国の若手層会員を対象にした活動（若手正会員の活動事例の広報、若手の意見交換・討議の場の設定など）の一つとして、2021 年技術士全国大会の関連行事として「青年の集い」を企画する。

2. 行事企画の目的

本企画では、「青年世代の技術者が次世代の主役になろう！」をコンセプトに、若手層（対象：部会や地域組織の若手層及び部会や地域組織の枠を超えた全国の若手層会員等）にとっての自己研鑽を図ることを目的とする。本目的を達成するために、全国大会のテーマ「2030 年 SDGs 達成に向けて技術士ができること－技術士の知恵を活かす－」を踏まえ、以下の企画を行う。

- ①グループワーク
- ②オンラインテクノツアー
- ③交流会

上記①～③により、今後参加者自身が具体的に行動する意欲を引き立てる仲間作りだけでなく、部会や地域組織の枠を超えた全国の若手層会員の更なる連携強化が期待される。

また、本企画を通して、全国の若手層の繋がりを作ることにより、これからの日本技術士会の活動の更なる活性化を目指したい。

3. 行事企画の開催場所

本企画は全国の若手層会員が多数参加できるよう全てオンラインにて開催する。

4. 申請者

部 会 名	青年技術士支援委員会
組織代表者	河野 恭彦 takahikorower1@gmail.com
企画担当者	高木 真人 masato@taha.jp

5. 企画の概要

行 事 名	2021 全国大会 青年の集い
開催日時	2021 年 11 月 27 日 (土) 10 時 00 分～21 時 00 分
開催場所	会場：オンライン (Zoom, YouTube, oVice)
規 模	予定参加者：100 名 (地域組織及び統括本部の青年委員含む) 想定する参加者の年代等：30 代, 40 代, 50 代
参 加 費	45 歳以下の正会員・準会員：1,000 円, 非会員：1,500 円 46 歳以上の正会員・準会員：2,000 円, 非会員：2,500 円 ※ 地域組織及び統括本部の青年委員からは参加費を徴収しない。

6. 企画の詳細

本企画では下記 3 つのイベントを開催する。

- ・ VR オンラインテクノツアー (担当：佐藤副委員長)

開催時刻	10 時 00 分～11 時 30 分 (CPD 時間：1.5, 重み係数：1.0)
目 的	・ VR グラスと 360° カメラを用いた今までにない没入感のあるテクノツアーを企画・実行し、地域組織における若手層に対して模範的活動事例として提供する。
内 容	・ COVID-19 の感染拡大防止のため、屋外で撮影した 360° 映像に解説を加えたオンラインテクノツアーとする。 ・ 撮影は関東近郊の参加者もあり見たことがないと思われる東京湾を海から眺める映像とし、海上から見える各種施設、構造物について港湾を専門とする技術士が技術的解説をする。 ・ 解説を行う施設の例：東京ゲートブリッジ、レインボーブリッジ、羽田空港、巨大クレーン&コンテナ埠頭、海の森等
備 品	・ 記念品として VR グラス製作し、希望者に有償配布する。 ・ 没入感のある映像を撮影するため 360° カメラで撮影する。

- ・ グループワーク（担当：原田副委員長）

開催時刻	13 時 00 分～16 時 00 分（CPD 時間：3.0，重み係数：1.0）
目 的	・ 現代社会の課題を踏まえ今後、参加者各自が成し遂げたい目標を再認識するきっかけ作りを行うとともに、これらの目標を参加者同士で披露し合うことで、具体的に行動する意欲を引き立てる。 ・ 同じ志を持つ仲間作りの場を提供し、地域組織を超えた若手層の連携強化を促進する。
内 容	・ 経験談の共有（1 時間） 青年委員を経験した様々な立場の技術士からこれまでの経験、今後の目標を紹介して頂き、経験談を共有する。 ・ グループワーク（1 時間） 数名のグループを作り、これまでの経験や今後の目標を他者と共有し合うことで自身の目標と今後の行動計画を考える場とする。 ・ 発表（30 分） 各グループの代表者が、他の参加者の話から得た着眼点を自身の目標や行動計画にどう取り入れたかを発表するとともに、他の参加者の考えや目標、行動計画についても紹介する。

- ・ 交流会（担当：吉浦委員）

開催時刻	18 時 00 分～21 時 00 分
目 的	・ 参加者の親睦を深める。 ・ 地域組織を超えた若手層の連携強化を促進する。
内 容	・ バーチャルイベントスペースを用意し、参加者同士が自由に VR オンラインテクノツアーの感想や、グループワークで得られた目標等を披露し合うことで親睦を深める。

7. 参加費

【収入（予定）】

項 目	数量	単位	単 価	金 額
青年技術士支援委員会 委員・委員補佐 （企画・運営スタッフ）	20	人	0 円	0 円
地域組織 青年委員	40	人	0 円	0 円
参加費 正会員・準会員（45 歳以下）	10	人	1,000 円	10,000 円
参加費 非会員（45 歳以下）	10	人	1,500 円	15,000 円
参加費 正会員・準会員（46 歳以上）	10	人	2,000 円	20,000 円
参加費 非会員（46 歳以上）	10	人	2,500 円	25,000 円
VR グラス希望者	30	人	2,000 円	60,000 円
合 計				130,000 円

【支出（補助費申請内訳）】

項 目	数量	単位	単 価	金 額
VR グラス設計費	1	式	10,000 円	10,000 円
VR グラス材料加工費	30	式	2,000 円	60,000 円
360° VR カメラレンタル費	2	式	14,520 円	29,040 円
360° 動画編集ソフトウェア （Adobe Premiere Pro 月々プラン）	2	月	3,828 円	7,656 円
テクノ撮影交通費（4 人×2 回）	8	人	3,500 円	28,000 円
講師謝金（技術士会会員） （テクノ 1 名/グループワーク 3 名）	4	人	6,000 円	24,000 円
バーチャルスペース利用料（oVice）	1	式	11,000 円	11,000 円
イベント集金手数料（収入の 3.5%）	1	式	2,450 円	2,450 円
イベント参加費振込等手数料	5	回	330 円	1,650 円
VR グラス集金，発送等手数料	30	人	180 円	5,400 円
合 計				230,156 円

8. 360° VR カメラの購入について

当委員会で開催する例会はグループワークや討論、発表等、受講者同士が会話することで理解を深め合う受講者参加型の例会が多いという特徴がある。COVID-19 流行後、これらの例会を Zoom, Teams 等のツールを用いて開催してきたが、一方向の映像しか配信することができないことから臨場感に欠け、議論や交流が活発になりにくい課題があった。

そこで、会場で開催しているグループワークやその発表等を 360° VR カメラにて配信することで、参加者に臨場感を与え、より活発な議論や意見交換が可能になるものとする。また今後、当委員会が企画する例会を、全国の若手層に積極的に公開し、例会（CPD 行事）の事例提供や指導を行う上で、その情報提供に役立つことが見込まれることから購入を希望する。

尚、本カメラは鍵付きのボックスを青年委員会の棚に設置し、管理者を置き適切に保管するとともに、地域組織の青年委員から類似の例会を企画したい申し出があった場合、必要に応じて貸し出すことで積極的に活用する。

360° VR カメラはレンタルという条件にて企画委員会で承認を受けた。

以 上

News Release

2021年12月1日

報道関係各位

【イベント開催報告】

技術士全国大会関連イベント

全国青年の集い2021 大盛況で開催

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会（河野恭彦委員長）は、11月27日（土）に技術士全国大会（創立70周年記念）関連イベントとして「全国青年の集い2021」を開催しました。本行事には全国からのべ150名の技術者が集まり、「青年世代の技術者が次世代の主役になろう！」をコンセプトに、360°カメラとVR（仮想現実）ゴーグルを用いたオンラインテクノツアー、参加者が目標を再認識するきっかけ作りを行うグループワーク、バーチャル空間による立食パーティのような懇親会等、青年世代ならではの柔軟な発想で企画された各イベントに参加することで、未来を担う若手技術者としてこれからの自身の目標を設定するとともに、ともに成長できる仲間を得ることができました。

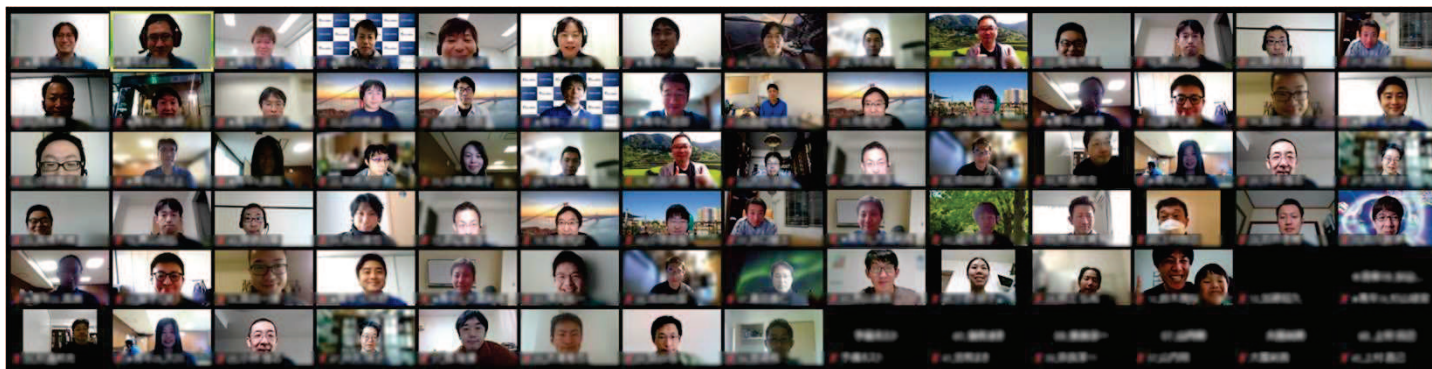


写真1 集合写真

イベント詳細

はじめに、VRオンラインテクノツアーでは、クルーズツアーを題材に360°カメラを用いて臨場感のあるツアーを開催しました。68名の技術者が参加し、参加者が自由に視点を変えられる動画をYouTube配信しました。当委員が設計・制作した限定生産の記念品「VRゴーグル」を使用することで、更に没入感のある体験を提供しました。

東京湾のなかなか見ることのない視点から、目黒川水門、羽田空港、ガントリークレーン、海の森、東京ゲートブリッジ、東京レインボーブリッジ、台場、大井火力発電所、品川火力発電所を港湾が専門の技術士による解説を交えたオンラインテクノツアーを行いました。



写真2 運営と記念品



写真3 ツアー映像：目黒水門（360°カメラ）

News Release

次にグループワークは、今後の目標設定を行うことによる意欲向上並びに全国の青年層技術士間の連携強化を目的とし、40名以上の参加がありました。前半は、部門や地域の異なる5名の青年層技術士より、これまでの経歴や今後の目標・行動計画の設定についてご講演をいただきました。各講演者の個性が十分に発揮された内容であり、参加者から好評を得ました。後半は、4～5名のグループに分かれ、各参加者の目標・行動計画の設定や、参加者間の意見交換を行い、グループの代表者1名より討議内容の発表がありました。講演で学んだ内容や参加者間のアドバイスが十分に活用された内容となりました。

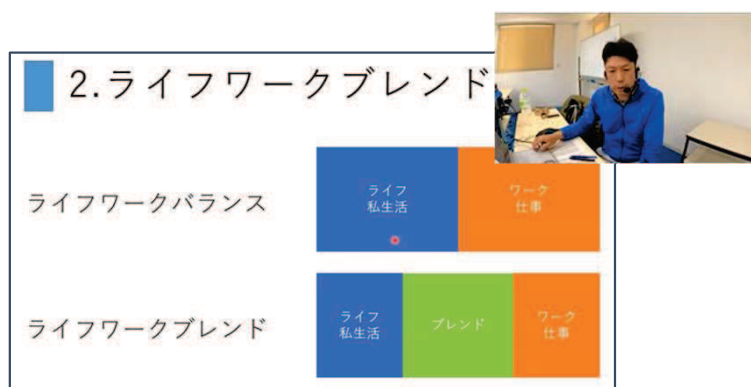


写真4 講演会

全国青年の集い 2021 2班

氏名	目標	行動計画	メンバーのアドバイス
Aさん	若手に憧れられる技術者	ちゃんとしないうちに（従うに見られず、フレンドリーに）	家族・友人と同じように部下に接する。飲み会・コミュニケーション等の交流の場を設ける。オン・オフのメリハリを設けて接する。
Bさん	機械部門の技術士合格	毎日朝に夜に勉強をする！！	家族の理解を得るために家族サービスし、自分の時間を得られるようにする。人を集めて勉強会を開催する。誰かに説明し、知識が理解できているか判断する。
Cさん	2部門目の技術士合格	あと一歩前かがみで、基礎的な勉強を進めていく	勉強しているという感覚を持たない。2部門目は専門から少し外れたジャンルだと思つて、専門書等を用いて勉強する。知識のアウトプットの場を作る。
Dさん	子供に尊敬される父親	その場その場の気持ちで子供に接するのはなく、筋が通った判断基準を持って接する	子供を年齢に沿った扱いにする。子供扱いしない。怒るときは怒り、遊ぶときはしっかり遊ぶ。家族・妻の協力を得る。

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会

写真5 グループワーク成果例

最後に行った懇親会は、対面の立食パーティのように自由に移動できて、好きな人と会話を楽しめるバーチャル空間を使った交流会を企画し、総勢30名以上が参加しました。

オンラインならではのアバターを使った企画や、終日行われたイベント（VRオンラインテクノツアー、グループワーク）のインタビューなどで一日を振り返ることで一体感のある交流会となり、対面の立食パーティに引けを取らない大盛況となりました。



写真6 円陣を組んで乾杯



写真7 余興（アバターによる人文字チャレンジ）

【本イベントに関するお問い合わせ】

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会 委員長 河野 恭彦

委員会内広報グループ：岩部 然育、高木 真人 E-mail: pr@peyec.jp ※取材の際は左記までお問い合わせください。

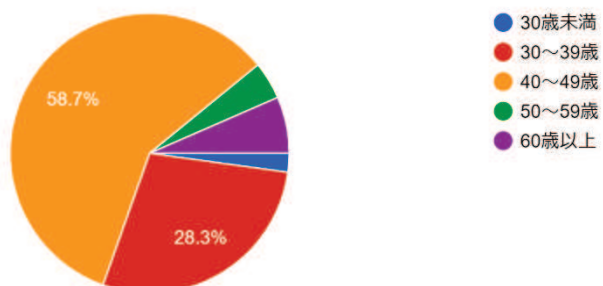
公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会とは？

公益社団法人 日本技術士会は技術士制度の普及・啓発を図ることを目的とした唯一の全国組織です。当会は、日本技術士会内に設けられた委員会組織で、45歳以下の技術士、技術士補、修習技術者から構成され、首都圏の若手技術士に向けた研鑽事業の企画・実施・支援をしています。

Q1.あなたご自身について教えてください

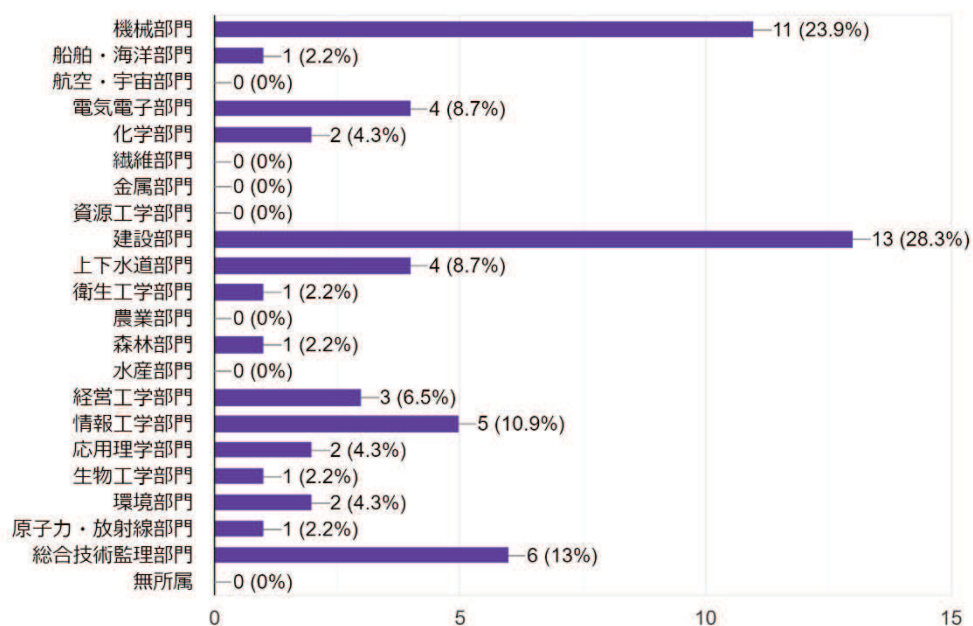
年齢

46 件の回答



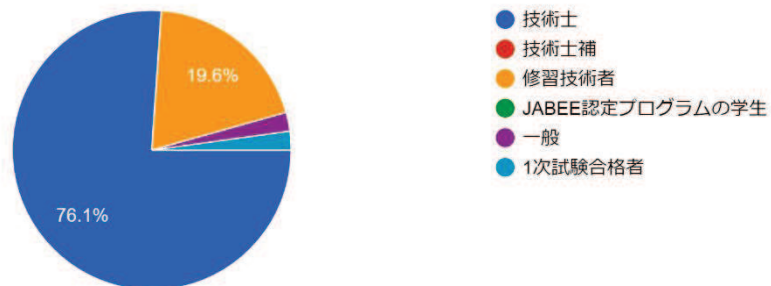
技術部門

46 件の回答



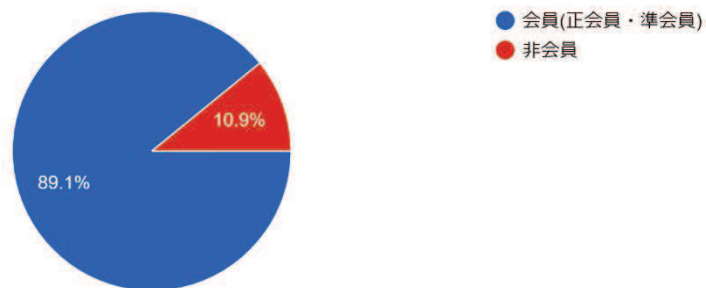
技術士の区分

46 件の回答



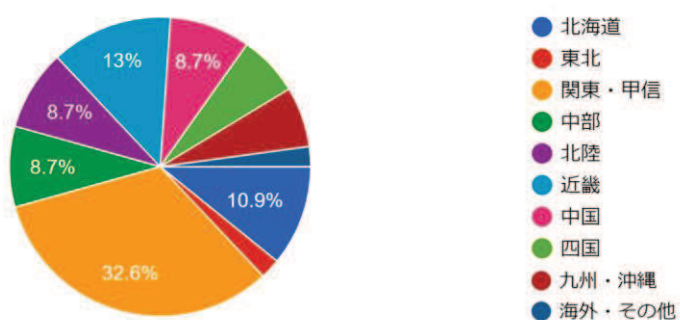
技術士会の入会状況

46 件の回答



どの地域から参加しましたか？

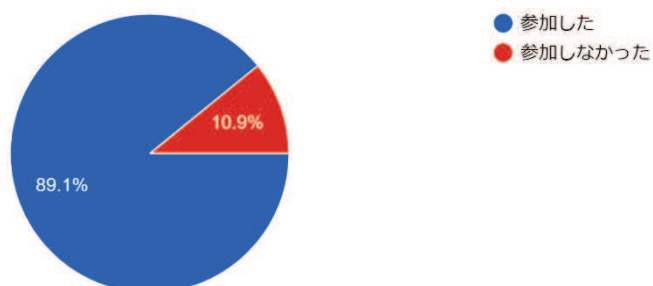
46 件の回答



Q2. オンラインテクノ

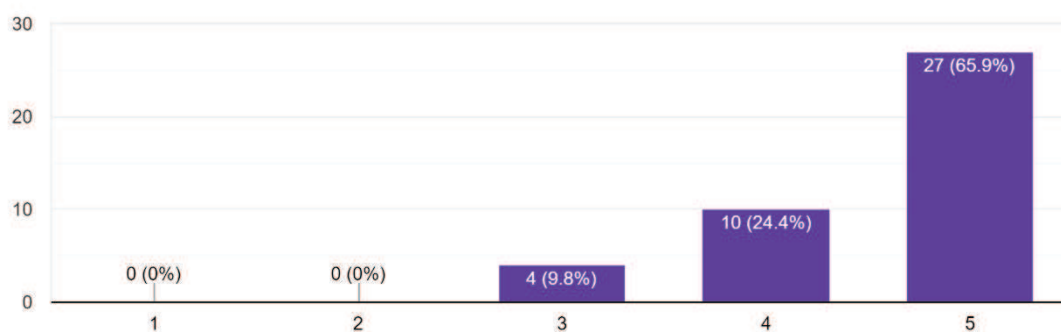
オンラインテクノに参加しましたか？

46 件の回答



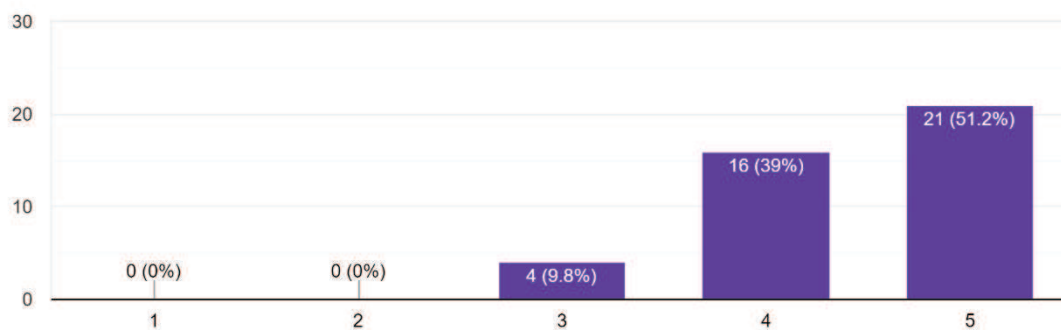
1. 内容はいかがでしたか？

41 件の回答



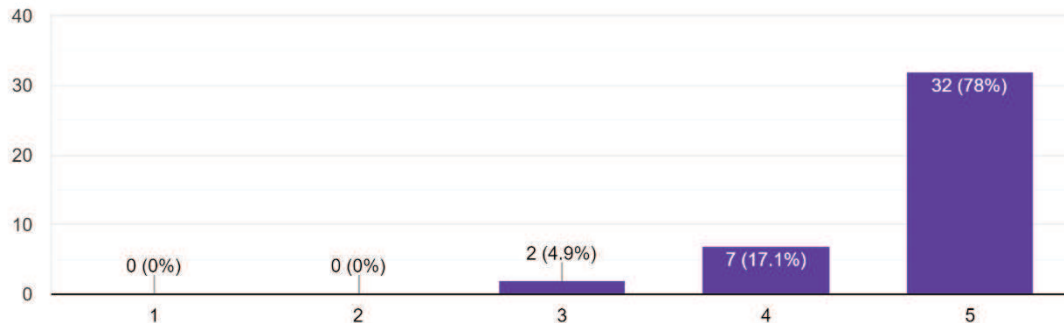
2. 資料はいかがでしたか？

41 件の回答



3. 青年スタッフの対応（イベントの連絡、当日の進行など）はいかがでしたか？

41 件の回答



4. ご意見やご質問がありましたらご記入ください

VR という最新技術を使ったツアーは、開催から楽しみであり、その期待を裏切らない完成度でした。十分楽しめました。ありがとうございました。

VR グラスが欲しかった

VR グラス無くても楽しめました！

準備大変だったろうと思います。お疲れさまでした。

オンラインテクノの動画はしばらく残しておいてほしい。他の人にも見せたい。

ご準備お疲れ様でした！360°撮影、VR など、新しいことに挑戦する姿勢を見習いたいです。

記念品と連動していて素晴らしかったです！

施設説明の資料が欲しいです

橋の下をくぐるシーンは臨場感あって楽しかったです。

大変楽しく学べるイベントだった。オンラインで参加しやすかった。

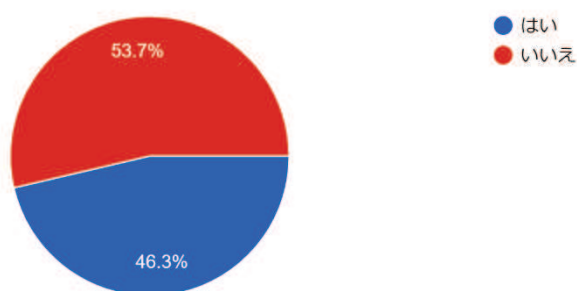
大変興味深いイベントを企画・開催くださり、本当にどうもありがとうございました。本当は一つ所に集まって直接顔を合わせて交流することに越したことはないでしょうが、遠方など簡単に参加しづらい事情のある者にとって、非常にありがたい開催方式と思います。今後、移動や集会の制限がなくなった後も、ぜひこのようなイベント開催方式が続けばよいと思っています。今後の主な課題は、さらなる双方向性というところでしょうか。

地域の会員に湾岸を見てもらうのは良いと思います。事前の簡単な解説自体は良かったと思います。一方で、物足りない点はもう少し技術的な講演、紹介等専門家よりの説明、詳しい内容が習得できるような組み立てが必要だと思います。ツアーについては企画委員会への申請で、金額の支援があり、単なる観光的な行事にならないようにという配慮は感じられましたが、もう少し突っ込んだ研修の機会となるよう、例えば午後、グループディスカッションの中身は知りませんが、午後にツアーの中のいくつかについて、役所の担当者、会員の中の専門技術を持っている人、企業の人などから、専門的な講演をもらえるとツアーでの知見と

合わせた研修となります。全国の青年に対する技術研修機会の提供、支援ということではもう一工夫必要と思いました。
バーチャルでツアーを楽しめる良い企画でした。イベントに気づいた時には VR グラスが完売していたのが残念でした。
現地に行かなくてもかなり細かい部分まで見ることができ、かつ専門的な説明も聞けてよかったです。
進行、見せ方、題材、いずれも素晴らしいアイデアで、本当にツアーをしているような雰囲気を味わえました。準備頂いた皆さま、ありがとうございました。
素晴らしいツアーでした。企画/準備に携わった皆様、ありがとうございました。臼井さんの司会は相変わらず神がかっていました。
準備は大変だっただろうと思います。お疲れさまでした。
臼井様の進行がとても上手でした！
360 度のパノラマ画面に感動しました！

5. 記念品（VRグラス）を購入しましたか？

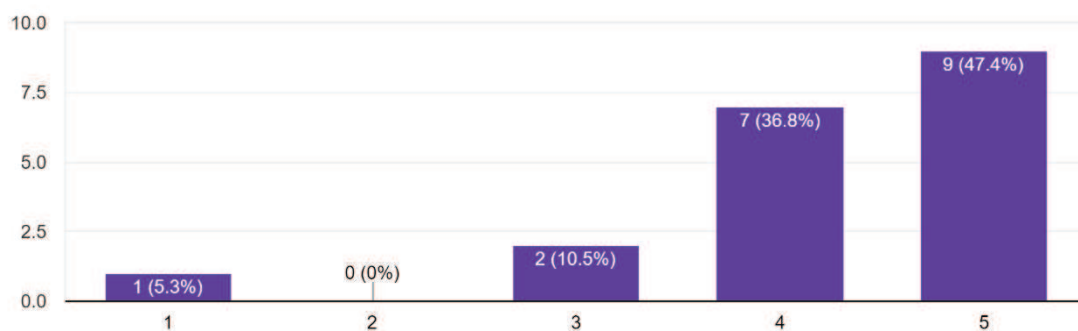
41 件の回答



Q2. オンラインテクノ(記念品)

1. 記念品（VRグラス）はいかがでしたか？

19 件の回答



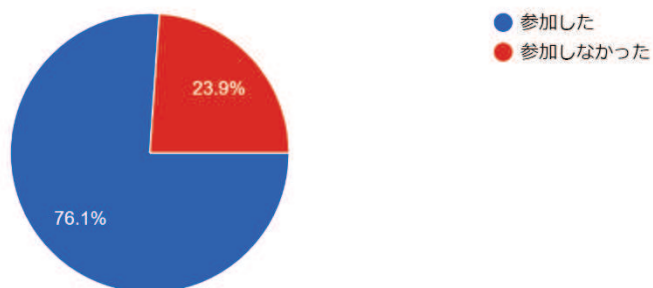
2. 記念品 (VR グラス) のご意見やご感想があればご記入ください

子供にも作れる分かりやすい説明書、見事。 https://youtu.be/wzbpw1Yg_3s
組み立ても簡単でよかったです。
部品 C が E を押し込む時に注意がいる。でもよくできている。
スマートで、組み立てやすく、素晴らしかったです。中部を越えましたね！
しっかりした説明書もあり、組み立ても簡単で、パーツごとにパーツ番号もあり作りやすかったです。
いろいろ他にも使えそうです
VR 初心者だったので、ありがたかった。また、今後の自作のヒントにもなった。子ども向けイベントなどでも検討してみたい。
購入に際し、アプリを携帯にインストールすることと、ユーザー登録が必要があり、とても手間でした。
子どもと一緒に作りました。作り方の説明を見ながら簡単に作ることができました。機構もよく見えて面白いと思います。
イベント後も使えるので購入して良かったです。
ストラップの使い道が気になる…
部品間の嵌合がややきつかったです。少し甘めの嵌合にして、木工用ボンドを使う。でもよかったかもしれませんね。
シンプルな構造ですが、しっかり VR が見えました！ありがとうございます

Q3. グループワーク

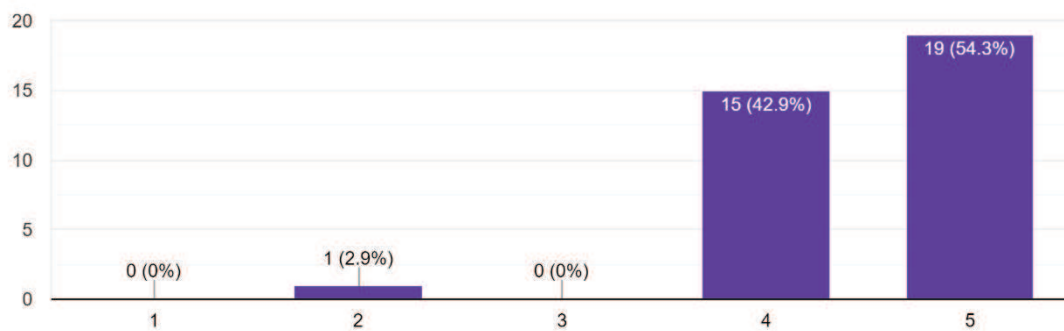
グループワークに参加しましたか？

46 件の回答



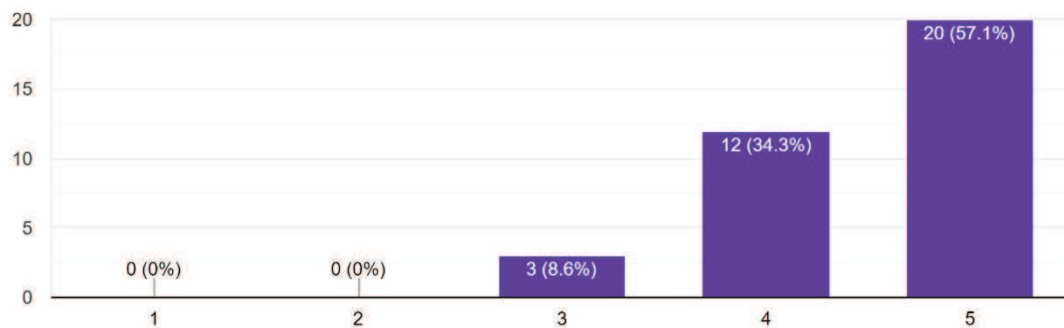
1. 内容はいかがでしたか？

35 件の回答



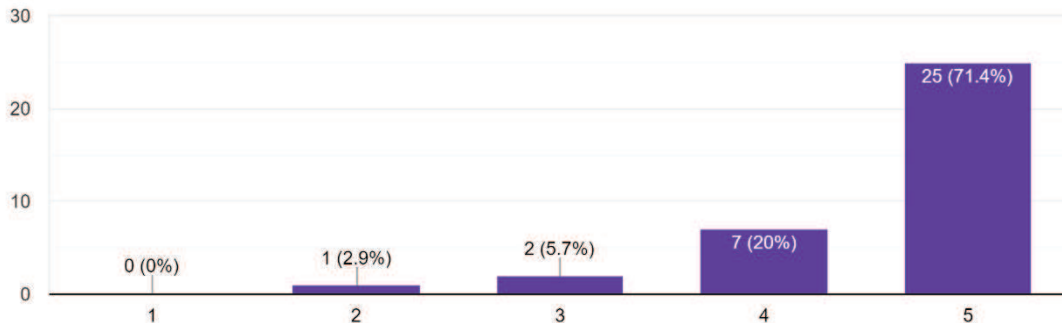
2. 資料はいかがでしたか？

35 件の回答



3. 青年スタッフの対応（イベントの連絡、当日の進行など）はいかがでしたか？

35 件の回答



4. ご意見やご質問がありましたらご記入ください

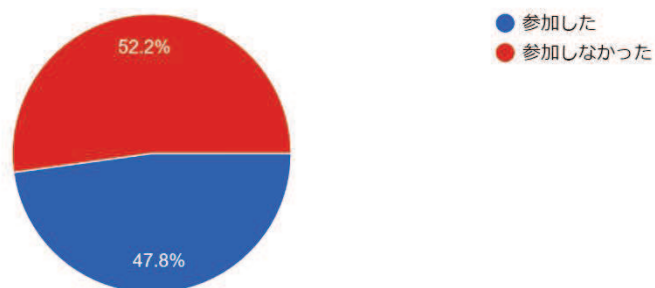
講演者の思いや考えに非常に共感しました。グループでの議論もまだまだ時間が足りないくらいです。有意義でした。
発表者（渡辺）です。至らないところがあったと思いますが機会をくださりありがとうございました。
様々な分野の方とお話できてとても良い経験となりました！
楽しかったです。ありがとうございました。
お疲れ様でした。
参加者の皆様の努力と意識の高さに心を動かされました。
5 人の紹介は少し多いかなと思いました。グループワークでは時間配分など大変だったと思います。お疲れ様でした。
運営お疲れさまでした。苦勞して開催していることが伝わりました。ありがとうございました。
初対面の人達と話すには、やや入りにくい感じがしました。
有識者の色々な知見が学べて大変参考になった。
終了予定時刻後に告知が続き、終了時刻が 20 分ほど遅れました。大人数の会議体なので、一旦は時間通りに終了していただいた方が良いと思います。ゆっくり
短時間で多くの技術士の方の話を聞けて有益でした。
登壇者のお話はそれぞれ示唆に富んでいて面白かったです。ライフワークブレンドはまさによく感じていたことでそれを言語化されていて腑に落ちました。ディスカッションの時間は盛り上がったこともあり時間が少し短い印象でした。
イベント準備など、お疲れ様でした！ おかげさまで非常に楽しく参加させていただきました。グループワークもとても楽しかったです！ 強いて言えば、時間のコントロールだけでももう少し上手にできたらなと感じました。参加していて、グループワーク中の時間の使い方が「？」のまま終わりになってしまいました。。
内容はよかったのですが、当初書記と聞いていたのが、急遽ファシリとなったのは少しびっくりしました。毎度のことながら時間があっという間で、うまくファシリテーションできなかったのは私にとって悔いが残りました。

周囲の人から尊重されながら仕事をしていると感じました。私のように、発注者側に属する作業者（乗員）から監視されていないだろうなと思いました。例えば、私がパソコンで共有サーバーにアクセスすると、作業者（乗員）が笑い声をサインにして、私がアクセスしていることを知らせるとか。私が近づくと、作業者（乗員）が笑い声をサインにして、周囲の人に私がいることを知らせるとか。

Q4. 大懇親会

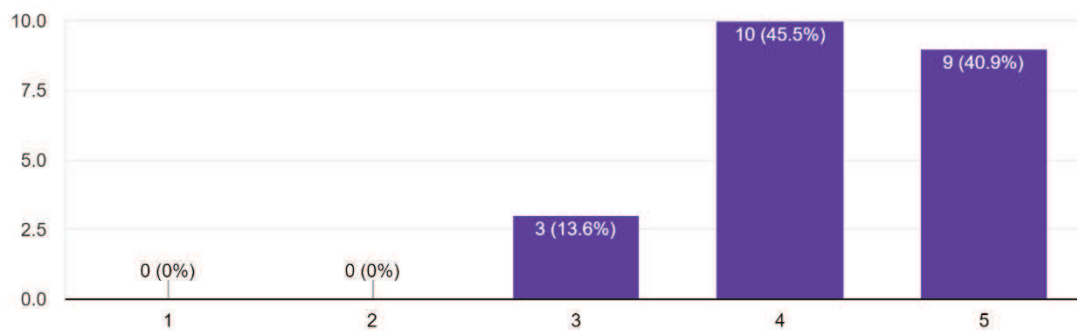
大懇親会に参加しましたか？

46 件の回答



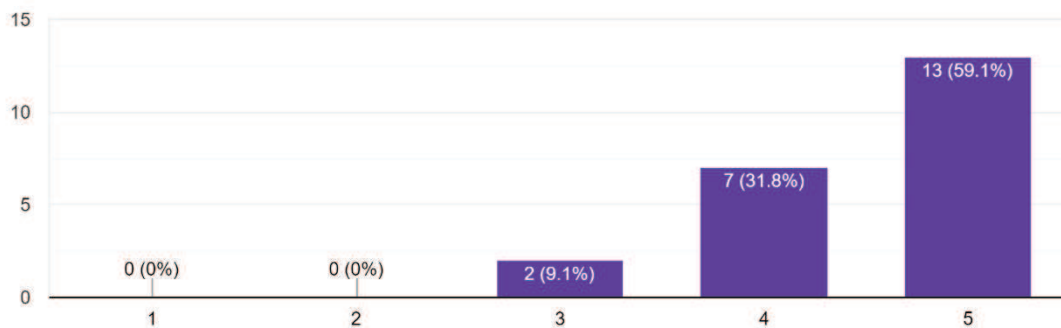
1. 内容はいかがでしたか？

22 件の回答



2. 青年スタッフの対応（イベントの連絡、当日の進行など）はいかがでしたか？

22 件の回答



3. コミュニケーションツール「oVice」はいかがでしたか？

これから楽しみです。多分満足すると思います。
すごいツールですね！
面白いです。スマホの回線が遅くて、音声だけ拝聴しました。
楽しめました！
面白かったので、機会があれば活用したいです。
慣れるまでが大変だった
慣れるまで時間かかるが、慣れれば楽しかった。
途中参加しちゃったので、使い方が分からずご迷惑をかけました😅
従来のオンライン懇親会は、とすると盛り上がりには欠けがちなのですが、その欠点を補ういいツールだったと思います。
面白い。
こんなツールがあるのですね。本当に立食パーティのようでした。ただ、同じ会場で複数人が喋ると声が聞き取りにくい場合があります。しょうがないと思いますが。
初めて使ったので少し戸惑いましたが、慣れていくと使い勝手が良さそうだなと思いました。 このようなツールが知れてよかったです。この会社も石川県七尾市に所在しながら全国、世界のスタッフと運営しているようで大変驚きました。
初対面の人達と話すには、やや抵抗がありました。初回は、実際にあってやりたいと思いました。
初めて使ったのですが面白かったです。通信状況があまり良くなく、声がハウリングして聞きづらいところもありましたが、システム自体は良かったです。
慣れるまでは戸惑いましたが、慣れたら使いやすかったです。
最新のツールをいち早く取り入れること自体に意義があると思いました。素晴らしいと思います。

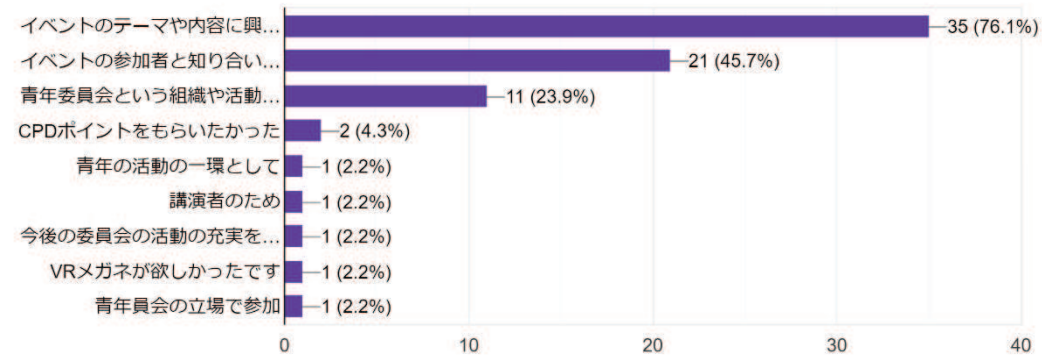
4. ご意見やご質問がありましたらご記入ください

本日のイベントは終日楽しめたとともに、刺激を受けました。統括の皆さんに感謝です。
自宅から参加していましたが、近い位置で話したような感覚でとても良かったです！
今後ともよろしくお願いします。
盛大に誕生日を祝っていただきありがとうございました。
特になし。
アイスブレイクの人文字は良いアイデアでしたね！
都合で途中退席しましたが、少しでも参加できてよかったです。準備期間を含めて運営お疲れさまでした。
お久しぶりの方や初めての方と気楽に話ができて楽しかったです。
突然のお祝いをしていただきありがとうございました。当日は黙ってスルーしようかなと思いましたが、そうは問屋が…でしたね。でもうれしかったです。
この度は素晴らしいイベントを企画していただき誠にありがとうございました。

Q5. 全国大会 青年の集いについて

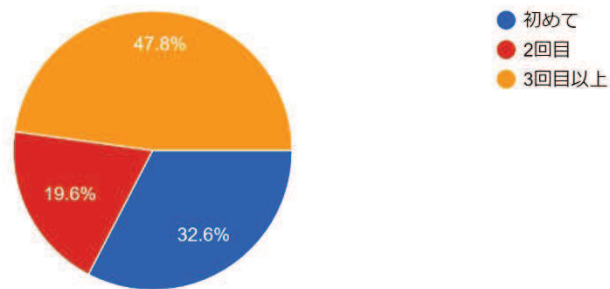
1. 全国大会の青年の集いに参加した目的は何ですか？

46 件の回答



2 全国大会の青年の集いに参加するのは、今回で何回目ですか？

46 件の回答



3. 今回が 2 回目以上の方にお伺いします。過去に参加した全国大会の青年の集いで、印象深かったテーマや面白かったテーマがございましたら、お書きください。

毎年、各地域が趣向を凝らしたイベントを企画するので、全て印象に残っています。絞らずにスイマセン。
グループ分けにのるグループ論議
徳島大会の前夜祭クルーズ&ライブイベント
バンド
中部のオンラインでの集まりが大変印象に残っています。全国大会は中止になりましたが、オンラインでいろいろ挑戦していましたので。今回も様々な挑戦が感じられたので、思い出に残ると思います。
愛知の AI
YouTube と孔子のの回は大変良かった
山口、徳島のバンド大会
今回の講演
かなり昔のことなので覚えていません。

H31 年の徳島大会にて全国有数の暴れ川である吉野川の講演および防災が印象深かった
どれも印象深く面白かったです。回答になっていなくてすみません。。
四国のグループワーク
藍染で T シャツをつくる

Q6. 青年委員会へのご意見

1. 青年委員会に質問したいこと、伝えたいことがありましたら、ご記入ください

これからも交流で技術力と人脈形成を図りましょう。それがセレンディピティを向上させ、自身の目標達成、スキル向上につながると思います。
ご準備ありがとうございました。
リアルな会議もしたいです。
今後も青年委員会のイベントに参加してみたいと感じました。追ってメール等でご質問をさせていただけたらと思います。
おつかれさまでした。楽しかったです。
皆様お疲れさまでした。また奈良でお会いしましょう。
皆さんぜひ来年、近畿に遊びにきてください。
企画運営、大変お疲れ様でした！
企画力や運営力にいつも驚きます。今後とも若手技術者のために青年らしく頑張ってください。
準備、運営お疲れさまでした。楽しく参加させてもらいました
オンラインで青年委員会の活動に参加できるものなのかどうか
青年の枠から外れた者も参加させてくださり、どうもありがとうございました。本業も大変な世代と思いますが、ご無理のないよう今後もご活躍ください。
ツアーのところに書きました
いつも楽しい企画をありがとうございます。
オンライン開催ということで、リアルにはないご苦労も色々あったと思います。スムーズかつ面白い運営のためにご尽力いただき本当にありがとうございました。また機会があれば参加したいと思います。
ハイクオリティなイベント内容で大変参考になりました。ありがとうございました。
機会があればまた参加させて下さい。
今回のイベント、とても楽しかったです。本当にありがとうございました。eight使ったりして、どこかで名刺交換のタイミングがあったらよりよかったなと思いました。グループワークで話した方たちとも結構盛り上がりましたが、繋がることができませんでした。。例えばグループワークの自己紹介のときに、「オンライン名刺ある人はチャットにあげてね」とかアナウンスしてもらえると嬉しかったです。
皆さんお疲れさまでした。来年こそは、リアルで奈良でお会いできたらいいなと思います。
故あって今は会員ではありませんが、時機を見て復活したいと考えています。その際にはもっと積極参加しますのでよろしくお願いします。
オンライン開催ありがとうございます。午後のイベントは都合が悪かったため参加できず申し訳ありませんでした。今後の青年委員会のご活躍を楽しみにしています。
お疲れさまでした！！
これからも良い青年技術士の交流を、お願い申し上げます。

行事名	「自分ふしぎ発見！？～ストレンクス・ファインダーで探るワタシの謎～」
日時	【CPD 行事】2022 年 1 月 22 日(土) 13:30～17:00 【懇親会】 同 日 17:00～18:00
場所	オンライン(Zoom)
講師、発表者	竹内将人氏 (Office TAKEUCHI)
担当者:(○:主担当)	高木副委員長、佐藤副委員長、臼井委員、大藺委員、吉浦委員、吉岡副委員長
参加者数	【例 会】42 名(委員含む)【懇親会】12 名程度

1 背景・目的

新型コロナウイルス感染症の拡大により、この1～2年で働き方や働くことの価値観が人によって大きく変化してきた。そのような状況で、私たちはと自分と向き合う機会が増えてきたと考えられる。そこで本会では、オンライン自己分析ツールの1つであるギャラップ社のストレンクス・ファインダーを利用して、「自己理解を深め、自分の才能(＝強みの元)を知る」ことを目的に、技術士コンピテンシーの内「マネジメント」「コミュニケーション」及び「リーダーシップ」の継続研鑽の場を提供するために開催した。

2 CPD 行事内容

講師に、ギャラップ認定ストレンクスコーチ 竹内将人氏(技術士・化学)を迎え、講義・グループワークを実施した。また、希望者を対象に懇親会も実施した。

(1) 講義

講義では、参加者が多く持っている資質を重点的に、34 個すべての資質について解説がなされた。具体的には、1つの資質を解説したのち、その資質を上位に持つ参加者 1～2 名を指名して資質にまつわるエピソードを 1～2 分程度で紹介してもらうというスタイルで講義が進められた。また、12 個程度の資質を解説したのち、グループ(1 班 5 名程度)に分かれてグループ内でエピソードトークをそれぞれ披露し、自分が持っている資質と自分が持っていない資質を持つ人への理解を深めた。

(2) グループワーク

グループワークでは「自分の資質を活かしたリーダーシップを考えよう！」というテーマで、自分の強み(資質)を生かしたリーダーシップとその際に気を付けることを書きだす個人ワークを実施した。その後、グループ内でそれぞれのリーダーシップについて意見を述べ合った。

(3) 懇親会

講師の竹内氏、参加者、青年メンバーを含めて 12 名程度で、約 1 時間の懇親会を実施した。懇親会は竹内氏への質問がメインとなり、参加者からはストレンクス・ファインダーの資質についてどのように理解すればよいのかといった質問が多かった。ご自身の資質をより深く理解したいという気持ち(学習欲)がとても伝わってきた。竹内氏は 1 人 1 人の質問に対して真摯に回答されており、質問した参加者は満足されているようであった。

3 成果と所感

今回の例会の KPT と所感を以下に示す。

(1) K:keep 良かったこと(今後も続けること、成果)

《グループワーク》

- ・講師との事前ミーティングをしっかりと実施でき、グループワークの内容について準備打合せやリハーサルの中でブラッシュアップできたことによって、当日のグループワークが充実したものになった。参加者が個人ワークにスムーズに取り組んでいた。
- ・事前課題としてストレンクス・ファインダーに取り組んでいただいたことで、参加者自身の体験が濃いものとなった。

《懇親会》

- ・最初に全員の自己紹介をしたのは良かったが、少し時間がかかってしまった。
- ・講義とグループワーク以上に、参加者個人のより深い内容の質問や講師による説明が行われており、参加者の自身の資質で気になったところを解消できたと思われる。

《運営・その他》

- ・チーム制での初の CPD 行事だったが、担当者が積極的に役割を分担し、大きなトラブルもなく CPD 行事を最後まで滞りなく進行できた。
- ・講義の合間に参加者が発言する機会(資質証言)があったので、参加者のモチベーションが上がったように思う。
- ・参加者募集を段階的に実施したことで(11 月全国大会の 45 歳以下参加者→2021 年合格者交流会参加者→同報メール2回)、結果的に若手の参加者が多めだった。
- ・無断欠席(ドタキャン)がおらず、申込者全員が参加されていた。

(2) P:problem 悪かったこと(今後はやめること、反省点、改善したいこと)

《講義》

- ・講演時の参加者のカメラ ON/OFF を講師と事前すり合わせできなかった。
- ・講師と参加者がお互いの顔や反応も共有できると、より一体感が出たかもしれない。
- ・グループシェアでは、自己紹介せずに実施するのはやりづらいと思った。
- ・リハーサル時に、講義中のグループシェア実施に気付けなかった。

《グループワーク》

- ・お互いに資質に対してコメントする際に、初対面同士の参加者からなかなか意見が出てこなかった。自分になり資質についてはコメントがしにくかったようだ。ある班では、あえて自分になりたくないところについてコメントしてもらうようにファシリテーターが促し、参加者から意見を出してもらった。
- ・グループワークのアウトプットをスプレッドシートに参加者に直接書き込んでもらうことで、ファシリテーターの進行+書記の負担が減り良い反面、スマホ参加等でスプレッドシートが開けずに記入できない参加者もいて対応に苦慮した。
- ・グループワークの内容を、全体へシェアできなかった。

《懇親会》

- ・限られた数名の参加者から講師への質問タイムで終わってしまった。少し自己紹介の時間が長かったかもしれない。
- ・外部講師を交えての懇親会の場で、青年委員会への勧誘は難しかった。
- ・乾杯などもなく、講義グループの延長のような雰囲気講師への質問タイムになってしまった。懇親会なのでリラックスして参加してくださいと、最初に言えたら良かったと思う。

《運営・その他》

- ・資料配布を講師に事前に確認しなかった。
- ・チーム制で実施する場合は、役割の抜け漏れ、作業負荷の偏りを例会 G の担当がしっかり管理する必要があると感じた。
- ・全体的な統制を誰がとるのかあやふやなまま準備が進んでいったように思うので、チーム制でもリーダーは決めておいた方が良かったと思った。
- ・CPD 票には名前・所属・CPD 印が必要なのか? 個別配信の負担は大きい。
- ・CPD 行事予定表の更新がだいぶ遅れてしまった。

(3) T:try 次に挑戦すること

《グループワーク》

- ・スプレッドシートを利用する CPD 行事では、スプレッドシートで出欠表を作り、参加者自身に○をつけてもらう(練習として)。
- ・グループワークでスプレッドシートを使うこと、そしてスプレッドシートを参加者が開けるかどうかの確認の案内をする(当日案内と事前案内)。使えない人がいたら個別対応する。
- ・グループワークでの青年ルームは、メインルームにするほうがよい。

《懇親会》

- ・ブレイクアウトルームを使ってテーマを持った部屋を複数作り(講師の部屋、青年の活動に興味がある人の部屋、今日の感想の部屋など)、いろいろな人と交流できるようにする。

《運営・その他》

- ・講師との講演内容すり合わせチェックシートを作成し、例会 G 管理チェックシートに追記する。
(オンライン or 対面、ブレイクアウトルーム実施可否、講演時カメラの ON/OFF、質問の受付方法、講演資料の配布有無、録画の可否(Pe-CPD の可否)、当日の参加方法(自宅、ホテル、機械振興会館)など)
- ・数十名規模で全員カメラ ON の時の回線の安定性をどこかの機会を確認する。
- ・企画の発案者と企画進捗担当を分けて、企画運営を実施するようにする(企画発案者の負荷軽減策)。

- ・CPD 票は名前と所属を設け、CPD 印は押さずに PDF で配信する。
- ・CPD 行事予定表は事務局に掲載依頼したら、更新状況を確認する。
- ・外部アンケートに、青年勧誘の項目(青年の活動への興味有無)を追加する。

(4) 所感

今回の一般の参加者は 27 名で、普段の CPD 行事よりもやや参加人数が少なかった。しかし、事前にストレングス・ファインダーの課題に取り組んでいただいたため、本当にやる気のある方々に参加いただけた。講義中およびグループワークでも、参加者のモチベーションや集中度が高かったように思う。また、講師の竹内氏には講師依頼から 2 か月程度と短期間であったにもかかわらず、事前打ち合わせやリハーサルにご参加いただき、よりよいグループワークになるようにご助言いただいた。本会は、講師、ビジネススキル Tm メンバー、参加者の皆様の協力と前向きな姿勢が成功に導いたと思う。

参加者の中には、最近の青年イベント(全国大会青年の集い、孫子の兵法)に参加された方もいて、少しずつ青年イベントのリピーターが増えているような手ごたえもあった。

参加申込者の居住地域は、関東地方が 10 名と最も多く、次いで九州沖縄地方、中部地方、近畿地方であった。全国の青年層に向けた CPD 行事の提供に貢献できたと考えている。

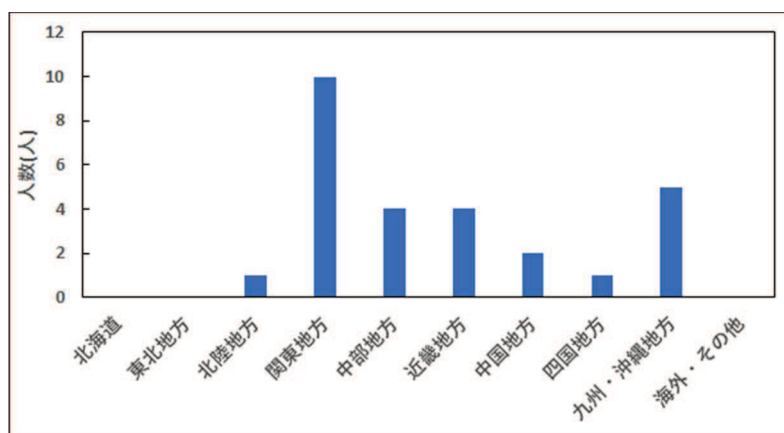


図1. 参加申込者の居住地域

4 今後の展開

前項で抽出した今回の成果・反省点等を、各担当者が次回の CPD 行事担当時に関係者に周知して活用する。

5 実施状況

【参加者の集合写真】



6 収支報告

【収入(予定)】

項目	数量	単位	単価	金額
参加費 正会員・準会員	23	人	720 円	16,560 円
参加費 非会員	4	人	1,220 円	4,880 円
集金システムの手数料①	27	人	-220 円	-5,940 円
集金システムの手数料② (集金金額の 3.5%に消費税 10%を追加)	1	式	-597 円	-597 円
参加費振込手数料(12 月分・1 月分)	2	式	-200 円	-400 円
合計				14,503 円

【支出(確定)】

項目	数量	単位	単価	金額
講師謝金(技術士会会員)	1	人	10,000 円	10,000 円
講師交通費(往復)	1	式	280 円	280 円
講師用ホテルデユース費	1	式	7,900 円	7,900 円
合計				18,180 円

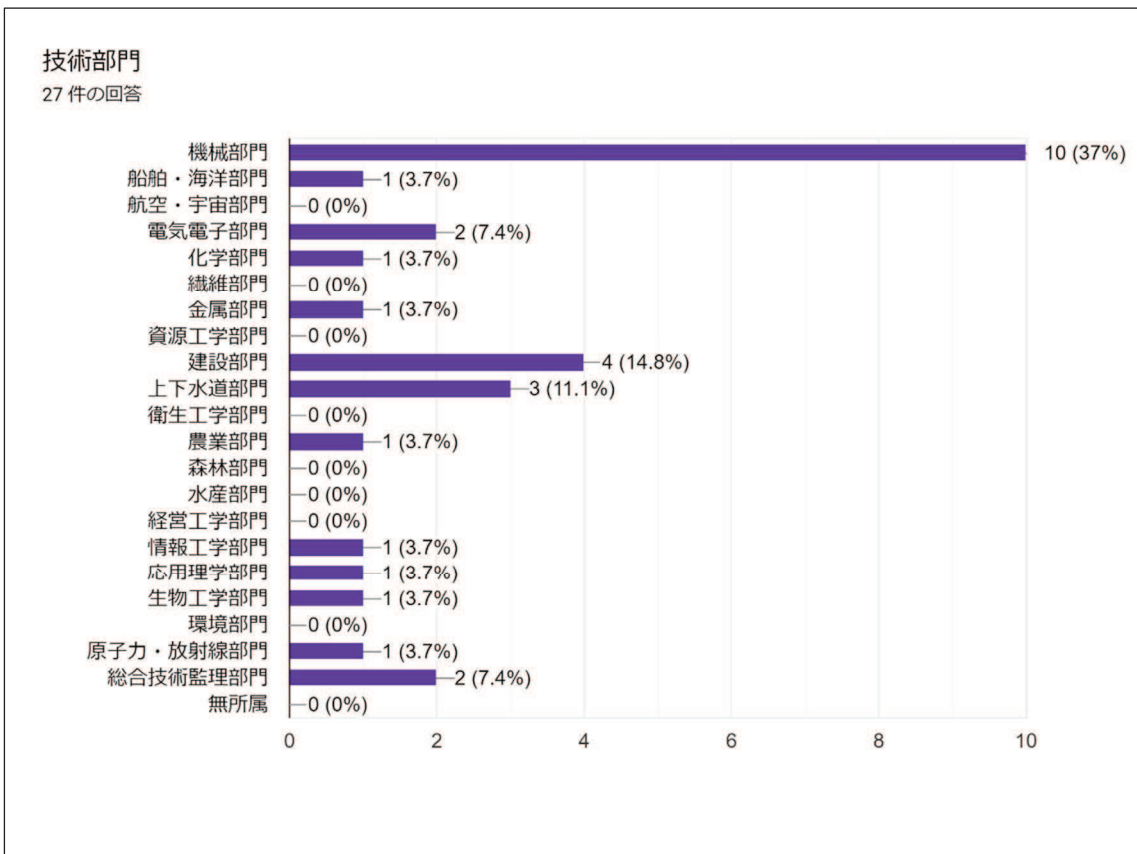
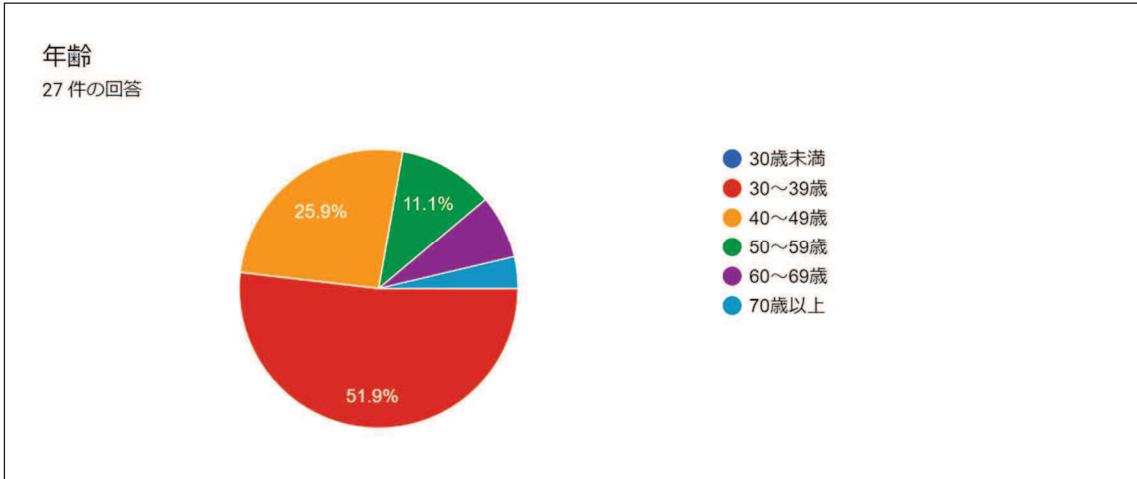
【収支】

収入(予定)14,503 円－ 支出 18,180 円＝ -3677 円

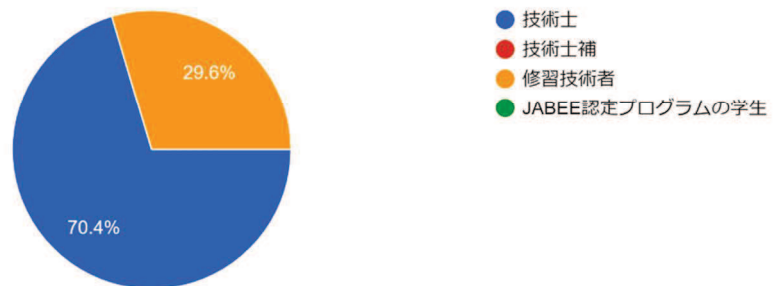
以上

2022 年 1 月例会アンケート結果

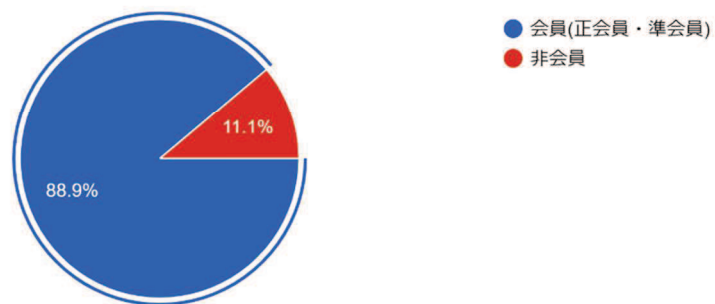
Q1.回答者属性



技術士の区分
27 件の回答



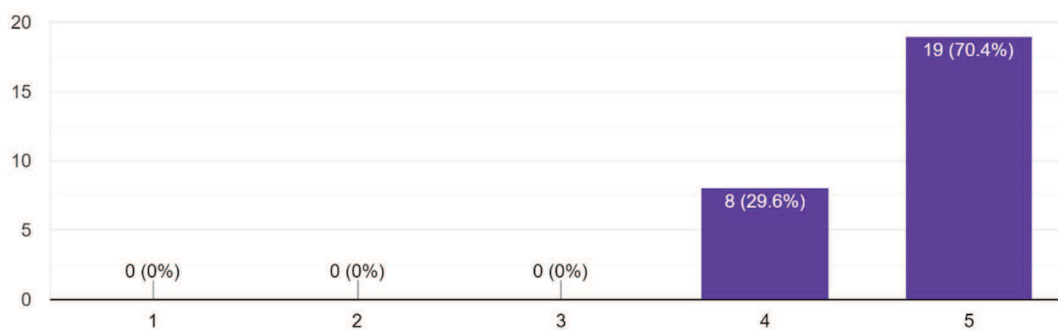
技術士会の入会状況
27 件の回答



Q2. 今回のイベントについて

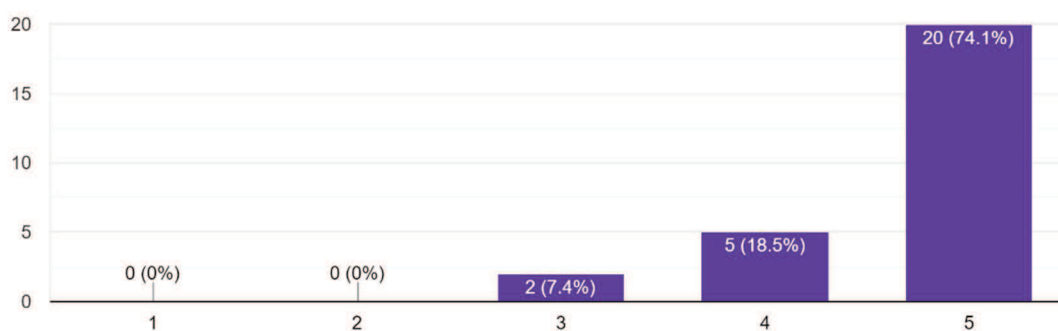
1. 本日の講義内容はいかがでしたか

27 件の回答



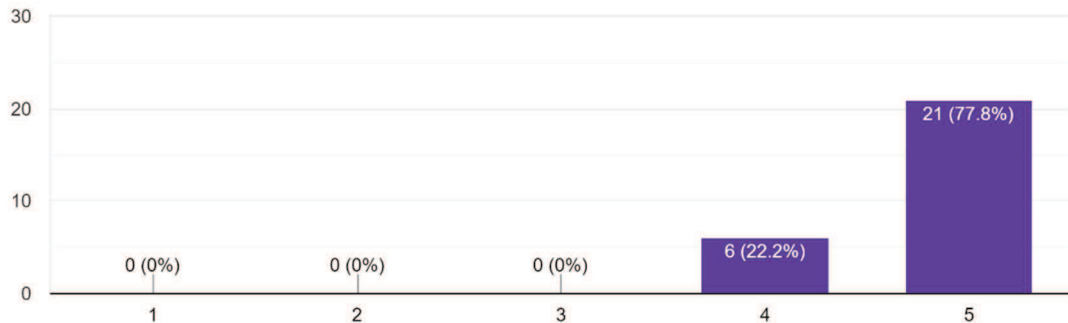
2. 講義の資料はいかがでしたか？

27 件の回答



3.講義での青年スタッフの対応はいかがでしたか？

27 件の回答

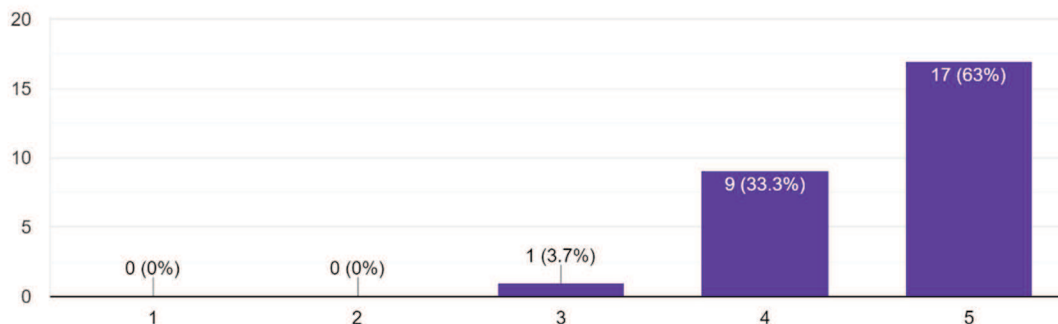


4.講義について、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。（任意）

非常に興味深く拝聴いたしました。ありがとうございました。
終わった後にメンバーに本日の資料を配布いただけると助かります。
新たな発見がありました。
とても分かり易かったです。自分で気がつかなかった資質に気がつきました。
とても有益でした！画期的な内容で、大げさに言えば人生が変わりそうなくらいです。
名前付き CPD、お願いします。
分かりやすい説明でした。ありがとうございました。
資質・強みを活かすというのは、良い発想だと感じました。他の技術士等の方の資質も参考となって面白かったです。
資質の説明がわかりやすかったです。
CPD の中で過去最高くらいに面白かったです。資料が大変わかりやすかったのでもう一度いただけるとありがたいです。
大変有意義でした！
強みを仕事に活かした実例を紹介して欲しかった。
大変勉強になりました、ありがとうございました。
理解が深まりました。ありがとうございます。

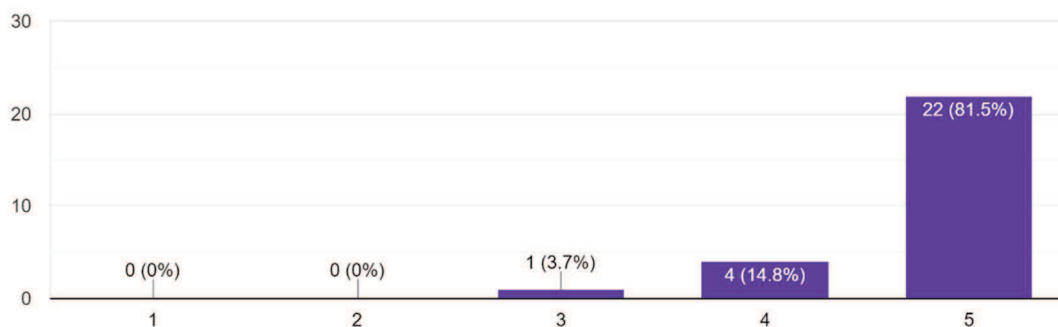
5.グループワークの内容はいかがでしたか？

27 件の回答



6.グループワークでの青年スタッフの対応はいかがでしたか？

27 件の回答

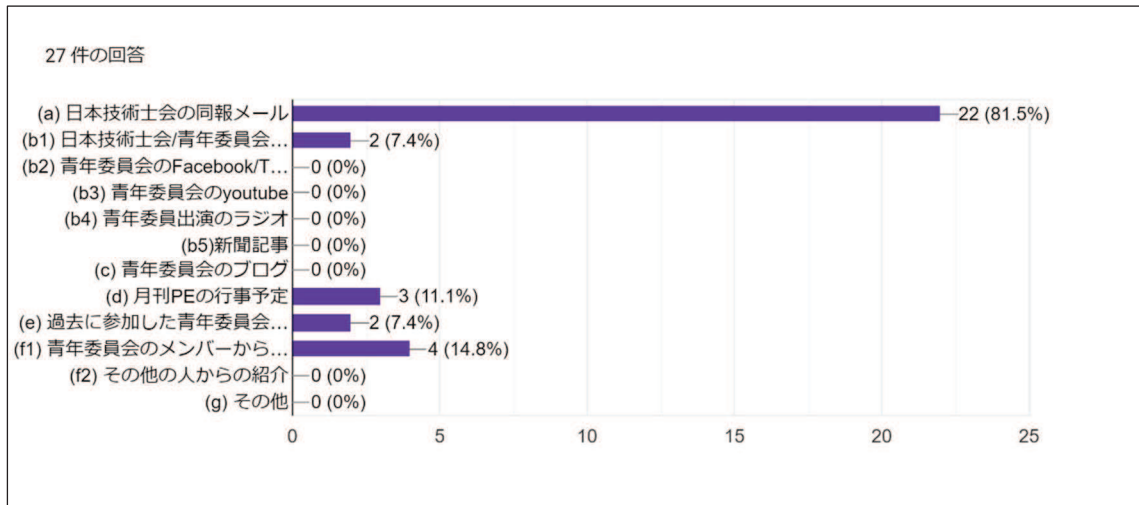


7.グループワークについて、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。（任意）

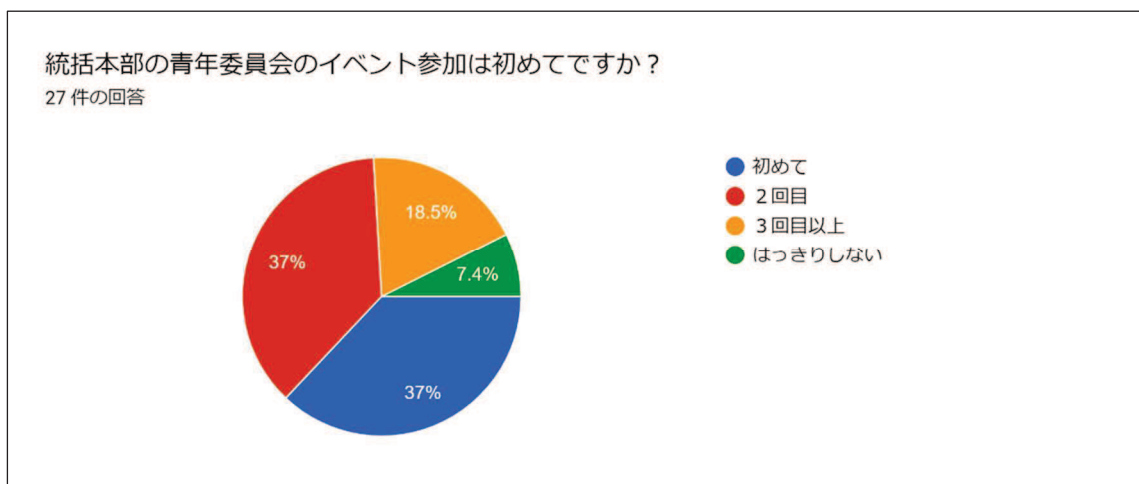
いいグループメンバー（このグループで仕事がしてみたい！）と思いました。
ありがとうございました。
グループワークの時間が少ないと感じました。
有意義な時間をありがとうございました
大変的確にグループワークを進めていただきありがとうございました。
スタッフの方がうまく回してくださったので、とてもスムーズかつ有益な時間になりました。
丁度良い人数のグループワークでした。
時間が短かった点だけ残念でした

徳原様の進行が素敵で、楽しくお話しさせていただきました。
他の方の強みが自分にはないものばかりで、すごく羨ましくなりましたが、逆に他の方からその資質いいね、と言われてうれしかったです。大変勉強になります。
初回ブレイクアウトルームに分かれた際、誰から発言するかお互いに様子見な感じだったので、ファシリテーターの方からアイスブレイク的なもので話しやすい雰囲気を作って頂ければより良かったです。
せっかくの交流なので、連絡先を公表しておく等の設定ができて、今後の繋がりを維持出来るようにできると、さらに良いと思います。
短い時間にも関わらず、上手く調整されていた。
ディスカッションの時間をもう少し長く（１５分程度）して頂けたらと感じました。
自分にはない資質を持っている方の考え方や行動パターンを知ることができるのは面白かったです。自分にはない資質の方に対して、リーダーとしての強みについてコメントを返すのは少し難しいと感じました。

Q3. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったもの。



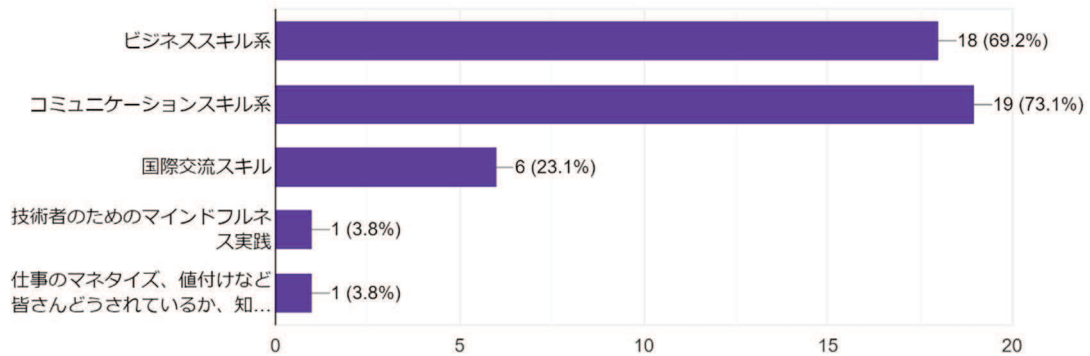
Q4. 青年委員会のイベントについて



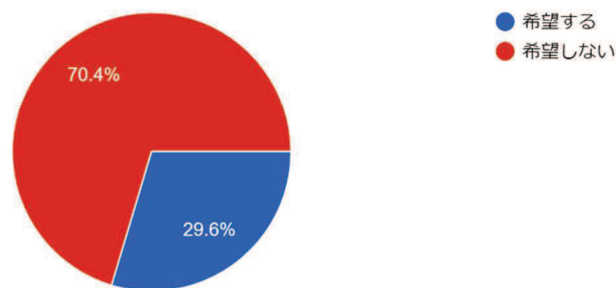
2 回目以上と回答いただいた方に、過去に参加した統括本部の青年委員会のイベントで印象に残っているものがありましたら、教えてください。（任意）

全国の WEB イベント
孫子の兵法
親子で参加できた隅田川インフラツアー（橋の見学会）
名称忘れてしまいましたが、エネルギーを感じた記憶が残っており、2 次試験を受ける決意をしました。

今後の統括本部の青年委員会のイベントで、開催してほしい内容がありましたら、教えてください。
26 件の回答



氏名・所属を青年委員会側で記入した、押印ありの...？（希望者には個別でメールで送付いたします）
27 件の回答



青年委員会に質問したいこと、伝えたいことがありましたら、ご記入ください。

大変有意義でした。お疲れさまでした！！

ありがとうございました！

ありがとうございました。

ありがとうございました。

次回もこのようなイベントがありましたら、参加をさせて頂きたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

慣れない点もあったと思います。ご苦労様でした。

青年委員会の皆様本当にお疲れさまでした。

行事名	「福島原発事故から学ぶリスクコミュニケーション ～NPO 法人福島ダイアログの活動経験をモデルに～」
日時	【CPD 行事】2022 年 2 月 19 日(土) 13:30～16:00 【懇親会】 同 日 16:00～17:00
場所	オンライン (Zoom)
講師、発表者	安東量子氏 (NPO 法人福島ダイアログ理事長)
担当者:(○:主担当)	河野委員長、原田副委員長、吉岡副委員長、吉浦委員、三谷委員、村上委員、 後藤委員、臼井委員、徳原委員、山本委員補佐
参加者数	【例 会】 55 名 (委員含む) 【懇親会】 約 30 名

1 背景・目的

NPO 法人福島ダイアログ理事長の安東量子氏は、福島第一原発事故後、福島で起きた現実について様々な立場の方と語りあい、耳を傾けあう場を最前線で続けてこられてきた。本 CPD 行事では、安東氏を外部講師にお招きして、これらの貴重な経験をご講演いただき、全国の若手技術者とともに、今後のクライシス時に備えたリスクコミュニケーションのあるべき姿を模索するために開催した。

2 CPD 行事内容

外部講師として、NPO 法人福島ダイアログ理事長の安東量子氏を迎え、講義・グループワークを実施した。また、希望者を対象に懇親会も実施した。

(1) 講義

講義では、安東氏が福島原発事故後に地元の人々の呼びかけに応じる形で継続してきた取り組みや、自ら直面した風評被害の現実及びその対応をご紹介頂いた。安東氏は、ご自身の活動により得られた情報を客観的に取りまとめ、目に見えない放射線に被ばくされ続けるという理不尽な状況において、自ら測定し、その値を把握することにより、住民の自己判断力・自己統御感を高める活動にご尽力されていた。これらの活動は、専門家として一般住民へ科学技術に関する情報発信を行うにあたり非常に参考になる内容であった。

(2) グループワーク

特定分野の専門家という立場でリスクコミュニケーションを図るにあたり、異なる立場の人との信頼関係の構築をテーマとしたグループワークを行った。本グループワークでは、アイスブレイクもかねて、「安東氏の講演を通じて感じたこと」について参加者同士で意見交換を行った後、安東氏の講演を受けて「専門家として利害関係者に対してどのように信頼関係を構築するか」について議論を行った。技術士ならではの視点での有益な意見交換がなされ、各専門分野でのあるべきリスクコミュニケーションを模索する契機となった。

(3) 懇親会

講師の安東氏、参加者、青年メンバーを含めて約 30 名程度で、約 1 時間の懇親会を実施した。懇親会では安東氏への質問がメインとなり、参加者からは住民との対話において重要なことは何だったのかといったような安東氏が実際に体験して得られたことに関する質問が非常に多かった。安東氏は自らのブログにも記載されている通り、専門的な知識を有する技術士の皆様と交流することができ、大変刺激を受けられたとのことであった。

3 成果と所感

今回の例会では年齢制限は設けず、幅広く参加者を募集するスタイルを採用した。参加者の年齢層は高めになってしまったものの、安東氏の講演内容は非常に重要なテーマであることもあり、参加者の高い関心を感じることができた。

安東氏が所属する NPO 法人福島ダイアログと青年委員会の良い交流の場となっただけでなく、参加者

にとって非常に有用な CPD 行事を提供することができたと考える。安東氏が福島原発事故後に一般市民の立場で自ら行動し、専門家と協力しながら、福島の未来のために住民との対話の機会を設けてきた活動は青年委員会の今後の活動に大いに役立つ内容であると感じた。

今回の例会の参加者は 44 名と非常に多いことに加え、グループワークのテーマをまとめることが難しく、ファシリテータをされた青年委員にとっては非常に大変であったと思われます。年度末のお忙しい中ご協力頂いた青年委員の皆さんには心から感謝申し上げます。非常に大変な時期での CPD 行事となりましたが、いくつかの課題はあったもののやり切ったことは非常に重要なことだと感じました。

4 今後の展開

青年委員会における今後の CPD 行事は 45 歳以下の正会員・準会員・非会員の参加者に焦点を絞りながらも、2～3 回に 1 回程度は年齢制限を設けずに、幅広く青年委員会の活動を知っていただく上でも良いのではないかと感じた。特に今回原子力・放射線部会の和田部会長にもご参加いただき、青年委員会の CPD 行事及び青年委員の質の高さについてお褒めの言葉を頂いた。今後とも青年委員にとっても企画・運営を行うことにより、自らの研鑽の場となるような機会を提供していきたい。

また、外部講師との連携を行うことで青年委員会のプレゼンスの向上を図るとともに、幅広い自己研鑽の場を提供し続ける組織を目指してこれからも努力していきたいと思った。

5 実施状況

【参加者の集合写真】



6 収支報告

【収入】

項目	数量	単位	単価	金額
参加費 正会員・準会員	38	人	1000 円	38,000 円
参加費 非会員	6	人	2000 円	12,000 円
集金システムの手数料② (集金金額の 3.5%に消費税 10%を追加)	1	式	-1,925 円	-1,925 円
参加費振込手数料(1 月分・2 月分)	2	式	-300 円	-600 円
合計①				¥47,475 円

【支出】

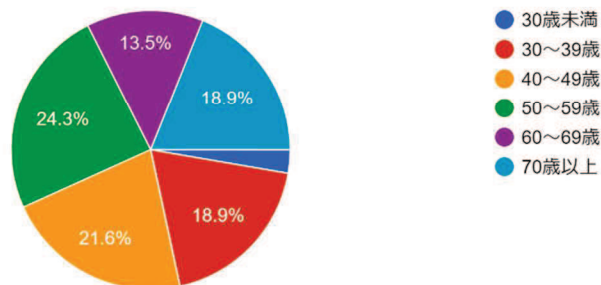
項目	数量	単位	単価	金額
講師謝金 (技術士会非会員・外部講師)	1	人	17,000 円	17,000 円
合計②				17,000 円

【収支】

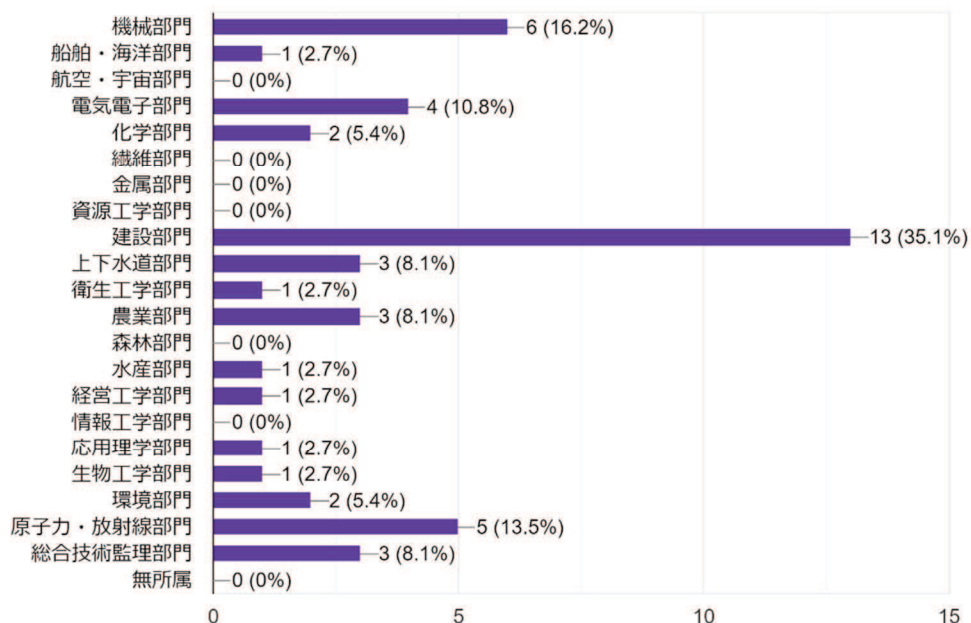
$$\text{①} - \text{②} = 30,475 \text{ 円}$$

【外部アンケート結果】
2022 年 2 月例会アンケート結果
Q 1. 回答者属性

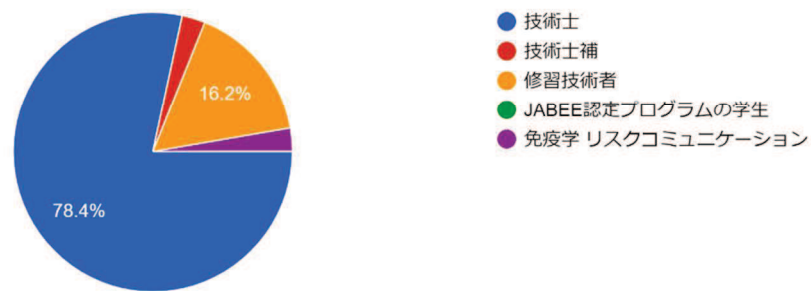
年齢
37 件の回答



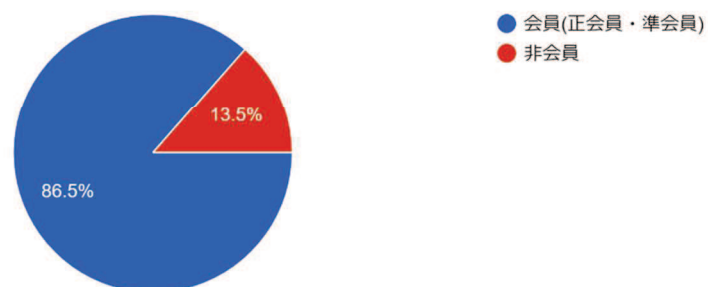
技術部門
37 件の回答



技術士の区分 37 件の回答



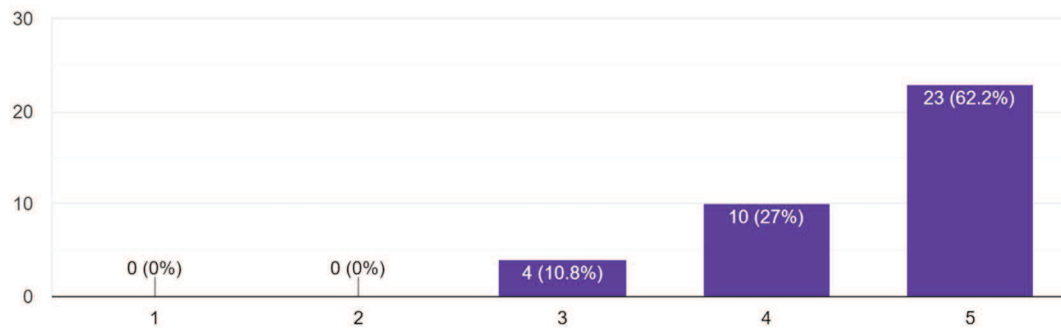
技術士会の入会状況 37 件の回答



Q2. 今回のイベントについて

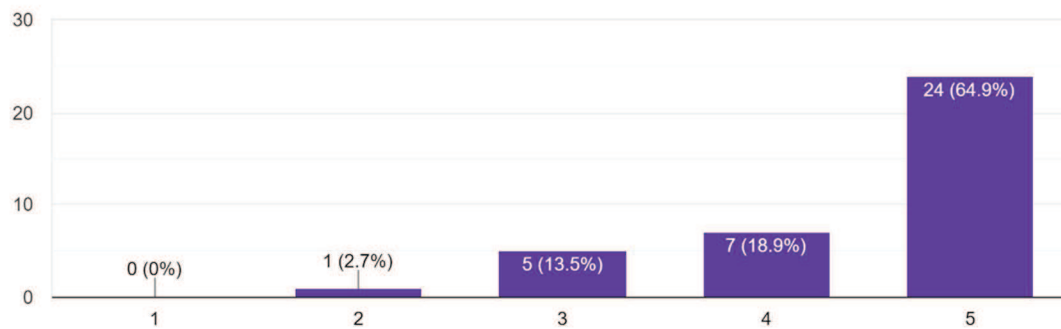
1. 本日の講義内容はいかがでしたか

37件の回答



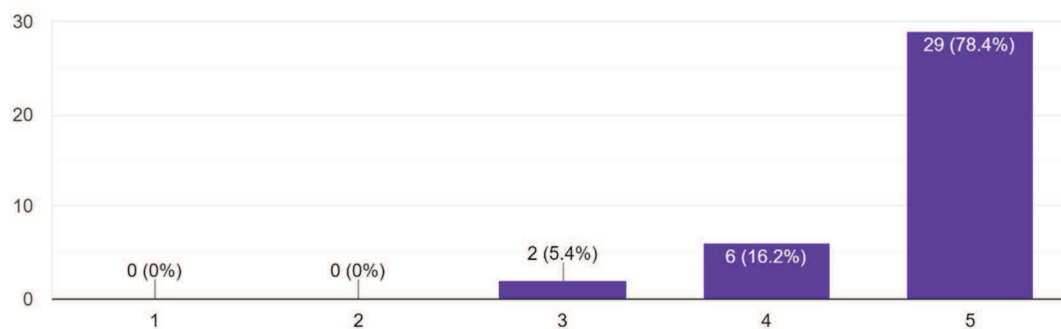
2. 講義の資料はいかがでしたか？

37件の回答



3. 講義での青年スタッフの対応はいかがでしたか？

37件の回答

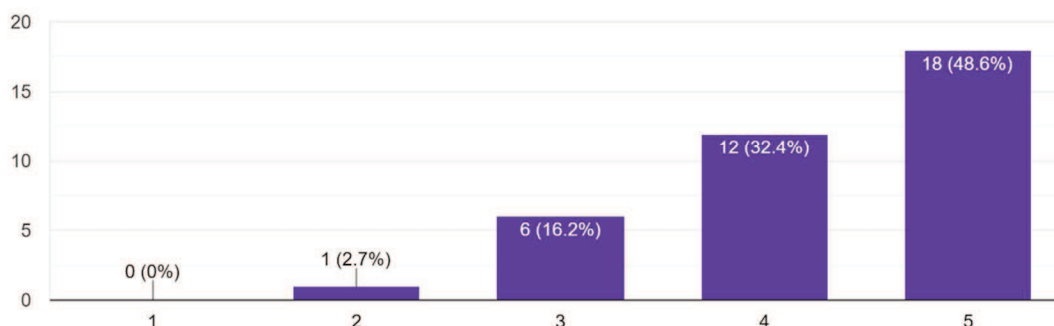


4. 講義について、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。(任意)

- ・とても質の高い講義で為になりました。
- ・現場で活動している実感に裏付けされた内容を共有出来て有意義でした。講演内容が非常に整理されていて、時間をかけた試行錯誤の結果練り上げられている感じを受けました。今後のご発展を祈念しております。ありがとうございます。
- ・CPD ご講演資料のご提供をお願いします。また CPD の参加票はいただけるのでしょうか。
- ・特になし
- ・おくれて参加してしまいこの質問は回答を遠慮します。
- ・被災者側からの視点での講義が非常に有益でした。
- ・安東先生の活動を詳しく知ることができて良かった。リスクコミュニケーションについてあまり知らなかったのが非常に勉強になった。
- ・可能であれば資料配布があれば良かった。
- ・講義時間に参加が間に合わず、申し訳ありませんでした。
- ・分かりやすい講義で、興味深く参加させて頂きました。
- ・利害関係がある人と信頼関係を構築していくことは、非常に難しいことだと考えております。今回、先生が最後に時間をかけることが重要とおっしゃられたことが心に刺さりました。
- ・サクサクとの運営ですばらしい！
- ・講師の安東さんより、長きにわたり現場で活動されたご経験からのとても分かりやすくなるお話でした。リスクコミュニケーションの重要性、問題点、気を付けるべきポイント、など多くを学べました。ありがとうございました。
- ・私が問題意識を持っている原発問題について、かかわっている人の貴重な経験を聞くことができて有意義であった。
- ・原子力技術は難しいもので、コミュニケーションをわかりやすくしようとするするとブラックボックスがいくつかできることは避けられません。そこを補うのは、伝える側に対する「信頼」であると理解しました。
- ・安東先生の貴重な経験を聞く機会を得ることができ、大変ありがとうございます。対話の方法およびコツ、データの表現方法、自己統御感について、職場でも活用していきたいと思います。
- ・グループワークの時間が少し短い気がしました。

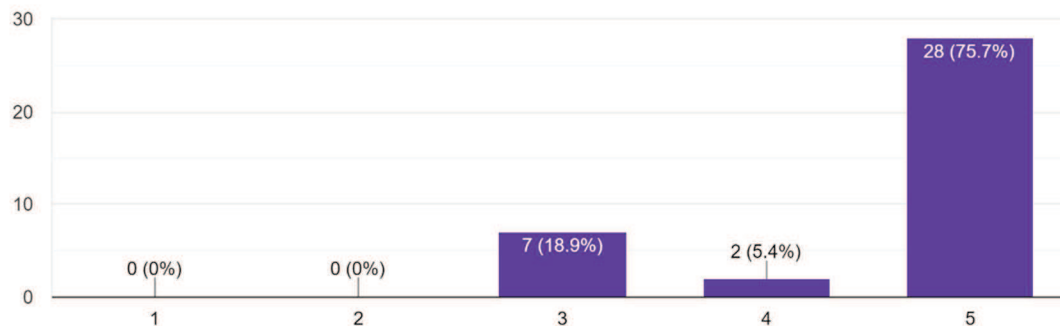
5. グループワークの内容はいかがでしたか？

37 件の回答



6.グループワークでの青年スタッフの対応はいかがでしたか？

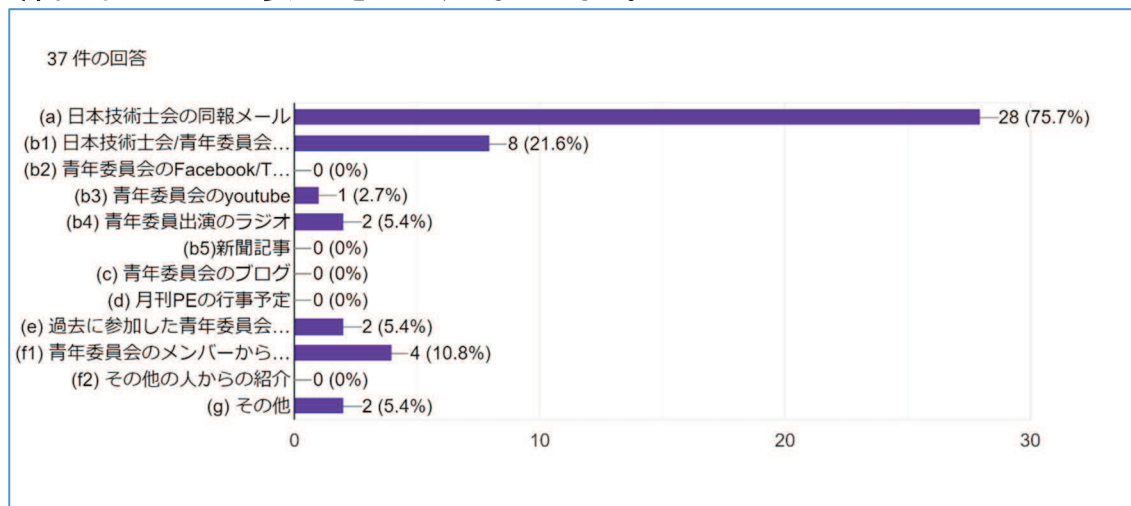
37 件の回答



7. グループワークについて、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。（任意）

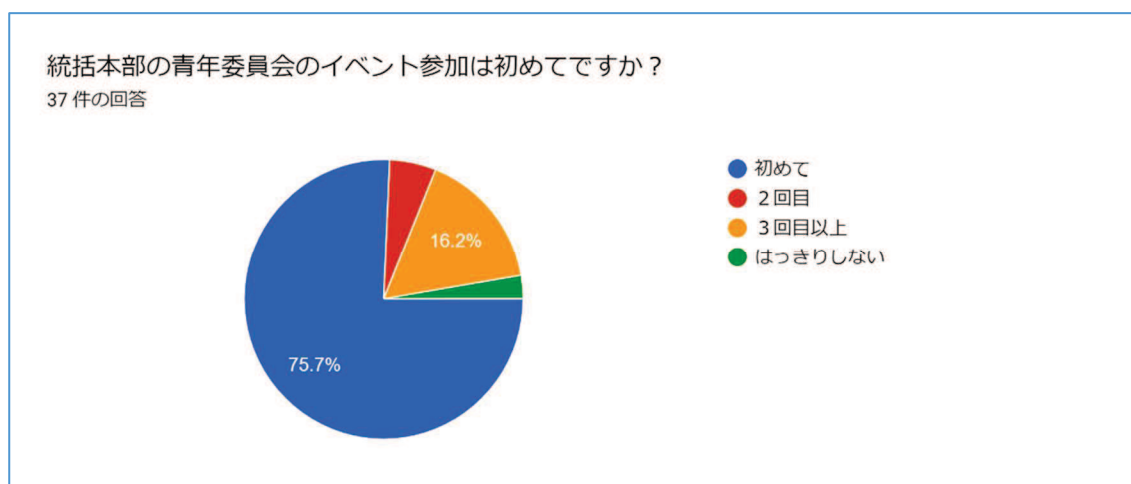
- ・意見表明で終わりました。少し議論があってもよかったかもしれません。
- ・皆さま、とても頭の回転が早くついていくのが大変でしたが、良い刺激となりました。
- ・短い時間ながら、おそらく普段からリスクコミュニケーションに関心がある方が参加されていると思いました。各々、自分の業務の中で感じるところをお聞き出来て良かったです。
- ・人数が少なくて、内容がよくわからない私にとってはつらかった。
- ・特定した質問で短時間に回答ができた。
- ・今回のグループワークは新しい知見を得ることができて非常に有益でした。
- ・30分という短い時間の中で、集約できたことが良かった。中身が濃かった。
- ・他の部門の方や実際に福島で業務に携わっていた方のお話を聞くことができ、良かったです。
- ・この場でのグループワークだったが、自分とは異なる意見が得られたのが有意義だった。
- ・講演資料等がどこかで入手できれば有難かったです
- ・グループワークの時間が短かった
- ・アウトプットがあると、講演内容の深みが大きくなるので、有意である。
- ・時間が少なかったので、仕方ないですね
- ・ファシリテータが議事もとってくれて助かります。
- ・幹事を含め他の技術士の方のご意見を聞ける機会は良い機会と感じております。
- ・様々な分野の技術士の方のお話を聞けて、有意義でした。
- ・丁度、福島原発問題に何らかの形で携わった人たちの意見が聞けて良かった。
- ・講演前にグループワークの討論テーマを教えていただけると嬉しかったです。（直前だと考えが少しまとまらないところがあった）
- ・時間が短すぎる
- ・オンラインでどこまでスムーズにできるのか心配していましたが、意外とうまくできたのかなと思います。

今回のイベントへの参加のきっかけとなったもの。



その他と答えた方は具体例を教えてください。(任意)

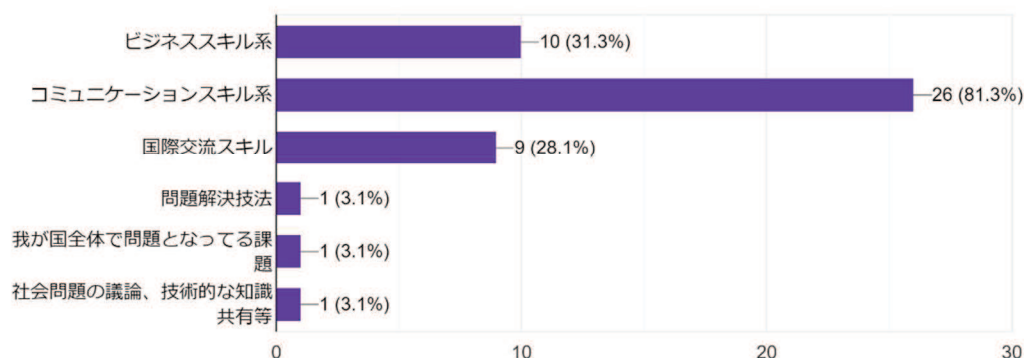
- ・技術士CPD行事参加システム
- ・技術士CPS行事システム



2回目以上と回答いただいた方に、過去に参加した統括本部の青年委員会のイベントで印象に残っているものがありましたら、教えてください。(任意)

- ・どれも素晴らしかったです。
- ・今回の講義です。同様の講義があれば参加したいです。
- ・青年委員会のイベントだったか忘れましたが、1次試験合格者の会が印象深いです
- ・先月ストレングスファインダー
- ・2022年1月のイベント

今後の統括本部の青年委員会のイベントで、開催してほしい内容がありましたら、教えてください。
32 件の回答



青年委員会に質問したいこと、伝えたいことがありましたら、ご記入ください。

- ・ぜひ今後も活動を続けられて下さい。46 歳以上参加 OK のイベントも期待しております。
 - ・おつかれさまでした。本 CPD を継続研鑽や九州本部の活動の参考に致します。
 - ・特になし
 - ・初めての参加でした。中身の濃いテーマでした。企業内倫理の制約があるなかで生の声は難しいと思いますが。現場での生の声が聴きたい。企業内の技術者倫理
 - ・河野部会長、有り難うございました。
 - ・特にありません
 - ・続けてください。多分一番キレイキレイの CPD と思います。
 - ・若手のこのような交流活躍に期待しています。
 - ・青年の方々の身近な課題とともに、多くの人が問題意識を持つ課題も取り上げられればと思う。今回の機会を例えば次へつなげるようなじっくりとした議論を行ってもよいと思う。
- 青年委員 OB、前国際委員会委員の立場での質問ですが、外国の組織・個人とのイベント等はやはりやりにくくなったのでしょうか。
- ・折をみてイベントに参加させていただきます。
 - ・特にございません。

以上

行事名	技術士第一次・第二次試験合格者交流会
日時	【ワークショップ】2022 年 4 月 23 日(土) 13:30～17:00 【懇親会】 同 日 17:00～19:00
場所	オンライン(Zoom)、機械振興会館(運営スタッフ)
担当者:(○:主担当)	河野委員長、高木副委員長、岩部副委員長、原田副委員長、佐藤副委員長、吉岡副委員長、吉浦委員、村上委員、大園委員、徳原委員、後藤委員、一川委員、三谷委員、高橋委員、白鳥委員、山田委員、山本委員補佐、杉山委員補佐、大川委員補佐
参加者数	【グループワーク】 69 名(委員含む) 【懇親会】 約 35 名

1 背景・目的

技術士第一次・第二次試験合格者を対象とした交流会をオンラインで開催した。昨年の交流会では参加者の制限を設けなかったことによる新合格者のキャンセル待ちが発生したため、今年は同世代かつ合格年度が近い参加者が交流を行えるよう、令和元年度以降の合格かつ 45 歳以下という制限を設けた。またオンライン開催のため全国各地より合格者が参加することが予想されたため、各地域本部の青年委員にファシリテーター等で参加してもらうことで各地域の合格者と地域本部青年委員との接点を作り、今後の活動に生かしてもらえるようにした

2 内容およびタイムスケジュール

(1) グループワーク

13:30～13:41 諸注意・お祝いの言葉・青年委員会紹介

13:41～13:56 青年委員会クイズ(アイスブレイク)

13:56～16:40 グループワーク

1. プロフィールメモの作成
2. グループワーク 1 自己紹介
3. グループワーク 2 他己紹介
4. グループワーク 3 ディスカッション
5. 成果発表
6. 講評

16:40～16:50 アンケート入力・CPD 票配布・例会案内・写真撮影・閉会の言葉

(2) 懇親会

17:00～19:00 懇親会

1. 開会挨拶・進行説明・青年メンバー自己紹介
2. トーク前半
3. トーク後半
4. 問題答え合わせ・閉会の言葉

3 成果と所感

(1) グループワーク

オンライン開催のため、対面開催に比べて参加者が打ち解けるまで時間がかかることが想定された。そのためアイスブレイクとしてグループワーク前に青年委員会クイズを出題し、緊張を解きほぐしリラックスしてグループワークに臨めるようにした。青年委員会クイズはおおむね好評であったが、全体的に時間の制約が厳しく、一部のクイズを省略せざるを得なかった点は残念であった。来賓として河津副会長兼研修委員会委員長からお祝いの言葉を頂戴した。大半の参加者は青年委員会の行事は初参加であったが、青年委員会と日本技術士会の一体感を伝えることができて良かったと思う。

グループワークは昨年の交流会で実施した他己紹介をベースにし、内容をブラッシュアップして実施した。グループワークは 3 回実施し、1 回目は自己紹介、2 回目は他己紹介、3 回目は「無人島で生き残り、住み続ける方法を考える」というテーマで自己紹介・他己紹介の内容を踏まえたディスカッションを実施した。

グループワーク 1 の自己紹介では事前に準備して頂いたプロフィールメモを元に、名前、部門、趣味や特技、技術士になったらやりたいこと、自分のイメージ動物とその理由を発表した。自己紹介を受けている人はその内容を元に質問等を行うことで、グループワーク 2 の他己紹介で伝える内容を収集していった。初対面かつオンライン開催のため最初は若干の戸惑いが感じられたが、自己紹介が進むにつれ同じ趣味を持つ人通しで盛り上がる場面もみられた。

グループワーク 2 の他己紹介ではグループを再編し、1 回目のグループワークで得た情報を他者に伝えるという作業を実施した。初対面かつ専門分野が異なる人の紹介をするには、自己紹介の内容を自分なりに消化し簡潔に第三者に伝えるという作業が必要となる。

グループワーク 3 では「無人島生活」をテーマにしたディスカッションを実施した。どのように生活するかテーマを決め、そこで発生する課題に対して他己紹介で得られた人物情報でいかに解決できるか検討を行った。

グループワークは Zoom を使用してオンラインで実施したが、大きなトラブルは発生しなかった。これはコロナ禍によるリモートワークやオンライン会議が広まったことと、45 歳以下という年齢層のため業務その他で Zoom 等のコミュニケーションツールに触れる機会が多かったためと考えられる。しかしながらグループワークのファシリテーターは音声の混信が発生しないよう 1 部屋 4 名ずつ 2 部屋に分かれて配置したにも関わらず、それでも混信していたとの意見が聞かれた。オンラインでグループワークを開催する際の課題であり、今後も解決方法を模索していきたい。

(2) 懇親会

懇親会では「イベント参加者間の懇親を促す」「青年委員会の雰囲気を知ってもらい、活動に興味を持ってもらう」を目的とし親睦を深めた。オンライン懇親会はオフライン懇親会と異なり、同時に複数人が話すということは難しい。そのため Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いてテーマが異なる複数の部屋を作成し、興味がある部屋に自由に出入りしてもらい親睦を深めるという手段をとった。テーマは技術士や独立・開業に関する内容といった真面目なものから、酒豪集まれのような軽い内容まで準備し、休憩を挟んで 7 部屋ずつ計 14 テーマ準備して気軽に参加できるようにした。また女性のための部屋を作る、各部屋には青年スタッフを 1 人以上配置する等で、参加者が交流しやすい場となるよう配慮したうえで各部屋を回ってもらえるよう、青年スタッフの背景画像から連想されるものは何かという問題を出題した。翌 5 月の例会が熊本城をテーマにしたものであるため、その宣伝も兼ねて答えは熊本城とした。

(3) 集客

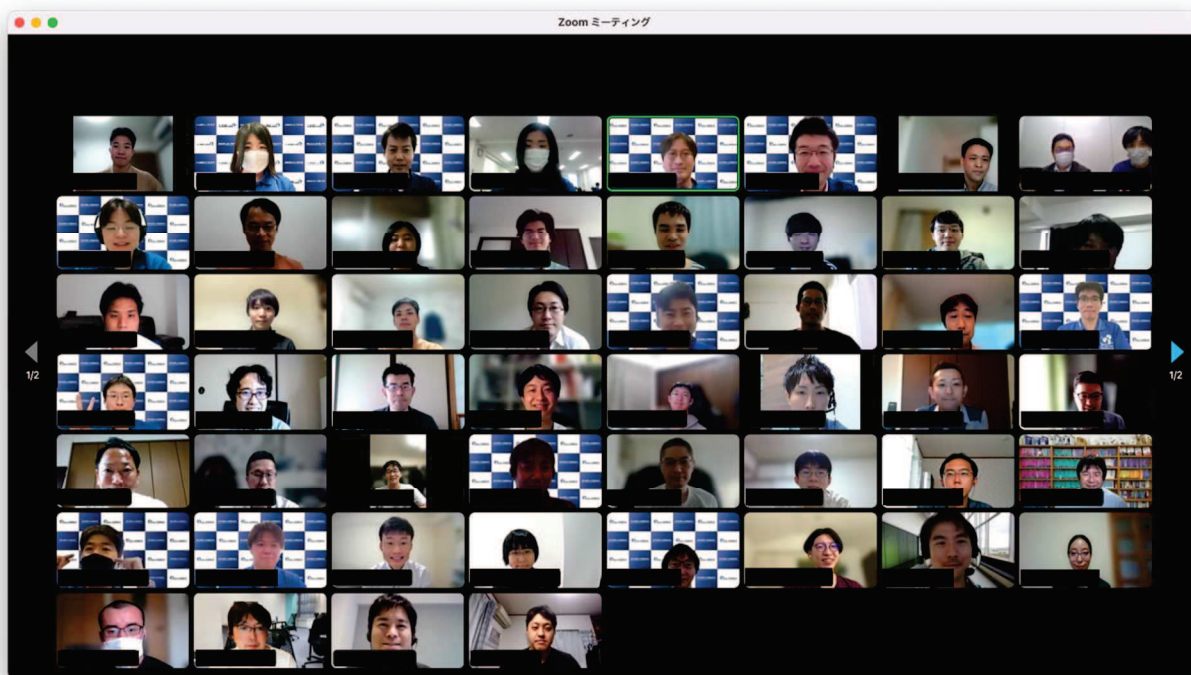
集客は合格者向けチラシと青年ブログと同報メールを用いて実施したが、令和元年度以降の合格者かつ 45 歳以下という制限を設けたため、8 名 x 8 グループで 64 名という参加者が集まるかどうか危惧された。参加者の多数は非会員のため、合格者向けチラシが主な集客ツールになるだろうと予想していたが、結果としては同報メールが最も効果的な集客ツールとなっていた。その理由として過年度合格者および準会員の二次試験合格者は同報メール、非会員の新合格者は合格者向けチラシにより交流会を知ったのだと考えられる。また日本技術士会 HP がきっかけになったという参加者も約 3 割存在しており、これらのツールを用いた情報提供は集客に非常に有効であることがわかった。少数であるが Twitter がきっかけになったという参加者もあり、今後も積極的に情報発信を続けていきたい。

4 今後の展開

この交流会は令和元年度以降の 45 歳以下合格者という制限を設けて開催した。そのため例年に比べて集客に時間がかかったが、同世代かつ合格年度が近い参加者の交流を行うという目的は達成できたと思う。ただオフラインの交流会と異なり名刺交換ができないため、この交流会で知り合った技術士仲間とどのように継続交流していくかは課題であり、何らかの仕組みは準備しておいた方が良いと感じた。アンケートでは交流会を通して 8 割の参加者が日本技術士会に興味をもったと回答しており、その人達に継続して何らかのフォローを行うことで日本技術士会への入会に繋げることができるのではないかと感じている。また交流会の冒頭で河津副会長兼研修委員長からお祝いの言葉を頂戴したが、今後もこのように他委員会と協力しあい、日本技術士会としてより良い研鑽の場を提供していきたい。

5 実施状況

【参加者の集合写真】



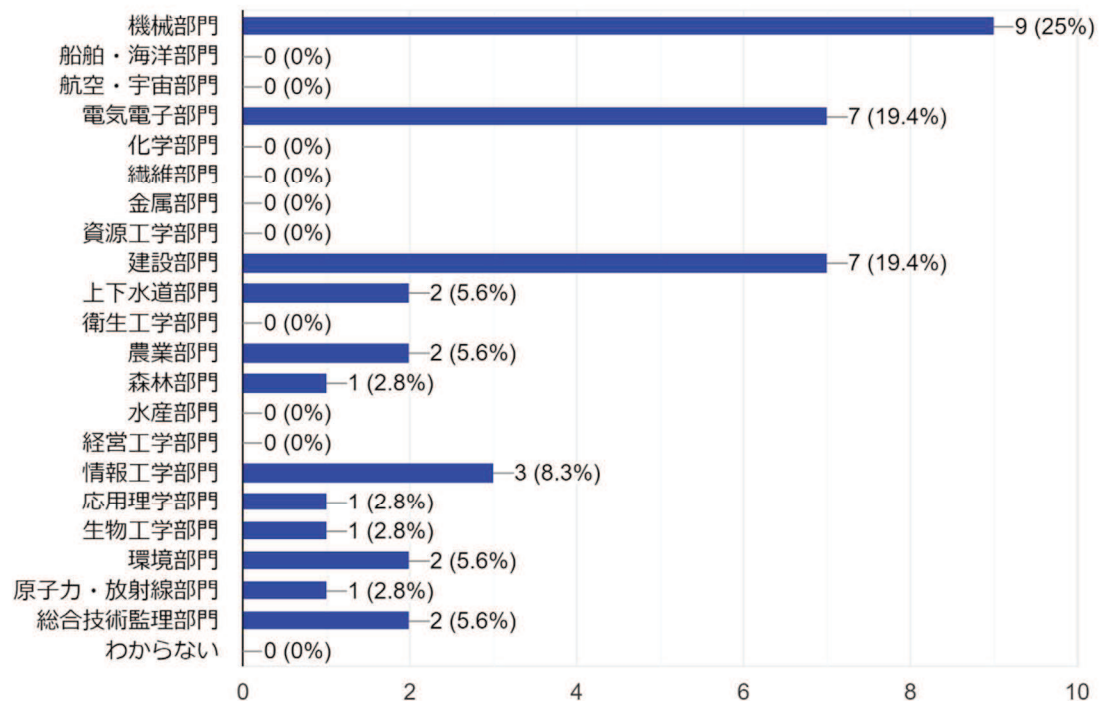
【機械振興会館・行事一覧】

階数	室名	団体名	行事名
6階	6D-1	公益社団法人 日本技術士会 技術士試験センター	機械設計
6階	6D-2	公益社団法人 日本技術士会 技術士試験センター	熱・動力エネルギー
6階	6D-3	公益社団法人 日本技術士会	公益社団法人 日本技術士会
6階	6S-2	公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会	日本技術士会 青年委員会
6階	6-61	公益社団法人 日本技術士会 技術士試験センター	材料強度・信頼性
6階	6-62	公益社団法人 日本技術士会 技術士試験センター	機構ダイナミクス・制御
6階	6-64	公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会	日本技術士会 青年委員会
6階	6-65	公益社団法人 日本技術士会	公益社団法人 日本技術士会
6階	6-67	公益社団法人 日本技術士会 金属部会	日本技術士会 金属部会 新入会員歓迎講演会
6階	6-68	公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会	日本技術士会 青年委員会
6階	6-69	公益社団法人 日本技術士会 技術士試験センター	電気設備
地下3階	B3-2	株式会社 建設技術教育センター	KGKC受験準備講習会 2級管工事施工管理技士
地下3階	B3-8	公益社団法人 日本技術士会 登録グループ 技術者倫理研究会	技術者倫理研究会

【外部アンケート結果】
2022 年 4 月交流会アンケート結果
Q1. 回答者属性

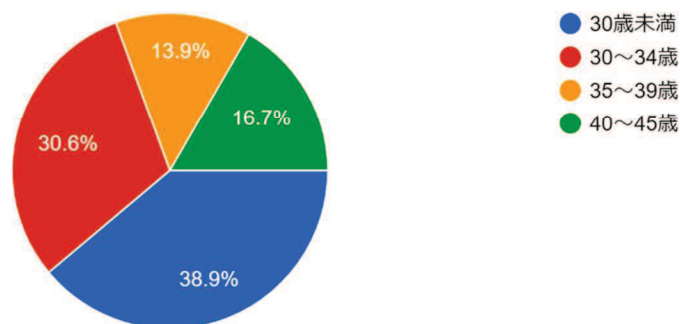
2.技術部門

36 件の回答



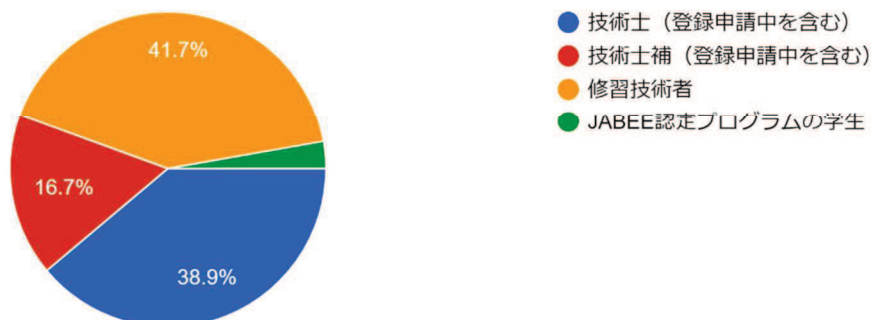
年齢層

36 件の回答



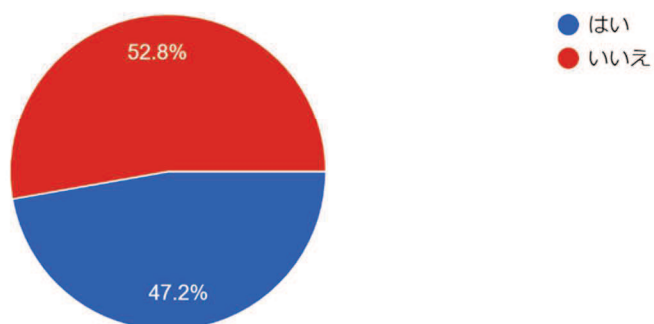
会員層

36 件の回答



日本技術士会の会員（正会員・準会員）ですか？

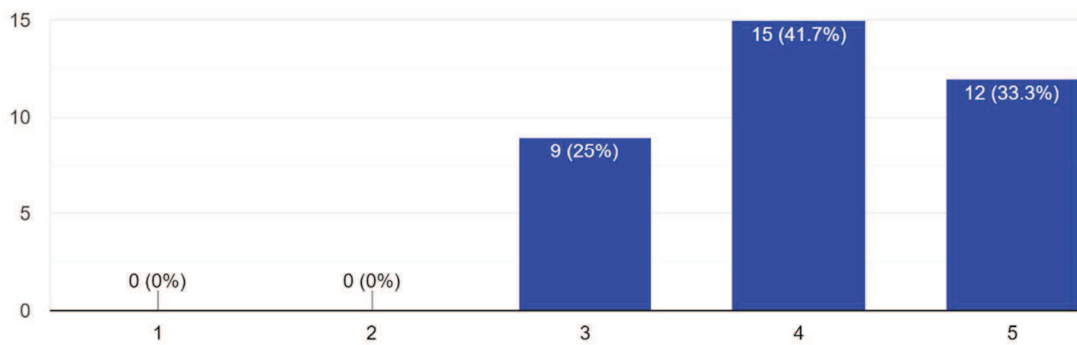
36 件の回答



Q2. グループワークについて

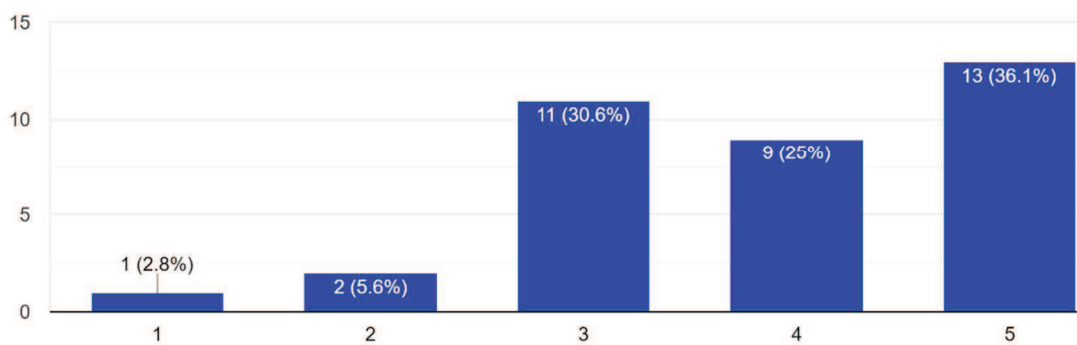
1. グループワークの内容

36 件の回答



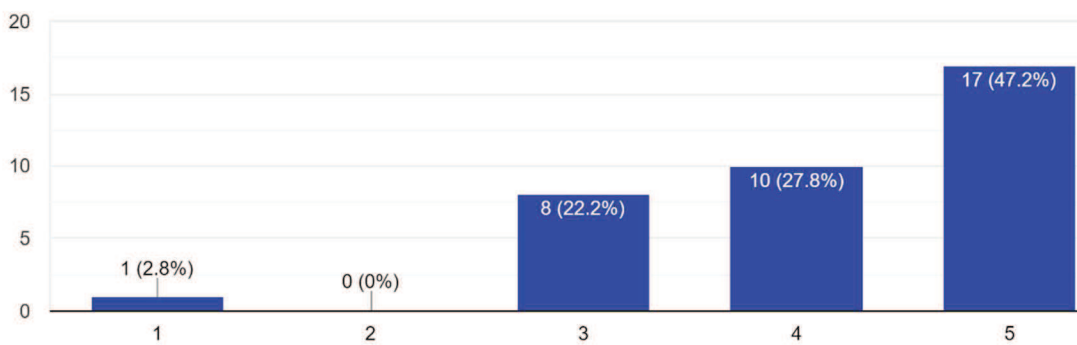
2. グループワークの進行、進行役の話し方について

36 件の回答



3. グループワークでのスタッフの対応

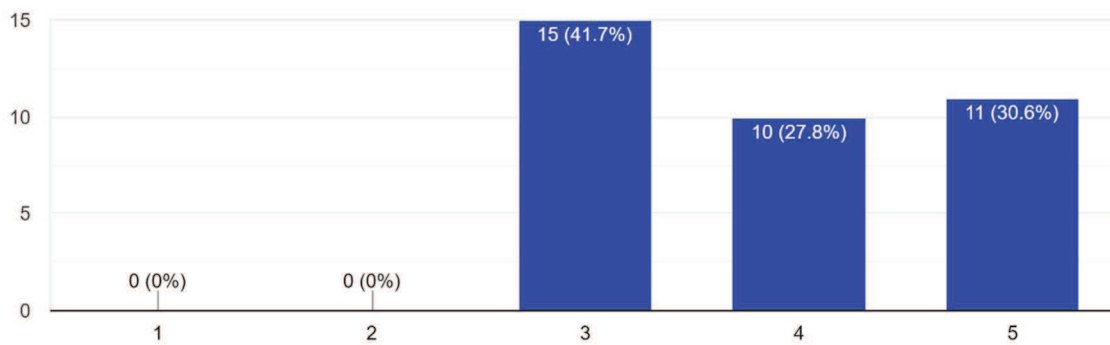
36 件の回答



Q3. 交流会全体について

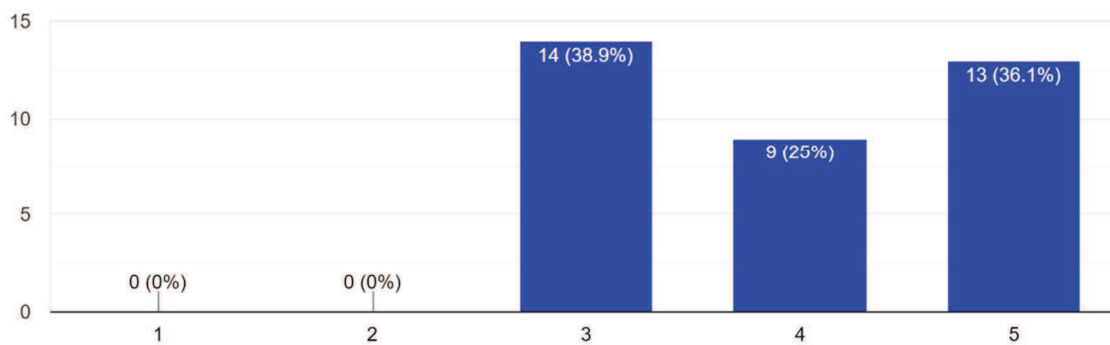
1. 交流会の内容

36 件の回答



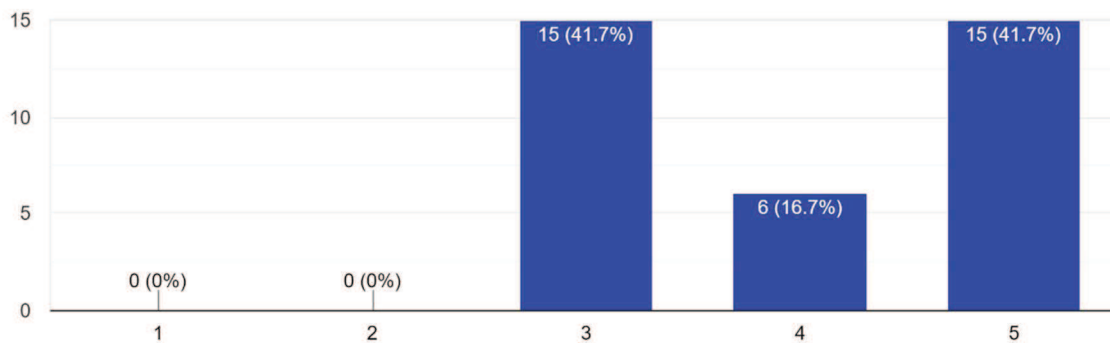
2. 交流会の進行、進行役の話し方について

36 件の回答



3. 交流会でのスタッフの対応

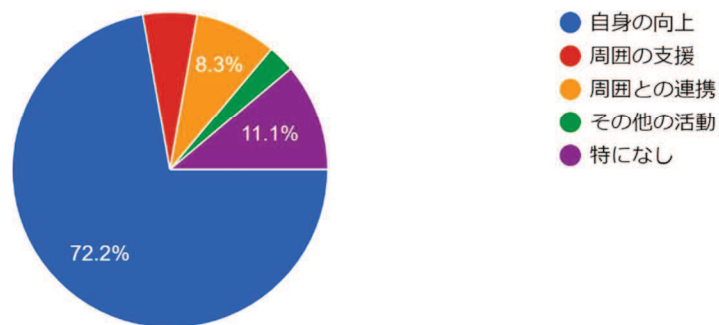
36 件の回答



Q4. 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか（研鑽等）

ご自身の具体的な活動について

36 件の回答



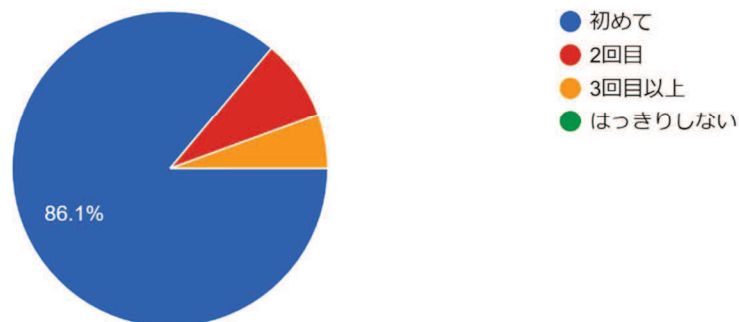
その他の活動を選んだ方は具体的に列挙してください

- ・ 二次試験合格に向けた勉強
- ・ 月イチでの勉強会参加（ごきそ技術士会、なごや環境大学共育講座）
- ・ Python3 による分析データ処理の自動化ツールの作成及び提供
- ・ 若手技術者の交流
- ・ 他の資格の勉強

Q5. 青年委員会の活動について

1. 青年委員会のイベント参加回数

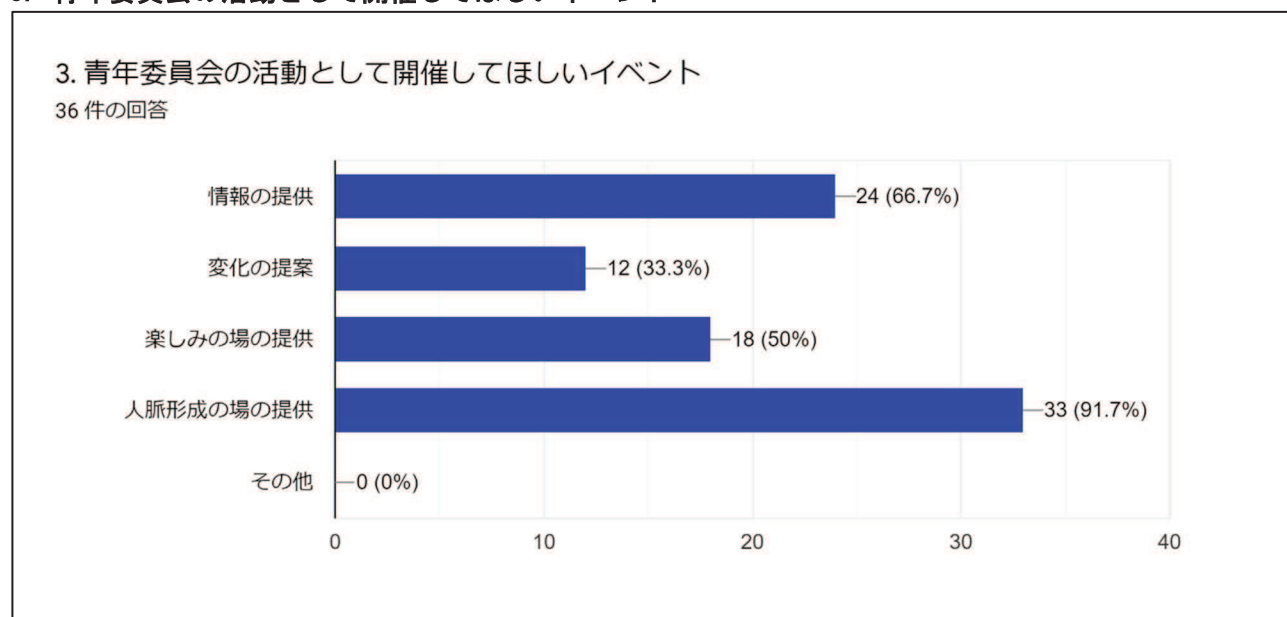
36 件の回答



2. 過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ（2回目以上の方のみ）

- ・ ストレングスファインダー
- ・ 高専生による発表
- ・ 合格者交流会（前回も参加）
- ・ 2021 年 9 月に行われた「今日から君も孫子たれ」

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント



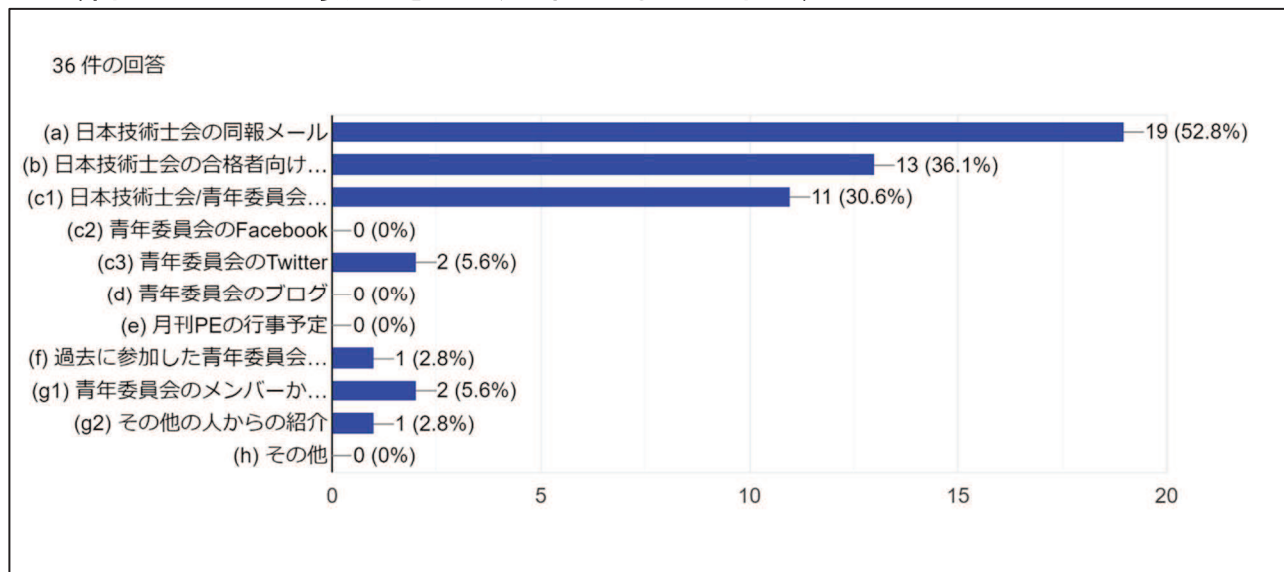
上記で選択したものの具体例を書いてください

- ・他の技術部門の方とコラボする方法。
- ・技術士の地位の更なる向上について、分野横断的な困り事の相談の場と解決方法の提案の場等
- ・社会動向トピックス（課題等に対し、各技術部門の多様な視点、考えを共有できる場）
- ・他業種の技術士の方々との交流
- ・他分野の技術的な話など
- ・働く上でのメンタルヘルスをテーマにした講演などが、あるとうれしい。また女性のキャリアについて話し合う場が欲しい。
- ・交流イベントの開催、工場見学など
- ・技術士の今後の本業や副業（ソーシャルビジネス）への役立て方
- ・同部門・他部門問わず交流の機会
- ・技術士の先輩方との飲み会
- ・ベテラン技術士の講演など
- ・技術者としての実務上の課題解決方法に関する議論
- ・他部門、他地域の方との交流
- ・今日のグループワークで、神作を連れてきたいと選んでくださった皆様に、あらためて感謝申し上げます。こういった小さなことからつながりが始まることを忘れずに、すすんでまいります。

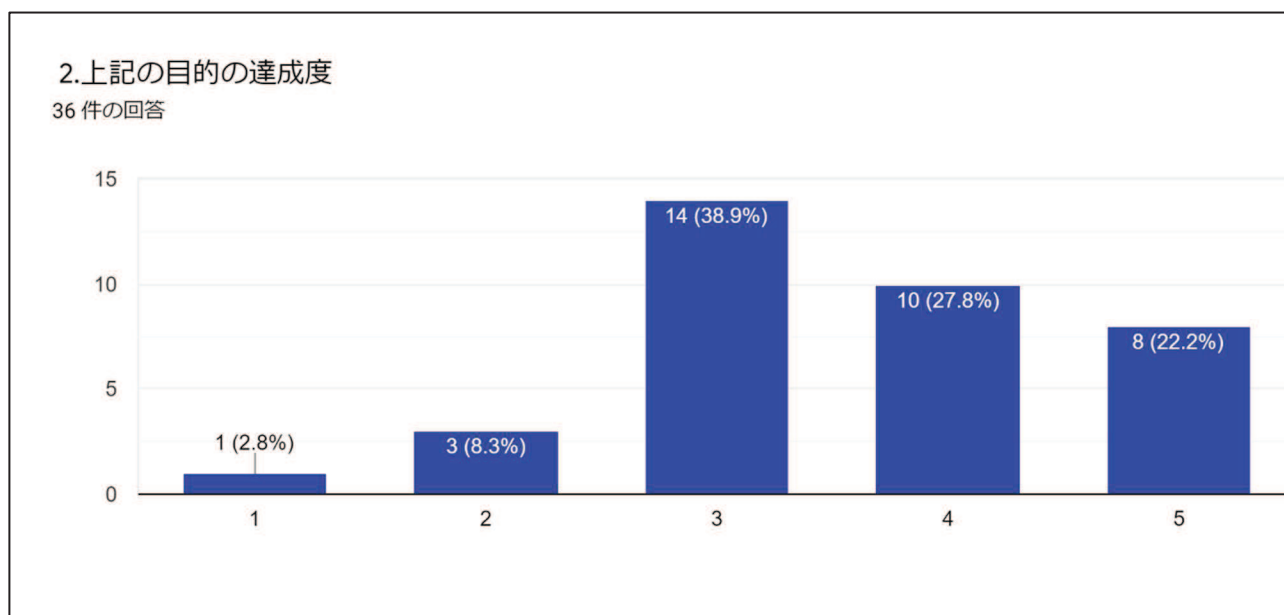
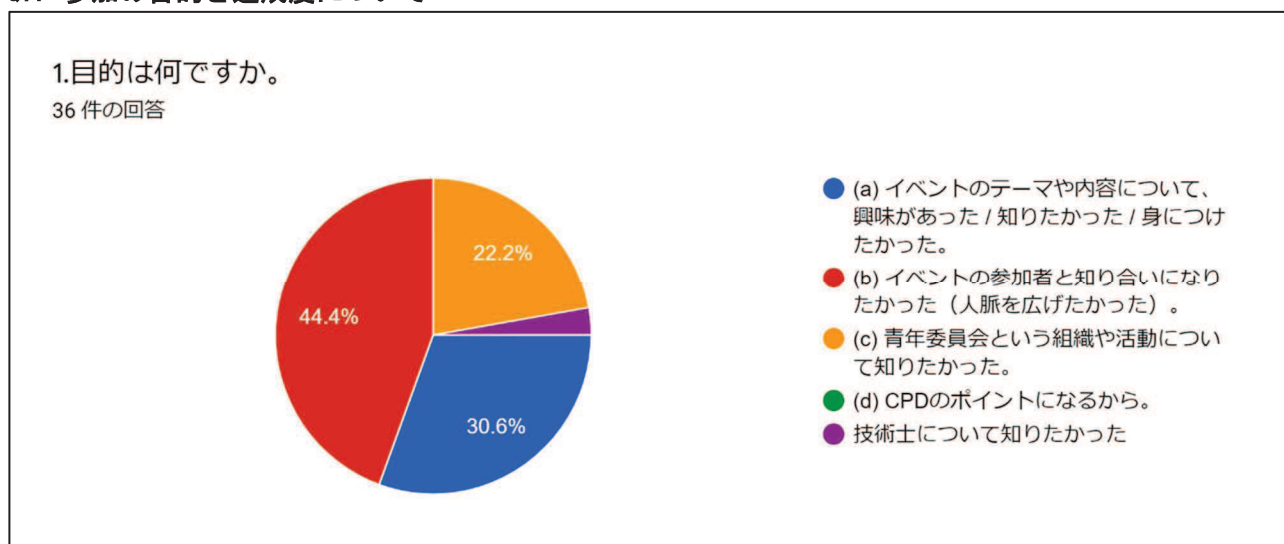
4. 内容以外について、ご希望などがございましたら、お書きください

- ・交流会で、他の方の音声が混ざって、聞き取りづらいのがちょっとつらかったです。音に敏感な方なので。
- ・土日、平日 18 時以降
- ・知合いになった参加者との個別連絡方法を取決め頂きたかった。

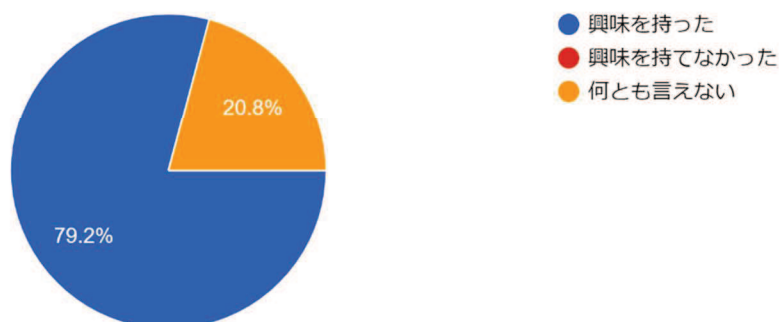
Q6. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか



Q7. 参加の目的と達成度について



3.非会員の方にお聞きします。このイベントを通して日本技術士会に興味を持って頂けましたか？
24 件の回答



4. スタッフに伝えたいこと

- ・楽しいイベントありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。
 - ・この度は合格者交流会を開催頂きありがとうございました。年齢が近い技術士の方々と交流できうれしく思います。グループワークの中で他己紹介のワークは画期的な企画だったと感じます。オンラインという制約がある中で、多くの参加者の方々と知り交流できました。
 - ・運営大変だったと思いますが、きっちりとこなされておりすごいと思いました。お疲れ様でした&ありがとうございました！
 - ・多忙な中、企画運営いただきありがとうございました。
 - ・若い人の多い会で、非常に楽しかったです。
 - ・ご企画いただき、ありがとうございました。
 - ・ありがとうございました。
 - ・また機会あれば参加させていただきたいです。
 - ・できれば対面開催希望
 - ・本日は色々教えていただきありがとうございました。すごく満足のいくイベントでした。また実際の活動もきになるので、参加させてもらいたいと思います。よろしくお願いします。
- 準備が大変だったと推測致します。良い学びと交流の機会をご提供頂きまして
- ・ありがとうございました。
 - ・今後は技術士会にも入会させて頂いて、また、タイミングが合えば勉強会等の行事にも参加させて頂きたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。
 - ・本日はありがとうございました！
 - ・時間があっという間でしたが、色々と活動内容な様々な技術者の方と交流することができました。また、時間が合えばイベント等にも参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
 - ・貴重な場を設けていただきありがとうございました。
 - ・普段関わりの少ない他部門の人の考えや大人の人ならではの意見が分かり、勉強になりました。
 - ・修習技術者として初めての参加でしたが、楽しく有意義な時間を過ごせました。
 - ・開催していただきありがとうございました。
 - ・周囲に 20 代の技術士補を持った人がおらず少し閉塞感を感じることはあったのですが、今回のイベントに参加して改めて同年代でこれだけ技術士補の方がいて技術士合格という同じ目標を持った方々がいると実感できました。懇親会は都合上参加出来ませんでしたが、今後同様なイベントがありましたらまた参加させていただきたいと思います。
 - ・今回のグループワークで神作を連れてきたいと選んでくださった皆様に感謝いたします。また、こういう場を作ってくださった皆様に、あらためて感謝申し上げます。今日はどうもありがとうございました。
 - ・オンラインなので、名刺交換などもないため、後から氏名などを振り返る材料がないのがさみしいです。個人情報的に難しいかもしれませんが、参加者名簿が頂けると助かりました。それと、グループワーク時に個々の人物紹介と各人が推薦するメンバー紹介に時間の 8 割以上を割いてしまいました。それ

それが推薦するメンバーは各1人にする等しておいたほうがよかったのかなと思います。
貴重な機会を提供していただきありがとうございました。

地域本部 活動報告書

青年技術士支援委員会 統括本部 活動報告

統括本部 委員長
河野 恭彦

1 / 13

統括本部体制図

技術士
仲間を
作ろう!



3 / 13

統括メンバー構成

技術士
仲間を
作ろう!



全国大会 青年の集い@東京タワー
お揃いのTシャツを着ました！

オンラインメインで対面での活動
が難しい1年でした・・・。

対面での交流、コミュ
ニケーションのありが
たみを感じた1年でした。

- 1) 幅広い年齢層！（20代～40代）特に30代～40代が中心
魅力的なメンバーがたくさん！！
- 2) 6名の女性が参画！（男女共同参画：ダイバーシティ）
統括委員21名（各地域本部委員長除く）
- 3) 様々な技術部門の方から構成！
（13部門／21部門：網羅率は約7割！）

4 / 13

活動目的 （2021年7月から変更）

技術士
仲間を
作ろう!

1. 本会の運営についての若手正会員層による積
極的な企画、協力体制の構築
2. 若手正会員向けを中心とした研鑽事業の企
画・実施・指導
3. 部会及び地域組織における若手正会員層との
連携による研鑽活動の活性化

※国際交流等は有志による活動として実施

【本活動の参加対象者&主な特徴】
技術士、技術士補、修習技術者等向け
（参加対象者：45歳以下の正会員・準会員）
OUTPUT重視！！

5 / 13

統括本部の活動方針

技術士
仲間を
作ろう!

- 青年委員1人1人が主役となって、各自が全国の若手技術者を牽引するという強い思いを持つ。
 - 全国の若手正会員及び新規若手技術者と交流、自己研鑽する場（例会）を設ける。
- ビジネス、コミュニケーション等といった多岐に渡る魅力あるテーマを発案



- 魅力ある青年委員会を作る＝青年委員会で成長し、人を惹きつける魅力ある人間になること
- 積極的な情報発信（広報活動）及び得られた例会における成果の外部へのアウトプット

6 / 13

例会グループ活動報告

◆目的：コロナ禍に対応した“円滑に例会運営ができるサポート”

◆活動内容

①例会チーム制の導入

・主担当→チーム制へ

・チーム毎のチャンネル開設
(ビジネスチャットツール)

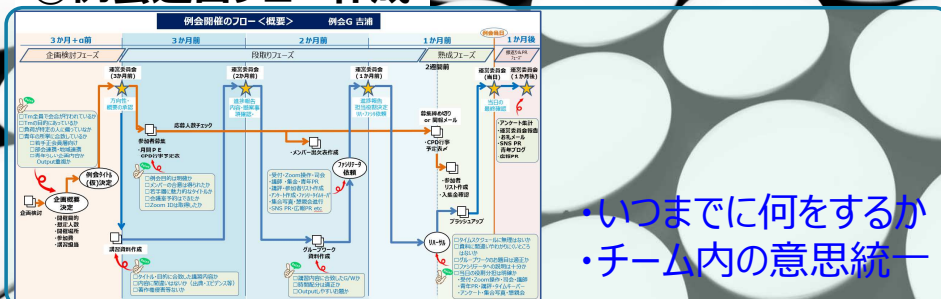


ジャンルを設定して、ジャンルに興味・関心の強いメンバーでチームを編成して、チーム内で協力して運営

slack
・過去の履歴を簡単に把握できる
・チーム内外で情報共有できる
・宛先に悩まない
・リアルタイムにやり取りできる



②例会運営フロー作成



・いつまでに何をするか
・チーム内の意思統一

③例会運営チェックシートの作成

チーム分担による抜けモレ

スプレッドシートでチェック
できる仕組み作り

7 / 13

例会グループ活動報告

◆開催した例会一覧

実施年月	分類	例会
2021年5月	内部	日豪交流
6月	特別例会	1次・2次試験合格者交流会「ベストマッチ 技術士仲間を見つけよう」
2021年7月	部門横断	技術士のための動画発信・YouTube活用講座
9月	部門横断	今日から君も孫子たれ！～自分らしいリーダーシップを見つけよう～
10月	内部	自己紹介&例会決め
11月	全国大会	2021 全国大会 青年の集い
2022年1月	部門横断	自分ふしぎ発見！？～ストリングス・ファインダーで探るワタシの謎～
2月	部門横断	福島原発事故から学ぶリスクコミュニケーション
4月	特別例会	1次・2次試験合格者交流会

◆次年度に向けて

変化に対応した例会運営のサポート強化

(今まで培ってきたオンライン例会の運営ノウハウを活かす)

8 / 13

活動報告 広報プロジェクト

例会開催後、
3日以内にプレスリリース！

活動方針

- ・ 青年技術士交流委員会の活動及び成果を積極的に日本技術士会内外にPRする。
- ・ 技術士会員（特に若手層）や技術者に対して、魅力ある活動であることを積極的にPRする。

2021年7月21日
建設通信新聞Web刊
SNSでも閲覧可能！！



建設通信新聞 日本技術士会 青年技術士支援委員会

News Release

2022年6月1日

熊本城復旧取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方 オンライン開催にて大盛況で終了！

【イベント開催報告】

当会が日本技術士会青年技術士支援委員会（河野部長委員長）は、5月28日（土）に開催した熊本城復旧取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方 オンライン開催にて大盛況で終了！

【イベント開催報告】

熊本城復旧取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方 オンライン開催にて大盛況で終了！

【イベント開催報告】

熊本城復旧取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方 オンライン開催にて大盛況で終了！

【イベント開催報告】

熊本城復旧取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方 オンライン開催にて大盛況で終了！

【イベント開催報告】

熊本城復旧取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方 オンライン開催にて大盛況で終了！

9 / 13



青年委員会活動紹介動画（YouTubeで公開中！）



青年技術士支援委員会

青年技術士支援委員会



青年技術士支援委員会



YouTube

青年技術士支援委員会



若手技術士プラットフォーム（オンラインサロン）を開設・運営

現在全国の青年メンバー61人で稼働中！QRコードをクリックして参加しましょう！



若手技術士プラットフォーム



若手技術士プラットフォーム

若手技術士プラットフォーム

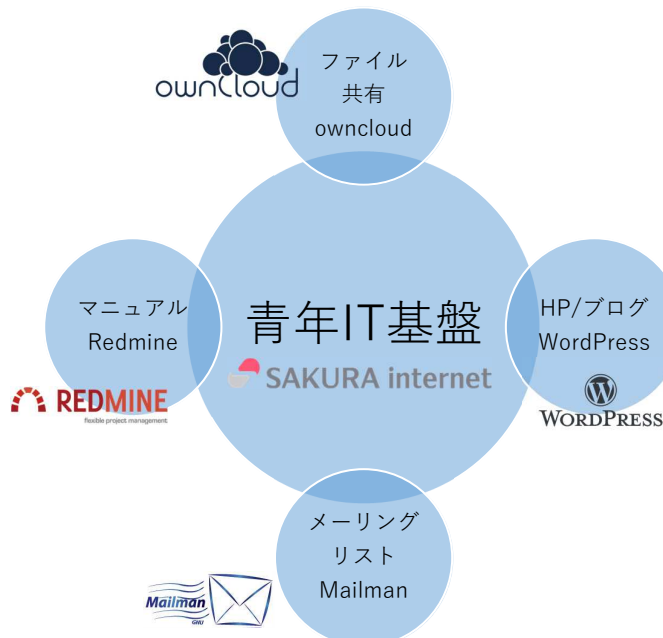
若手技術士プラットフォーム

検索

IT担当 活動報告

Mission

青年委員会の活動を独自のITインフラで下支えし、青年活動の円滑化に寄与する。



2021年度活動

- ① サーバ保守（契約更新、維持管理）
- ② メーリングリスト管理（追加/削除）
- ③ アカウント管理（owncloud/Redmine）
- ④ 事務局協議 ★2021年度重要活動

IT予算の承認が下りていなかったため、青年ITインフラの今後の方針を協議。2021年度のインフラ契約は無事に更新し、今後のITインフラのあり方を合意。

今後の活動方針

- ・ IT基盤の維持・運用を継続
- ・ 事務局との協議結果に従い、日本技術士会の公式HPと青年HP（ブログに特化）の対応を広報Gと協働して実施予定

「第17期」1年目、始動 活動テーマ= 「楽しい青技交！」

大小含め、
年間11イベントを計画・実行！

交流・研鑽促進のため楽しいイベント企画・実施
約50名の幹事でのWG体制の実行 / 若手幹事の活躍！

全イベントの報告

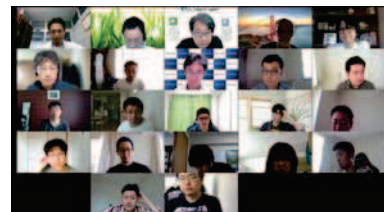
- ①「技術士を知ろう！」@北海道科学大学 (6/3)
- ②北海道×統括 ストレngthス・ファインダー (6/6)
 - 拡大委員会@web開催 への参加 (6/26)
- ③「技術士を知ろう！」@札幌工業高校3年生 (7/6)
- ④「技術士を知ろう！」@苫小牧高専 (7/8)
 - 北海道本部第54回年次大会参加 (7/14)
- ⑤新合格者&若手対象 ワークショップ (7/31)
- ⑥small talk (8/6)
- ⑦「技術士を知ろう！」@札幌上野幌中学校 (10/28)
 - 日韓技術士国際会議@仙台 (web) への参加 (10/31)
- ⑧small talk (11/7)
- ⑨「技術士を知ろう！」@北見工業大学 (11/26)
 - 全国大会@東京 (web) への参加 (11/27)
- ⑩公開型講演会「技術士による知的書評合戦
オンラインビブリオバトル2021」(12/18)
- ⑪「技術士を知ろう！」@函館工業高等専門学校 (12/20)

中止になってしまった主なイベント

- ・ 幹事+家族交流「夏合宿(キャンプ)」
- ・ エンジョイサイエンス研究会とのコラボイベント
- ・ 幹事交流イベント「技術交流・冬合宿」
- ・ 「技術士を知ろう！」小学生編 等



▲ストレngthスファインダー企画(北海道×統括)



▲公開型講演会
オンラインビブリオバトル2021



▲新合格者&若手対象WS

その実現へ向けた
事前打合せ・調整
= 幹事会&WG
計10回以上実施
※技術士を知ろうWGを除く



▲技術士を知ろう(北見工大)

北海道本部) R4活動計画

「第17期」の2年目、変わらず楽しく！



委員長 : 平岡 城栄(継続)
副委員長 : 須田 徹央(継続)、太田 真吾(継続)、
密山 彰浩(継続)、藤井 貴弥(継続)、
長内 克真(継続)
幹事長 : 高橋 歩夢(継続) 幹事=約40名体制で始動

<今年度は、対面・webのハイブリッド
幹事会を開催しています！>

全イベントの計画：R4=平岡委員長集大成！

- 拡大委員会@zoom への参加 (6/25)
- ①本部主催の合格祝賀会(1・2次試験) (4/6)
- ②新合格者&U-35対象 ワークショップ (5/14)
- ③オンライン講演会「セコマ」(6月予定)
- ④テクニカルツアー(北海道新幹線) (7月予定)
- ⑤幹事+家族交流「夏合宿(キャンプ)」(8月予定)
- ⑥テクニカルツアー(kitara) (9~10月予定)
- 日韓技術士国際会議(韓国 麗水) (10~11月)
- 全国大会(青年イベント)@奈良への参加 (10月)
- ~以降、実施時期未定~
- ⑦公開型講演会「(未定)」
- ⑧幹事交流イベント「技術交流・冬合宿」
- ⑨技術士を知ろう！小学生編
- ⑩本部主催の合格祝賀会(1次試験)⇒青年2次会
- その他：ヨガイイベント、ランチ会 等

「技術士を知ろう！」⇒今年もミライ研との共催で実施予定！



公益社団法人日本技術士会
北海道本部 社会活動委員会
技術者のミライ研究委員会

代表 : 小澤 正志
幹事長 : 千葉 裕
幹事 : 木本光則ほか、計19名

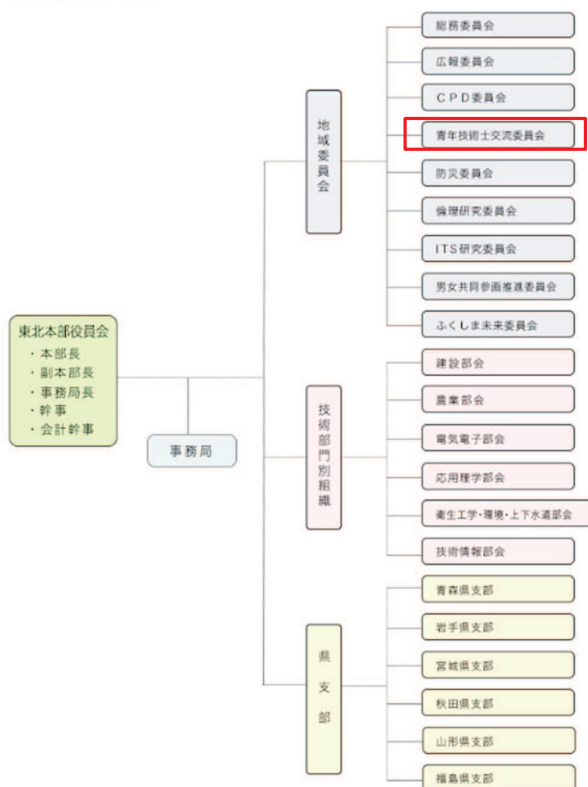


令和4年 青年技術士交流委員会 本支部交流会議

活動報告【東北本部】

組織

令和4年 東北本部役員会制定



定例会議



(大)懇親会 計画中



第50回 日韓技術士 国際会議（仙台）



第50回日韓技術士国際会議（仙台） The 50th Japan-Korea Professional Engineers International Conference

開催プログラム

10月30日（土）

- 14:00～15:30 第14回日韓女性技術士交流会（Zoomミーティング 配信のみ）
内 容：活動報告及び論文発表
15:45～17:00 日韓の技術士・学生座談会
テーマ：ダイバーシティと技術者教育
会 場：仙台ビジネスホテル（Teamsのバー配信を併用）
※いずれも、韓国語/日本語の通訳あり

10月31日（日）

- 第50回日韓技術士国際会議 本会議
（会場）ホテルメトロポリタン仙台
zoomウェビナー配信（韓国語/日本語の同時通訳あり）
Web参加者の資料は特設サイトからダウンロードできます。

【午前の部】

8:30～9:30	開会宣言、開会挨拶、来賓祝辞、活動報告、国際貢献賞授賞式
9:30～10:30	基調講演（日本側1名、韓国側1名）
10:30～10:50	コーヒーブレイク
10:50～11:30	特別報告（映像） 『(仮) 東日本大震災から10年の東北の歩みと福島のことから』 『(仮) 映像で振り返る日韓技術士交流半世紀の歩み』

【午後の部】

一般発表：分科会ごとに日本側2名、韓国側2名が口頭発表	
12:30～13:30	第1分科 基礎分野（国土、社会インフラ、土木・建設、基礎産業、農林水産など）
13:30～14:30	第2分科 エネルギー（資源、エネルギー、環境など）
14:30～14:50	コーヒーブレイク
14:50～15:50	第3分科 技術監理（倫理、力量、教育、危機管理、防災、安全など）
15:50～16:50	第4分科 先端分野（情報通信、ナノテクノロジー、バイオ、素材、第4次産業分野など）
16:50～17:00	次回開催地「麗水（ヨス）」の紹介
17:00～17:10	本会議のまとめ
17:10～17:20	大会宣言

第50回 日韓技術士 国際会議（仙台）

2021年10月31日



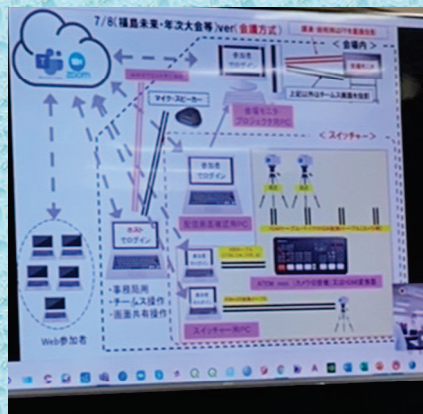
配信チーム

打ち合わせの様子

東北本部メンバーとの打ち合わせ



配信プランの構築



東日本大震災復興10年事業
(次回7月22日)



第50回
日韓技術士
国際会議（仙台）

2021年10月31日

～日韓学生座談会～



令和3年度 技術士第二次試験 合格者祝賀研修会

2022年5月20日

行事・CPD案内

2022-05-20 令和3年度 技術士第二次試験合格者...

前 2022年3月15日

令和3年度（東北本部）技術士第二次試験合格者祝賀研修会開催のご案内
オンライン併用開催の連絡について

令和3年度 技術士第二次試験合格者祝賀会を下記要領にて、開催させていただきます。
なお、オンライン配信はMicrosoftのteamsを使います。
会場並びにオンラインで開催いたしますので、ご参加くださいますようお願いいたします。
よろしくお願ひ申し上げます。

- 日 時：2022年5月20日（金）15:00～17:00（受付開始14:30～）
 - 会 場：TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口 ホール8 A
仙台市青葉区花京院1-2-15（TEL：022-200-2618）
 - 参加費：無料
 - 会場定員：50名（令和3年度技術士第二次試験合格者を優先させていただきます）
※会場定員の為、会場にご参加いただけない方にはその旨ご連絡いたします。
 - 申込締切：2022年5月16日（月）
 - プログラム
- | | | |
|-----------------|--------------------|---|
| 1. 開会の挨拶 | 15:00 ～ 15:10 | 東北本部 本部長 熊谷 和夫 |
| 2. 新合格者紹介 | 15:10 ～ 15:30 | ※新合格者（自己紹介） |
| 3. 日本技術士会からのご案内 | 15:30 ～ 16:00 | 東北本部 事務局長 滝上 忠彦 |
| 4. 記念講演 | 16:00 ～ 17:00（60分） | 演 題（仮題）「技術者倫理」
講 師 名倉 隆 氏（公益社団法人 日本技術士会 東北本部 CPD委員長） |
| 5. 閉会の挨拶 | | 東北本部 副本部長 遠藤 敏雄 |



- ・秋田工業高等専門学校「技術士を知ろう」
- 【内容】
- ・就職後の土木業界の面白さ、資格の重要性を知ってもらう
- ・学生のモチベーションアップやキャリアデザインetc

学校へ行こう
計画中



技術士
仲間を
作ろう!



青年技術士交流委員会

公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会

活動紹介 委員長交代



高野前委員長

(写真はFacebookより)



激務から解放されて登山家の道へ？



詳しくは、Facebook参照



2021年7月
交代！



村山委員長

ハイ-センスな若きリーダー

長期政権か？

活動紹介 ホームページリニューアル（北陸本部）

2021.10.8 北陸本部HPがリニューアル→→青年のページもリニューアル

青年技術士交流委員会とは

主として若手技術者を対象に、見学会、講演会などのCPD行事を企画しています。また、サッカー交流やバーベキューなど気軽に参加できる異部門交流機会の創出にも取り組んでいます。
若手・女性仲間をつくり、未来を語り合う場を設けるため、下部組織として「新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会」を設置しています。

青年技術士交流委員会
委員長 村山達也







日本技術士会北陸本部サッカー交流コーナー

新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会

青年技術士交流委員会Facebook

これまでの活動内容



2022/03/12
令和3年度 冬の講演会『サステナブルな社会へ！北陸地域からの発進！』



2021/11/06
令和3年度 秋のオンライン見学会『北陸が誇るエネルギートランスフォーメーション』



2021/07/17
2021年度ウェルカムミーティング & 第16回北陸入青年技術士交流委員会 開催報告



2021/05/05
令和2年度 冬の講演会『北陸の青年技術士』



2020/10/23
令和2年度 秋の見学会『佐渡地域のストックマネジメント 世界遺産への挑戦と生産』



2020/10/04
全国青年2020～中部大会～With AICHI



2020/09/12
第15回青年技術士交流委員会 拡大委員会



2020/01/21
令和元年度 冬の講演会『糸魚川市駅北大火からの復興の取り組み』



2019/11/01
令和元年度 秋の見学会『羽越水害を乗り越えて！新潟の農業を支える農業水利施設』



青年Facebookページも掲載

活動紹介 20周年記念誌発行



20周年記念式典を開催したかったが、
コロナ禍でやむなく断念、、、



20周年記念誌だけでも作ろう！
そして、より多くの人に気軽に読んでもらおう！



製本はしないで、電子データのみ作成！
北陸本部ホームページで公開中！

（北陸の青年は、今年の12月で丸24年となります）
（色々あって、20周年企画が遅くなりました）

活動紹介 拡大委員会＋ウェルカムミーティング

2021.7.17 (土) 13:30～16:30

北陸4県の技術者交流の場

会場 (新潟市) 参加



Web参加

13名

23名

♪ 委員会活動紹介・活動報告

♪ 20周年記念誌の紹介

♪ **参加者自己紹介 (参加者全員が1分で自己紹介)**

♪ **技術発表会 (CPD 1.5)**

① 直流電力の利用と技術開発

② データに基づく交通行動の把握について

③ はじめましてー週末のわたしー

④ こんな業務やってます

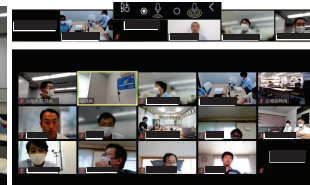
⑤ あなたの部屋の感染確率

♪ 富山県支部の活動紹介

♪ 北陸技術士懇談会の活動紹介

♪ **(隠しプログラム)**

前委員長へ謝恩品贈呈！



活動紹介 秋のオンライン見学会

2021.11.6 (土) 13:15～16:00 (CPD 2.0)

「北陸が誇るエネルギートランスフォーメーション施設を巡る旅」

～カーボンニュートラルをはじめとしたエネルギー問題～

♪ (株)INPEX 越路原プラント敷地内メタネーション試験設備



♪ (株)INPEX 直江津LNG基地



会場 (新潟市) 参加



Web参加

10名

40名

活動紹介 冬の講演会（エコスタラウンジから中継）

2022.3.12（土）13:30～16:15 （CPD 2.0）

「サステナブルな社会へ！北陸地域からの発進！」

～持続可能な社会と技術、エンジニアとしてSDGsに関する幅広い見識を深めよう～

- ♪ 地熱（温泉）発電を活かしたローカルSDGsへの挑戦！
- ♪ 東芝 二次電池SCiB™の技術と応用



会場（新潟市）参加

9名



Web参加

52名

活動紹介 他団体との連携

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会

イベントの告知を他団体に共有

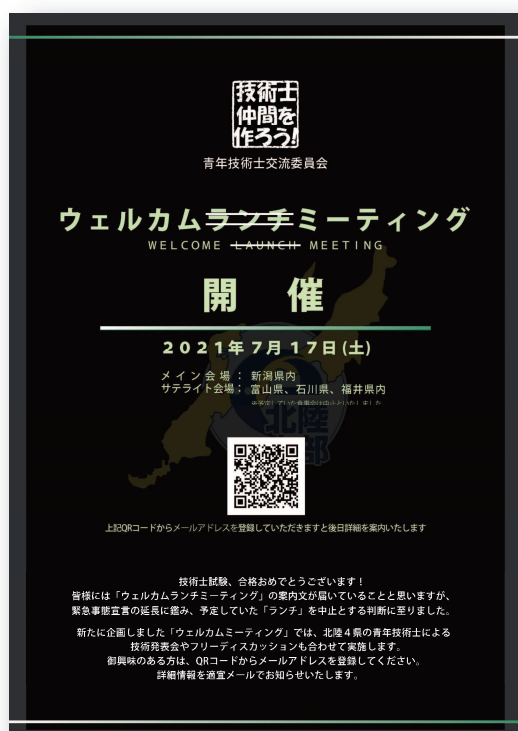


学生をターゲットに技術士の魅力を発信！

【課題】 建設系以外の学生への発信

活動紹介 イベントチラシの作成

目を引くチラシを作成して、参加者の拡大を図った！



活動紹介 サッカー活動

あの有名な「阿賀野川河川敷サッカー場」にて不定期活動中！



2021年度 中部本部 活動報告



例会

コロナ対策を講じ、
⇒Web開催＋対面
でイベントを開催

年次総会/4月例会

Webによる
活動結果、
計画を報告



自己紹介



ビブリオバトル開催
(公式ルール準拠)

6月年例会

ものづくり創造拠点
SENTAN(豊田市)



施設見学

原価計算の
基礎講座/演習



ネームプレート製作

9月年例会

講師3名によるオンライン講演



水道水、処理水の水質検査や
塩素濃度測定の実演

12月年例会

仕掛学の基礎/応用について
Web＋対面で講演会

講演1

仕掛学
～人を動かすアイデアの作り方～

大阪大学大学院
経済学研究科教授 松村真宏氏

講演2

仕掛けでまちづくり
～人の行動で解決できる課題を捉える～

NTTデータ経営研究所
情報未来イノベーション本部
マネージャー 飯島玲生氏
(名古屋大学 招へい教員)



仕掛学
WG



2月年例会

講師2名によるオンライン講演

講演1:

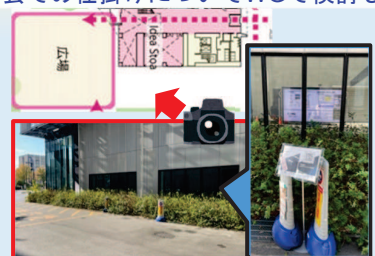
「航空機の整備について」
全日本空輸株式会社
松崎 徹氏

講演2:

「航空機エンジンの設計
・製造・品質管理について」
三菱重工航空エンジン株式会社
貴志 公博氏



例会での仕掛けについてWGで検討し、4つの仕掛けを会場に設置



例会仕掛けの成果を2月の仕掛学研究会@大阪大学にて発表

技術同好会

コロナ禍でも
思いと技術で
活動継続

※継続4WGは休会
(建設,製造,科学教育,IT活用)

2021年度 中部本部 活動報告



2022年度（令和4年度）の活動体制 （12名＋補佐2名＋顧問2名＋運営2名）

新任 3名 再任 6名

役割	特命	氏名	任期
委員長	委員会運営	嘉田 善仁 機械	任期2年目 12代
副委員(筆頭)	委員長代行、CPD委員会 全国大会、科学教育	成田 尚宣 生物工学	任期2年目
副委員長	全国連携、試験事業支援	中村 将士 金属	任期2年目
副委員長	例会改革L	小塚 俊吾 機械(修)	任期2年目
委員	例会企画	加藤 潤哉 電気電子	再任
委員	例会改革SubL	中川 勝統 衛生工学	新任
委員	例会企画	加藤 昭久 機械	再任
委員	例会企画	青山 浩之 建設、上下水、 総監	再任
委員	例会企画、全国連携	熊澤 貴弘 経営工学	任期2年目
委員	交流会企画	三島 孝朗 機械(修)	任期2年目
委員	例会企画	市位 卓久 機械	新任
委員	例会企画	青山 尚弘 機械(修)	再任
委員補佐	例会運営補助、修習補助	平野 健二郎 化学、環境、応用理学	新任
委員補佐	例会運営補助	秋山 幸之朗 機械(補)	任期2年目
顧問	運営相談	石川 智康 情報工学	任期2年目 11代
顧問	運営相談	高瀬 春之 経営工学	任期2年目 10代
運営委員	例会推進	木村 琢磨 電気電子(修)	再任
運営委員	例会推進	宇佐美 英明 農業(修)	再任

近畿本部 青年技術士交流委員会 2021年度活動報告／2022年度活動計画

近畿本部 青年技術士交流委員会
委員長 藤内 洋

近畿本部 青年技術士交流委員会

所掌事務および主な業務
青年技術士層の相互交流、研鑽、社会貢献

委員長： 藤内 洋 （機械、総合技術監
理）

委員： 高岡 直樹（化学）
竹市 雄作（船舶・海
洋）

原口 宣明（上下水道）
坂東 大輔（情報工学）
藤本 喜敏（機械、総合
技術監理）

畠中 祐二（機械）

事務局委員：河野 千代（建設）
主な活動（近畿本部への届け出）
近畿青年技術士懇談会の活動支援



2022年 とにかく活動しづかったこともあり、
独自の活動は1イベントのみ。



2022年1月22日土曜日 19:10~21:00

キャリアプラン／ライフプラン系の講演・ワークショップを実施

講演概要

豊かで余裕のある仕事人生を送りたいという願いを持つ人が増えている中で「**FIRE**(Financial Independence, Retire Early)」という考え方がフォーカスされています。仕事人生の1つのオプションとして「1つの会社に頼らない生き方」という意味でのFIREを取り上げ、どのような備えが必要か、スキルや人脈の築き方、資産運用の基礎などを通して豊かな人生を描く方法をお伝えします。

工夫した点その1 中小企業診断士の青年部にも協力してもらいました。

参加資格

技術士／中小企業診断士、一般参加の場合は下記団体の関係者よりの紹介である場合に限り受け付けます。

- ・日本技術士会 近畿本部 青年技術士交流委員会
- ・中小企業診断士 青年部（兵庫支部・大阪支部）

工夫した点その2 カップル割引を設定

（夫婦カップルで参加してくれた人がどれぐらいいるかは不明。）

参加費用 1申し込みあたり¥3,000

ライフプランに関する講演のため、パートナーとの参加の場合は1件の申し込みで2名まで参加可能です。ぜひお誘い合せの上、一緒に勉強しましょう。

↑ 藤内の妻は参加。きっちりレポートまで書いていました。（まじめだ。）

<https://note.com/terakoyahitsuji/n/n66123c7ff873>

工夫した点その3 案内、申し込み、CPD票配布までGoogleDrive等を利用。

Googleスプレッドシート+Gmailを使って「CPD票と共にCPD票に記載するID番号を記載した自動メールを送信。」などをやってみた。

講師をDJ Nobbyさんをお願いした。（voicyの「ながら日経」や「経済ニュースでやりたい放題」）神戸出身らしい。

DJ Nobby

ディージェーノビー

**金融マンとして
銀行・証券・保険の
3分野を熟知。**

【職歴】
シティバンク・エヌ・エイ
東京金融取引所
ブルデンシャル生命保険
メットライフ生命保険



**ラジオDJとして
17歳から
キャリアをスタート**

【出演歴】
西宮コミュニティ放送
Voicy
MUSIC BIRD
TBSテレビ
Tokyo MXテレビ など

キャリアプラン／ライフプランに関するワークショップのため、
本講演でのFIREの定義は
「ライスワークを最小限の時間に、ライフワークの時間を最大化！」
としていただいた。

（ライスワークとは、生きるための金銭を稼ぐ労働のこと。
ライフワークとは、自分が生涯続けていきたい労働や活動のこと）

イベントの結果は好評。

参加者25名（内、中小企業診断士4名、修習技術者2名）

講演後2週間後まで録画データを公開した。

アンケート結果より抜粋

- ・（講師の）プレゼン力がすごいと思いました。
退路を断たず、複業を目指したいと思います。
- ・リアルタイムでチャットを拾ってくれたのがうれしかったです。
- ・御講演ありがとうございました。普段の技術士団体にはない講義で新鮮でした。

トラブルもあり。

近畿青年技術士委懇談会の活動紹介



<http://seigikon.jp/>

注意

近畿では、「近畿青年技術士懇談会」略称「**青技懇**」が青年層の技術士の活動の本体です。

▲：緊急事態宣言発令中、△：まん延防止等重点措置発令中

開催月	開催日	講演・講師	会場, 参加人数 (例会/懇親会)
4月 例会	4/24 (土) ▲	・2020年度総会(活動報告・新任幹事・会則改正・30周年記念例会準備分解会の設置、について承認) ・講演1「太陽光発電事業に係る環境アセスの現状と実務の紹介」 講師：田中 慎 技術士（建設、総監） ・講演2「レジャー施設でのIT導入事例」 講師：生浦 浩子 技術士（機械） ・講演3：「会社を取り戻せ！労働組合の組織運営についての総合技術監理」 講師：小宮 洋行 技術士（上下水道、機械、総監）	オンライン 33/-
5月 例会	5/28 (金) ▲	・講演：「ニューノーマル時代の生き方戦略 ～むしろ、非リア充のオタクがコロナ禍を生き残る～」 講師：坂東 大輔 技術士（情報工学部門）	オンライン 30/-
6月 例会	6/25 (金) △	・講演：「2050年カーボンニュートラルって本当に実現できるの？」 講師：西村和敏 技術士（電気電子）	オンライン 29/-
7月 例会	7/16 (金) △	・講演：「DNAが切り拓くものづくりについて」 講師：小宮 健氏 博士（工学） 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門 研究員	オンライン 32/-
8月 例会	8/22 (日) ▲	バーチャル・ファミリーツアー (Youtube動画に解説を加えながら紹介) ①「火力発電所ってどんなところ？」 ガイド：藤本 喜敏 技術士（機械、総監） ②「自転車ができるまで」 ガイド：弦牧 篤 技術士（金属、総監） ③「はたらくクルマの知られざるひみつ」 ガイド：鶴飼 裕美 技術士（機械）	オンライン 21/-
9月 例会	9/17 (金) ▲	・講演：「棄てられ森林 VS パニック行政 ～知らずに始まる森林環境譲与税のはなし～」 講師：清水 龍 技術士（建設）	オンライン 22

▲：緊急事態宣言発令中、△：まん延防止等重点措置発令中

開催月	開催日	講演・講師	会場、参加人数（例会/懇親会） ↓
10月例会	10/30 （金）	・講演：「①被災地のいま～東北三県2000日～ ②新事業へのヒント～プラスからスタートを～」 講師：桶屋 眞士 技術士（建設部門）	ハイブリッド形式 25*/- *会場8名 Web17名
11月例会	11/28 （土）	近畿青年技術士懇談会 創立30周年記念例会第1部：青技懇この10年間の活動振り返り ホスト：代表幹事 藤本 喜敏 技術士（機械・総監） 第2部：シックスハット法実践のワークショップ テーマ：青技懇・技術士の将来を考える ファシリテーター：幹事 和田 直之 技術士（化学） 会場およびWebリモート参加者間での交歓会（フリートーク）	ハイブリッド形式 33*/18 *会場25名 Web9名
12月例会	12/19 （日）	・講演1：「分析装置の設計開発 ～品質ISO対応と四方山話～」 講師：上田 直也 技術士（電気電子） ・講演2：「位相解析技術と振動、変位、人体の高速計測例」 講師：梶谷 明大 4Dセンサー株式会社 代表取締役社長和歌山大学 特任助教・現非常勤講師	ハイブリッド形式 23*/11 *会場11名 Web12名
1月例会	1/28 （金） △	・講演：「災害対応における多分野の技術士の役割と他の士業との連携について」 講師：小島和彦 技術士（建設、総監）	オンライン 30/-
2月例会	2/25 （金） △	・講演：「受注生産の課題と展望 ～標準化の視点から～」 講師：鵜飼 裕美 技術士（機械部門）	オンライン 32
3月例会	3/27 （土）	・講演1：「新たな技術士CPD活動実績の管理及び活用制度の概要と登録申請について」 講師：藤本 喜敏 技術士（機械部門、総合技術監理部門） ・講演2：「ミミズと排水処理、その可能性」 講師：赤木 知裕 技術士（農業部門）	オンライン 27/-

2022年度活動計画

近畿本部

青年技術士交流委員会

「何か青技懇ではやっていないこと」

模索中。

中小企業診断士 青年部とのコラボ等 「外に、外に」

青技懇

年12回の例会を計画。

例会案内はH/P、メーリングリストにて配信中。

<http://seigikon.jp/>

近畿に来たら「青技懇」へご参加ください。



2021年度活動概要

中国本部活動方針

「例会勉強会を柱とする技術者間交流、および技術を通じた社会貢献により、会員の成長の機会を提供します。」

- 『例会』『研鑽・交流促進』『社会連携』の三本柱。
 - 例会：月一回の例会を開催
 - 研鑽・交流促進：メンバー内の研鑽・交流を図る活動
 - 社会連携：社会貢献活動（理科工作教室）等を通じた、社会と関わる活動

委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長
				
新洲大輔	小林強志	双和祥二	岡野弘典	田中健

そして、支えてくれる委員・委員補佐の皆様。

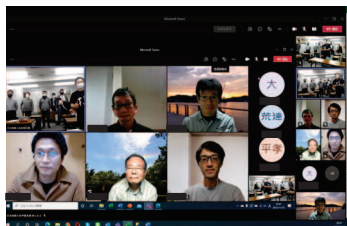


例会活動

- オンライン中心ながらも、おかげさまで、毎月欠かさず開催。
- 2022年3月23日には、通算第200回目の例会を開催した。



ハイブリッド例会



オンライン例会

日時	内容
R3.4.10	第189回例会（運営会）
R3.5.12	第190回例会（デジタイゼーション）
R3.6.9	第191回例会（道路啓開）
R3.7.14	第192回例会（チームビルディング）
R3.8.11	第193回例会（建設コンサルタントのDX）
R3.9.8	第194回例会（自転車イベント事例）
R3.10.13	第195回例会（野生生物保護）
R3.11.10	第196回例会（創業事例近況報告）
R3.12.11	第197回例会（統計学）
R4.1.12	第198回例会（水平思考）
R4.2.9	第199回例会（研究開発事例紹介）
R4.3.23	第200回例会（水平思考実践編）

研鑽・交流活動

- オンライン中国大会
 - 中国5県のメンバーがオンラインで集まり、各県の活動報告およびクイズによる交流実施。
- 朝活
 - 英語朝活では、隔月に1回ペースで、英語スピーチクラブを開催。
 - DX朝活では、青技交に関する事務作業のDXを図るべく、主にpythonを用いたプログラミング、作業改善等を目的にオンラインで勉強会を開催。



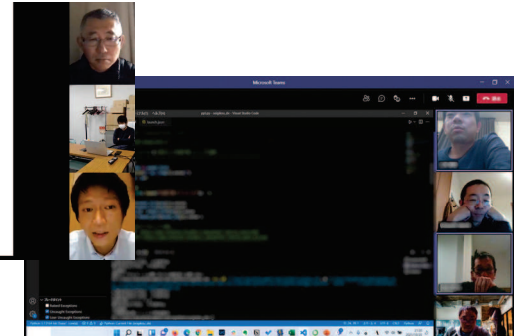
オンライン中国大会

Methods in Production Control

- TPS(Toyota Production System)
- TOC(Theory of Constraint)
- Lean product system
- Six Sigma



QRM is not appeared in textbooks
written in Japanese



英語朝活（左）とDX朝活（右）

社会連携活動

- 広島市の市民アカデミー事業「企業・団体との連携講座」として、公民館等と連携し、理科工作教室を、7月と11月に、延べ3回開催
- テーマは「テンセグリティ」
 - 子どもたちにも実際にテンセグリティモデルを作ってもらおう。
 - テンセグリティ構造の椅子に座ってもらい、テンセグリティを体験してもらった。



【令和3年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

★活動目的

四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、会員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としての職能を地域社会に幅広く浸透させ、技術士の地位向上を果たすこと。

★活動方針

- 【方針1】 青年技術士としての幅広い能力向上
- 【方針2】 四国地域の青年技術士相互の交流
- 【方針3】 地域との交流を通じた社会貢献

【活動方針1：青年技術士としての幅広い能力向上】

- 四国4県の特徴を活かしたセミナー・見学会を開催
- 科学分野だけでなく地域の文化に触れる内容も実施

1) 高知 (2021. 4. 17実施：会場＋オンライン方式)

テーマ：『カツオ、あなたが知っているのはその味だけですか？
ーカツオ、カツオ言うたち、おまさんら知っちゃうかよー』
講 師：高知新聞社 記者 八田大輔 氏

2) 香川 (2021. 7. 31実施：オンライン方式)

テーマ：オンラインテクノツアー『香川県を支える水源地域とインフラ』
講 師：青年委員 白鳥実、谷野宮竜浩

3) 愛媛 (2021. 11. 13実施：会場＋オンライン方式)

テーマ：『道後温泉の活性化について～百年輝き続ける最古の湯 道後～』
講 師：松山市産業経済部道後温泉事務所 活性化担当課長 山下勝義 氏

4) 徳島 (2022. 1. 22実施：会場＋オンライン方式)

テーマ：『南海トラフで発生する地震と津波の特徴』
講 師：徳島大学大学院リソテックサイエンス研究部 教授 馬場俊孝 氏



【令和3年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

①講演内容を踏まえた現地動画の配信

『香川県を支える水源地域とインフラ』では、委員が講師となり、専門とする技術部門に関する説明や関係者への取材を行い、オンラインでのテクノツアーの実施を試みた。実際には、移動も含めると8時間に渡るツアーになる内容を、2時間程度に編集し、ドキュメンタリー映像としてイベント時に配信した。なお、映像の画質低下や再生時のカクツキ等を防ぐため、配信時にはYoutubeのアドレスをチャットで共有し、各自の端末からYoutube上の映像を再生していただく方法を採用した。

『道後温泉の活性化について～百年輝き続ける最古の湯 道後～』では、講演会後に現地見学会を実施した。オンライン参加者は講演会のみでの参加となったが、当日の見学会を映像編集し、同様にYoutube上に限定公開し、オンライン参加者にも後日に映像を配信した。

これらの配信映像は、現在もYoutube上に限定公開として保存しており、URLを知る関係者に限ってはいいつでも閲覧可能な状態としている。これにより、若手会員等の技術研鑽に、今後も有効活用できるようにしている。

②地域の特徴や文化に関するイベント内容の企画

四国4県で開催する条件を活かし、それぞれの地域特性を踏まえた内容を企画した。令和3年度には、カツオを題材とした高知イベント、香川の水事情を深掘りした企画、愛媛の主要観光地での取り組みの紹介、徳島など四国の太平洋側で特に懸念されている津波に関する研究事例を取り上げた。

②少人数での交流の再開

オンライン方式のみでなく、開催地のみに限り、少人数で集合できる会場を設けて実施した。これにより、講師の方からも「少しでも受講者の表情がわかり、発表しやすかった」と、好評であった。また、少人数ながらも対面での交流を再開でき、委員内でも好評を得ている。



【令和3年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

【活動方針2：四国地域の青年技術士相互の交流】

- 四国各県でのイベント開催時には、開催地に限り少人数での集合形式を採用し、対面での交流を再開。
- ただし、イベント後の懇親会は未実施。

【活動方針3：地域との交流を通じた社会貢献】

- これまでは、子供向け科学体験フェスティバルへの出展を通じて、技術士の知名度向上や科学を志す若手育成を実施。
- 近年は、地域の特徴や文化を踏まえた内容を取り上げるとともに、参加者からのご意見等を講演者にフィードバックし、社会貢献に役立てようとした。
- 今後は、現在の情勢でも実施可能な社会貢献活動を模索していく必要がある。

【構成メンバー(2022.06.06時点：21名)】

委員長：白鳥実

副委員長：佐藤悦史、中根久幸

委員：池田一郎、池谷聖、伊東輝博、太田昌秀、大西真人、
岡林弘憲、片岡寛志、黒川修吾、谷野宮竜浩、土居範昭、
長田朋大、西沢尚之、西村紘寛、東豊一、松田秀和、中村希久帆

委員補佐：瀬戸丸仁、武市信



令和4年5月14日開催イベントでの会場の様子（開催地のメンバーを中心とした少人数で集合し、交流を再開）



平成31年度の科学体験フェスティバルの様子（令和元年からは未実施）



【令和4年度】活動予定

令和4年	4月	
	5月	5月14日 第31回青年技術士交流会（会場＋オンライン方式） （実施済み）
	6月	
	7月	
	8月	8月 第32回青年技術士交流会（会場＋オンライン方式？） （地域の魅力を発信することで、その地域への社会貢献を目指す企画を検討中）
	9月	
	10月	
	11月	11月 第33回青年技術士交流会（会場＋オンライン方式？）
	12月	
令和4年	1月	
	2月	
	3月	

※ その他、四国本部の他委員会の活動に協力・参加し、部門や年代を縦断・横断した交流を図る。



九州本部 青年技術士交流委員会の活動紹介

2021年度活動報告



松永前委員長

(写真はFacebookより)



2021年7月 交代！
ようやく1年目。



山田委員長

九州本部 青年技術士交流委員会の活動紹介

2021年度活動報告



合格祝賀CPD・懇親会(研鑽G/交流G)



- ・昨年に引き続き、Webの併用
- ・「つながり」を意識すれば世界が変わる
福島大輔博士ら 3 講演
- ・コロナ対策を講じつつ、
3年ぶりの懇親会開催
→ リアルの良さを再確認



大学講演(普及G)



- ・大学/高専 4 校にて、技術士制度の説明会
- ・Web/オンラインを併用（もはや「例年通り」）

九州本部 青年技術士交流委員会の活動紹介

2021年度活動報告



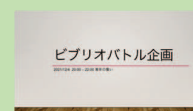
定例会



2021年度も、ずっとこんな絵でした……

望年会(交流G)

- ・前年に引き続き、オンライン開催
- ・ビンゴやビブリオバトルなど
- ・（リアル開催への渴望……）



新規メンバーへの告知／勧誘

- ・コロナ禍による、技術士／修習技術者との接触機会の低下
- ・オンライン方式でのイベント開催だけでは新規メンバー獲得に繋がらないという危機感
- ・「技術士だより九州」に広告出稿
→ 参加の問い合わせ増加へ繋がった

九州本部 青年技術士交流委員会の活動紹介

2022年度の活動体制



役割	氏名	部門	備考
委員長	山田 暁通	情報工学	
副委員長	永岩 研一	建設	
副委員長	松永 貴寛	金属、機械	老兵蘇る！
研鑽グループ幹事	渡辺 剛	機械	
普及グループ幹事	大森 和範	機械、環境	
交流グループ幹事	大川 至	建設	
	倉成 真一	情報工学	New
	古賀 忠直	建設、総合技術監理	
	首藤 久宣	機械	
	松原 恭博	建設	
	上村 昌巳	機械	
	能勢 彩美	森林(修)	
	吉原 育広	電気電子(修)	New

告知の件もあり、「新規合格者だより」だった新規メンバー加入が復調
→ リアルでの交流をそろそろ活発化させ、新しいことをやっていきたい

活動年鑑 17
青年技術士支援委員会